

特定非営利活動法人

VOL.49

南国暮らしの会

2010年 夏・秋季号



平成22年8月29日



登録第4810100号
(REGISTRATION NUMBER)

NPO法人 南国暮らしの会

南国暮らしの会

(2010年 夏・秋季号)

目次

(敬称略)

ページ

平成 22 年度総会案内

理事長就任の挨拶	No. 732	馬場 章介	1
理事長退任の挨拶	No. 712	高田 勝弘	2
平成 22 年度通常総会議事録			3
平成 22 年度役員会・支部長会議事録			5
平成 22 年度役員・業務分担表			7
平成 22 年度委員会の構成表			8

台湾特集

台湾ロングステイ情報	No. 619	鈴木 幸男	9
台湾礼賛の記	No. 591	神原 克收	17
台中生活をエンジョイしよう!	No. 3	池田徳三郎	21

一般投稿

中国経済に対する日本人の関心	No. 922	樫尾 隆之	33
中国・桂林長期滞在視察旅行		視察旅行参加者一同	39
コタキナバルで日本語ボランティア	No. 208	小林 明広	43
南米の旅②(ペルー、ボリビア編)	No. 40	平澤 信	44
アメリカ長距離周遊と特筆3題	No. 957	谷澤 誠一	56

支部便り

関西支部便り	No. 891	徳永 卓雄	67
東海支部便り	No. 543	清水 重一	68
ペナン支部便り	No.1020	松下 茂	68
関東甲信越支部便り	No.1125	佐々木一信	69
九州支部便り	No. 581	朝永 清壽	70
北海道支部便り	No.1009	佐藤 治巳	71
歴史は古い日本との関係	No. 227	斎木 一	72

部会伝言板

友好団体紹介コーナー			73
------------	--	--	----

編集後記

南国暮らしの会 支部一覧			74
--------------	--	--	----

写真提供

			74
--	--	--	----

理事長就任の挨拶

南国暮らしの会 理事長 No.732 馬場 章介

このたび高田理事長の後任として世話役を申し付けられました
会員番号732番の馬場章介と申します。「楽しく、仲良く、情
報交換」できますよう理事一同と力を合わせて役割を果たしてい
きたいと思っておりますので宜しくお願い申し上げます。



思い起こしますと入会して7年目になりますが、入会当時は海
外でのLSにつきまして何も知識がありませんでした。しかし、
この会に入会したお陰で会の諸先輩方からいろいろお役立ち情報
を教えていただき安全に楽しくLSを楽しむことができるようになりました。そして現地
でもいろいろ会員の方々に親切にして頂きまして、この会にはいろいろな場面で大変お
世話になり感謝いたしております。

さらに、昨年のNPO法人認証10周年の会報記念特集号を拝読し「この会の歴史」を
詳しく知りました。そして、この会をここまで運営、発展させてきた諸先輩方のご苦勞
を改めて知りました。これからはお世話になったお返しを少しでもできればと言う思い
で、今回この世話役を引き受ける決断を致しました。

皆さんご存知のように今回ベテランの理事の方が多数任期満了で退任されます。私も
含め新理事の方々も不安で一杯です。

このような新世話役のメンバーですので至らない点が出てくるかも知れませんが、今
後この会の維持、発展に理事一同全力を尽くしますので皆様の暖かいご指導とご協力を
頂きますよう重ねてお願い申し上げます。

そして皆さんと一緒に、会員がお世話になっているロングステイ地の各国の人々にも
感謝をこめて、「小さなことでも何かできること」をお世話できるよう心がけていきたく
と考えております。

最後になりますが、前期の高田理事長はじめ理事、役員の方々には長い間のお役目ご苦
勞様でした。本当に長い間会のお世話を有難うございました。いろいろご苦勞もあつた
ことと思いますが肩の荷を降ろしていただいてゆっくりLSを楽しんでいただければと思
います。そして今後も我々未熟な新しい理事へのご指導を宜しくお願い申し上げまして
挨拶とさせていただきます。

平成22年5月30日

理事長退任の挨拶

南国暮らしの会 前理事長 No.712 高田 勝弘

2010年度を終え、二年間勤めさせて頂きました理事長を退任致しましたので、一言ご挨拶申し上げます。

この間、会運営にあたり理事及び役員の方々、又各支部長、支部役員の方々には多大なご協力を頂き、会員の皆様には大変お世話になり有難うございました。

心よりお礼申し上げます。

理事長就任の折には、ただ会に対する報恩感謝の気持ちと、少しは会員の皆様のお役に立てればと思い、期間中10周年を迎え、会の一つの節目を迎える事になりますので、次の新しい会の発展の繋ぎの役を果たせばとの思いで理事長をお引き受け致しました。

皆様のお陰で、先ずは懸案の三年越しの裁判も和解と云う形で終了し、更に10周年記念も無事開催する事が出来ました。

従いまして、私の理事長としての役目は一応目的通り果たせかなと思っております。

私達の会は全会員が正会員という立場で平等である事は周知の事ですが、その中で、何らかの会の役をお引受けすると、会員の為にボランティア活動する事になります。

お互いに同等な立場でありながら、お世話する立場とお世話される立場へと変化するわけで、ここに当会の役員の大変さがあると思います。又同時に全会員がお世話する立場になる義務が有るのではないかと思います。

この事を認識して頂ければ必然的に、会員は会に感謝の念を持つ事になり、又ご自分も何時か機会があれば、お世話する立場になる場合にもなるとお考え頂けるのではないのでしょうか。

約七年間理事という大任を遣らせて頂いて、これが今日、一般会員になる立場になった私の偽らざる感想です。

そして、馬場理事長を中心にこの度、理事に残られた方々、新理事に成られた方々に感謝すると共に、次の時代の会の新しい構築に邁進して頂けることに期待し、私の退任の挨拶とさせて頂きます。



特定非営利活動法人南国暮らしの会 平成22年度通常総会議事録

1. 日 時 : 平成22年5月30日(日) 午前10時00分から11時30分まで
2. 場 所 : 東京都品川区大崎1-11-1 東京都大崎労政事務所・南部労政会館
3. 正会員総数: 547名
4. 出席者数 : 353名(内、総会出席者48名、書面表決者305名)
5. 審議事項 :
 - (1) 第一号議案 平成21年度事業報告及び決算報告・監査報告について
 - (2) 第二号議案 監事任期満了に伴う監事の選任について
 - (3) 第三号議案 理事任期満了に伴う理事会の選任理事の選任について
 - (4) 第四号議案 平成22年度事業計画案及び予算案について
6. 議事の経過の概要及び議決の結果

司会の小林理事は、今総会の表決権所持会員数が547名であり、出席者48名、委任状305名であることから定款第26条により本日の通常総会が成立することを説明し、定款第25条の規定により議長として会員工藤俊一氏(北海道支部長)を推薦し、満場一致で議長に選ばれた。

議長は開会を宣言し、まず審議の進め方の説明を行い、引き続き議案の審議に入った。

議 案

第一号議案 平成21年度事業報告及び決算報告・監査報告について

高田理事長が平成21年度事業報告書に基づき、詳細な事業報告を行った。次いで渡辺理事が同年度の会計収支計算書、貸借対照表に基づき詳細な決算報告を行った。最後に鈴木・金子監事から、当会は同定款等に基づき適切に運営され、収支計算書等はいずれも正確である旨の報告が監査報告書に基づき行われた。議長は第一号議案について賛否を諮り、満場一致にて承認された。(書面表決者含む)

第二号議案 監事任期満了に伴う監事の選任について

高田理事長から監事3名が第6回理事会において推薦されたとの説明がなされた。議長はその賛否を諮り、満場一致にて承認され選任された。(書面表決者含む)

新任監事: 高田勝弘 重任監事: 鈴木剛、金子良三

第三号議案 理事任期満了に伴う理事会の選任理事の選任について

高田理事長から重任理事4名と新理事13名が第6回理事会において選任されたとの説明がなされた。

議長はその賛否を諮り、満場一致にて承認され選任された。(書面表決者含む)

新任理事: 加藤久子、青木方子、小松勝正、岩井文哉、光城保之、山田美弥子、肥後憲尚、宇田秀樹、永島和雄、長谷川愈晃、高橋眞治、吉野正博、木村秀男

重任理事: 馬場章介、山科滋雄、佐々木一信、大塚眞一

第四号議案 平成22年度事業計画案及び予算案について

平成22年度の事業計画書案および会計収支予算書案に基づき詳細な説明を馬場理事が行った。

議長は同予算案等について賛否を諮り、満場一致にて承認された。(書面表決者含む)

その他

1. 馬場新理事長より平成22年度理事業務分担及び理事の紹介があった。

7. 議事録署名人の選任に関する事項

議長は本日の総会における議案の総てが終了したことを告げ、本日の議事をまとめるに当たり、総会議事録署名人として小林孝理事を選任することを諮り全員異議なく承認した。

議長は議事の進行に関し出席者の協力を謝し、閉会を宣した。

以上、この議事録が正確であることを証します。

平成22年5月30日

議長 工藤 俊一 ⑩
議事録署名人 小林 孝 ⑩



平成22年度南国暮らしの会 役員会・支部長会議事録

日時：平成22年5月29日（土）13：30～16：30

場所：東京都南部労政会館 第四会議室

出席者：高田理事長（NO.712）、渡辺理事（NO.60）、大野理事（NO.434）、小林理事（NO.462）、橋本理事（NO.465）、細田理事（NO.470）、今野理事（NO.670）、馬場理事（NO.732）、勝本理事（NO.888）、島林理事（NO.900）、山科理事（NO.1068）、佐々木理事（NO.1125）、大塚理事（NO.1256）

齊藤監事（NO.22）、鈴木監事（NO.315）、金子監事（NO.512）、

宮崎相談役（NO.163）、磯崎顧問（NO.586）、

次期理事：加藤久子氏（NO.489）、小松勝正氏（NO.750）、永島和雄氏（NO.1161）、長谷川愈晃氏（NO.1178）、高橋眞治氏（NO.1225）、木村秀男氏（NO.1361）、

工藤俊一北海道支部長（NO.625）、見神俊男東北副支部長（NO.778）、清水重一東海支部長（NO.543）、

徳永卓雄関西支部長（NO.891）、稲田聰九州支部長（NO.851）

今野支部推進部会長の司会進行で、役員会開催の挨拶があり、議事進行の前に、今年度（平成21年度）に亡くなられた、木村義光ペナン元支部長、高橋実理事、竹村毅俊初代九州支部長を追悼する為、宮崎相談役から竹村初代九州支部長や木村ペナン初代支部長との思い出を話して頂いたのち、出席者一同、起立して黙祷しました。

次に、議題に入った。

①理事・監事 自己紹介

今年度退任する高田理事長の挨拶から始まり、小林理事、橋本理事、今野理事、渡辺理事、勝本理事、島林理事、細田理事、大野理事、その後、磯崎顧問、齊藤監事の自己紹介があった。そして、齊藤監事の後任に高田理事が就任することが理事会で承認されたことの報告があった。次に、重任理事の馬場新理事長の挨拶、大塚理事、山科理事、留任監事の鈴木監事、金子監事の自己紹介があった。

次期理事の加藤理事、小松理事、永島理事、長谷川理事、高橋理事、木村理事の挨拶があった。

②各支部長自己紹介

工藤北海道支部長、見神東北副支部長、佐々木関東甲信越支部長（新任）、清水東海支部長、徳永関西支部長、稲田九州支部長の自己紹介があった。

支部総会后、支部長交代があるとの報告があった。

③22年度業務分担

馬場新理事長から、22年度の役員の業務分担の説明があり、今年度から、支部推進部会と厚生部会は総務部会に統合となった。各部会の業務分担は、以下のとおりです。

凡例 ◎：部会長、○：副部会長

理事長 732 馬場 章介

副理事長 1256 大塚 眞一

総務部会 ◎1256 大塚 眞一 ○1108 山田 美弥子 489 加藤 久子 1068 山科 滋雄
1156 宇田 秀樹 1161 永島 和雄 1361 木村 秀男

経理部会 ◎755 岩井 文哉 ○1361 木村 秀男

会報部会 ◎1125 佐々木 一信 ○750 小松 勝正 513 青木 方子 1017 光城 保之
1230 吉野 正博

広報部会 ◎1068 山科 滋雄 ○1118 肥後 憲尚 489 加藤 久子

ML部会 ◎1178 長谷川 愈晃 ○1225 高橋 眞治 1161 永島 和雄

会員部会 ◎1230 吉野 正博 ○750 小松 勝正 1118 肥後 憲尚

監事 315 鈴木 剛 512 金子 良三 712 高田 勝弘
相談役 24 酒匂 景輝 163 宮崎 哲郎
顧問 462 小林 孝 465 橋本 慧

④ 22年度事業計画

馬場新理事長から、22年度の事業計画の説明があった。(会報2010年春季号の11頁参照)

ML委員でもある工藤北海道支部長から、現在、会員の入会申込みを文書でやりとりしているが、フォーマットを作成して、パソコンのメール添付でのやりとりをした方が送料の節約になるのでは、との提案があったが未だPCを活用していない入会者もいるので検討課題とした。

⑤ 総会について

会報2010年春季号の1頁を参照し、説明は割愛となった。

⑥ 南の会の現状

高田理事長から「南の会」の現在の状況の報告が以下のようにあった。

* 会員動向・・・毎年、100名ほどの入会者で、退会する会員も100名ほど

* 会費だけで運営している会なので、事務所も持たなくて、理事の自宅、宮崎相談役の自宅を連絡先にさせて頂いて迷惑を掛けているのが現状である。

⑦ 各支部HP委員の選定

今野支部推進部会長から、各支部に1名、HP委員を選定してもらいたいとの要請が各支部長へあり、肥後新理事(支部推進委員会)あてに連絡することになった。

⑧ 支部活動報告・・・(詳しくは、2010年会報春季号の5～6ページを参照)

北海道支部 年2回の役員会を開催、そのほか、サロン会&懇親会を4回実施。

10月に10周年記念行事を開催。女性会員新年サロン会を開催

東北支部 昨年、9月に10周年記念サロン会を開催(9名参加)

サロン会の開催は2桁回数を目指す。

関東甲信越支部 サロン会&懇親会を11回開催。参加総人数673名

プロジェクターを導入。10周年記念サロン会を10月に開催。

パソコン教室、テニス同好会、クルーズ同好会では、エーゲ海クルーズを実施(19名参加)。桂林ロング・ステイ下見ツアーを実施(14名参加)

バギオ・パンガシナン支部エリアの災害の義援金活動

タイ義肢財団への使用済みパンスト収集提供活動

東海支部 サロン会&懇親会を11回、平日サロン会を10回開催。

タイ観光庁依頼に応じパネラーとして会員代表が参加(7月)

10周年記念行事を開催(11月)、台湾下見ツアー開催

ゴルフコンペ開催(2回)

関西支部 サロン会(例会)&懇親会を6回開催(参加総人数160名)

10周年記念行事開催(9月)、タイ国セミナーに参加

ハイキングやゴルフコンペ開催

九州支部 サロン会(例会)&懇親会を9回実施(参加総人数173名)

(理事長講演:4月、熊本など年に2回、熊本で開催)

チェンマイでミニサロン会実施(8月、11月)、10周年記念行事実施

(11月、台湾総領事を招き、記念講演を開催)

以上で役員会・支部長会を終了し、会場を変え懇親会を行なった。

平成22年度 役員・業務分担表

平成22年度5月30日現在

◇理事業務分担 凡例◎；部会長・○；副部会長・△；アドバイザー 業務を分割（テーマ、期間）して行う

部門担当	氏名	業務内容
I 理事長	732馬場 章介	・会総括代表・総会、臨時総会招集・現況情報収集・資産の管理 ・理事会、役員会招集・理事会議長・官庁関係資料の提出
II 副理事長	1256大塚 眞一	・理事長の補佐・理事長の事故又は欠けた場合は理事長の職務代行
*総務部会 (事務局)	◎1256大塚 眞一 ○1108山田 美弥子 489加藤 久子 1068山科 滋雄 1156宇田 秀樹 1161永島 和雄 1361木村 秀男	・定款(会則)等の改廃・日常運営案の作成・予算案の作成・官庁関係資料の作成 ・総会、例会、懇親会、催し等の企画及び実施、同会費徴収、テーマ策定 ・会場設定、運営、記録、発表、総会議事録作成・各委員会の纏めのチェック ・理事(役員)会テーマ策定資料・理事(役員)会招集実施(会場設定、運営管理、記録、発表)・理事(役員)会議事録作成・税務関係(法人税、資産税等々) ・支部統括・支部活動支援
*経理部会	◎755岩井 文哉 ○1361木村 秀男	・入会金、年会費徴収・一般収支・金銭出納記録・決算の事務 ・会費納入票回送
*会報部会	◎1125佐々木 一信 ○750小松 勝正 513青木 方子 1017光城 保之 1230吉野 正博	・会報等の原稿収集、編集、整理、校正、印刷、製本、発送 ・会員への情報提供及び会員からの情報収集 ・年3回(新年・春・夏)以上発行
*広報部会	◎1068山科 滋雄 ○1118肥後 憲尚 489加藤 久子	・「南国暮らしの会」ホームページ作成/修正/保守 ・他機関への投稿・新聞、雑誌等の関係情報収集 ・南の会の対外的広報活動・マスコミ取材窓口
*ML部会	◎1178長谷川 愈晃 ○1225高橋 眞治 1161永島 和雄	・メーリングリスト運営
*会員部会	◎1230吉野 正博 ○750小松 勝正 1118肥後 憲尚	・会員入退会・会費等の納入チェック・問合せ者の資料等の作成及び発送 ・会員名簿作成・南の会必携編集作成・問合せ向け「南の会」案内書編集作成 ・会員からの情報収集・会員証発行 ・会報等の送付先の掌握及び宛先シール作成(会報部会と連携)
監事	315鈴木 剛 512金子 良三 712高田 勝弘	・理事の業務執行状況の監査・この法人の財産の監査 ・定款に違反する重大な事実が発見されたら総会を招集し報告又は所轄庁に報告 ・理事会業務執行に対する会員苦情等の精査

注1 理事、監事の業務は本分担表に記載なき事項でも、本会定款に記載ある事項はこれを優先する。

注2 各業務担当理事は各部門の新年度事業計画及び予算申請を3月末までに行う。

相談役	24酒匂 景輝 163宮崎 哲郎	・会運営のキャリアを活かし理事長及び理事への支援・その他
顧問	462小林 孝 465橋本 慧	

◆業務についての問い合わせ

役員への業務に関する質問、問い合わせ、要望などは、ご自分の会員番号、氏名、メール・アドレスを明記の上原則、メールで下記あてにご連絡下さい。

なお、各担当役員はL S、旅行等で不在の場合があり、返事に時間がかかることがあります。予めご了承下さい。

問い合わせメール・アドレス：home@minaminokai.com

平成22年度 委員会の構成表

平成22年6月13日現在

- ◆委員会について (委員の委嘱状は発行しない。但し、この構成表が全会員に配付される。)
- ・部会は部会運営上の調査・研究等を委員会に委嘱することが出来る。
 - ・理事会は特別委員会を開設し特命事項を委嘱することが出来る。
特別委員会は、理事会委嘱の特命事項の調査、研究を行う。
 - ・委員会の委員長、副委員長は理事会に於いて選任し、長はその任を遂行する。
 - ・委員長、副委員長は理事が兼務し、当該部会に委員会の議事録にて経過報告を行う。
 - ・構成員は委員長に一任する。但し理事会にその構成員の報告を行う。
出来るだけ有識会員の意向も取り入れた 会発展に寄与する人選をする。
 - ・委員会は出来るだけ半年から一年以内に答申を行う。案件の答申は部会経由で総務部会にてチェック後、理事会に諮り、決定後は当該部会にて業務を遂行する。
但し、単発的な案件は理事会決定後、実行委員会にて業務の遂行を行う事もある。
 - ・特別委員会の委員長はその答申を理事会に提出する。決定は理事会に委ねる。

◇委員会及び構成員 凡例：◎委員長 ○副委員長 *理事以外

総務委員会	◎1256大塚 眞一 ○1068山科 滋雄 489加藤 久子 1225高橋 眞治 *462小林 孝 *465橋本 慧 *1047関口 幹二
規定・必携編集委員会	◎1108山田 美弥子 ○732馬場 章介 *465橋本 慧
支部推進委員会	◎1161永島 和雄 ○1361木村 秀男 *670今野 力男
経理委員会	◎ 755岩井 文哉 ○1361木村 秀男 *434大野 悦子
会報編集委員会	◎1125佐々木 一信 ○ 750小松 勝正 513青木 方子 1017光城 保之 1230吉野 正博 *470細田 良子 *1309青木 一義 *1041中西 岩夫 *1067手石方 了成
広報委員会	◎1068山科 滋雄 ○ 489加藤 久子
HP委員会	◎1118肥後 憲尚 ○ 1108山田 美弥子 *996歌田 晃一 *1391十河 和夫 各支部より1名
ML委員会	◎1178長谷川 愈晃 ○1225高橋 眞治 1161永島 和雄 *80阿部 功 *625工藤 俊一 *111堀江 幸博
会員担当委員会	◎1230吉野 正博 ○ 750小松 勝正 1118肥後 憲尚 *923永田 隼人
特別委員会	事業拡張調査委員会：都度任命
	苦情処理委員会：都度任命
国内支部	九州支部長 851稲田 聰→581朝永 清壽 関西支部長 891徳永 卓雄 東海支部長 543清水 重一 関東甲信越支部長 1125佐々木 一信 東北支部長 498氏家 孝 北海道支部長 625工藤 俊一→1009佐藤 治巳
海外支部	マニラ支部長代行 1269岩崎 宏 バンコク支部長 空席 セブ支部長代行 636鶴岡 照郎 チェンマイ支部長 54山口 洋二 バギオ・パンガシナン支部長 227斎木 一 ダバオ支部長 空席 パース支部長 空席 ペナン支部長 1020松下 茂 GC支部長代行 586磯崎 興志 KL支部長 1050野村 晃正 ハワイ支部長 699大黒 均

台 湾 特 集

台湾ロングステイ情報

関東甲信越支部 No.619 鈴木 幸男

〔1〕LS滞在地としての魅力と欠点

1. 世界中でも最も親日的な国民の居る国です。特に北部より南部台湾の方が親日的な台湾人が多い。80歳以上の方々は殆ど日本語を理解いたします。

若い人の間でも日本語熱は高く、通じる事が多いです。日本は断トツの好感度国として、人口2300万人の台湾で常に60%弱の支持率があります。2番目は米国で20%台です。嫌いな国は意外と中国です。公共施設では英語も通じますが、田舎に行った場合は殆ど台湾語（福建語の一つミン南語）か北京語です。日本と同じ漢字の国で有り、中国の「簡体字」と違い日本の漢字に近い「繁体字」なので筆談はもちろん通じますので心配は要りません。

私のLSは、現地で出来るだけ日本人同士で固まらず現地の方々と仲良くなるという事が主題なのでそのとおりにやっておりますが、台湾の場合はその条件の整った数少ない国だと思います。

2. 治安は「台北」など大都市の一部を除くと、日本より安全であると思うが、あくまでも外国で有るので自己責任の注意は当然必要です。田舎の台湾人は見てくれも(?)悪いし言葉も乱暴ですが、気持ちの良い人達ばかりです。台湾には日本と同じように「交番(派出所)」が有りますので何かの時には頼りに成ります。台湾の警察官は大変親切です。

3. 食事は、世界中の食べ物が集まっている所ですが、台湾料理も日本人には大変口に合う料理だと思います。日本時代が50年間有りましたので、刺身や寿司や日本料理も普通に何処の田舎の街に行っても有ります。但し日本とは異なる

ものと言う物も有りますが、それもお愛嬌かと思えます。特に「東港」と言う港で上がる「本マグロ」は最高です。

4. 気候的には、中央を北回帰線が横断していますので、その北側は「亜熱帯気候」、南側は「熱帯気候」に成り、台中以南の夏は相当の暑さに成ります。

時期的には11月から2月位までが過ごし易いと思われれます。台湾は高さ3000m級の山々が連なる中央山脈が縦断していますので、高地では夏でも過ごし易い場所も有ります。東南アジアの様にははっきりした雨季乾季は体感出来ませんが、秋の台風時期には2~3個の大きな台風に見舞われる事が有ります。その為に山間部に有る温泉などへ、その時期に行く時には注意が必要です。

夏は暑いですが、トロピカルフルーツが目的の方には最高の時期です。

1月から2月に掛けては、10度以下に気温が下がる事が有りますので、その時期はその用意も必要でしょう。

他のアジアの国と同じ様に夏の帽子と日傘、冬でも以外に効いている冷房に対する準備も必要です。

〔2〕宿泊施設

1. 台湾でのLS滞在施設は、満足が行くほど整備されては居ません。LS用としては「台湾龍遇寿庭協会」が用意した施設以外は自分で探さなければ成りませんので難しいです。今のところ協会斡旋の施設は「台中市」「桃園県亀山」「南投県埔里鎮」と協会の花蓮支部の紹介するコンドミニウムなどしか有りません。

市中の不動産屋にも当たってみました。外人には貸したくないようでそのシステムも出来ていません。個人的に借りる場合に個別の交渉が必要です。

賃貸契約は1～2年契約が殆どで、短期の賃貸契約は極少ない。

台北などには駐在員や長期出張者用のアパートや貸しマンションなどが有りますし、日本の不動産業者の支店も有りますので交渉して見て下さい。私は個人的に知り合った方々の協力でマンションや民宿をお借りする事が有りますが、言葉の問題も有り誰もが出来る物では有りませんし、後でのトラブルに成る恐れも有りますので余りお勧めは出来ません。台湾人の友人を作り、その方をお願いするのが一番と思います。ホテルでも探せば1ヶ月単位で安く泊まれる所も有りますのでそれらを利用するのも良いでしょう。

費用的には、ホテル：18000円位/月～
 民宿 ：24000円位/月～
 コンド：45000円位/月～
ですが、日本人が納得出来る施設は、7.5万円/月位から15万円位で借りられます。

私が、「台湾L Sツアー」を主催してお連れしたのが台中市内に有るコンドミニウム「台中振英会館」です。此方は、元弁護士のオーナーさんがL Sの為に立てたコンドなので長期滞在には何の不自由も有りません。

オーナーさんも日本人に貸したいという強い気持ちも有りますので、勤務しているスタッフの方々もよく教育されています。滞在費は1ヶ月25000円で、別途光熱費が掛かります。今のところ此処が私のお勧めです。

このほか日本人が借り易い滞在施設としては南投県に有る「埔里」と言う町に数件有ります。



〔3〕お勧め観光や楽しみ方

1. 観光等

台湾は小さな島国ですが、見所は沢山有ります。歴史的にも未だ400年ほどしか目立った歴史としては有りませんが、日本時代50年の歴史などをとっても、それら見て周ると大変興味深いものがあります。又、台湾の方々の日本時代への愛着などが、その当時の建物や施設や名所旧跡の保存に対しての尽力から汲み取れます。100年も前の建物などが未だに現役として利用されています。台湾のライフラインやダム、水路、農業、鉄道、道路など、日本時代に作られたものが殆どで、台湾の方々はそれを承知して未だに感謝され、尽力された方の慰霊祭なども各地で毎年行われておりますし、英雄として神様になっている日本人も沢山居ます。それらを見ながら地元の方々と交流をするだけで他の国のL Sとは違ったL Sライフを楽しめるでしょう。何も難しいことは有りません。日本人であると言う事を名乗るだけで必然的に親しくなれます。



北台湾の「台北市」の「故宮博物館」を始め、中部台湾の山岳地帯や「日月潭」「台中市」、南部台湾の「高雄市」や「墾丁公園」、東台湾の「台東市」「花蓮市」「タロコ溪谷」等々沢山の見所が有ります。その他にも、あちこちのどんな小さな町でも見所は沢山有りますので、何度か行ってじっくりと回ってほしいと思います。鉄道運賃も日本に比べると大変安いので小旅行時に利用されると良いと思います。車の運転は右側通行の上運転マナーも悪く乱暴な為にお勧めはしません。国際免許証は台湾が加盟していない為使用する事は出来ませんが、日本の「JAF」の各出先や、日本の大使館の代わりに成る「交流協会」の台北事務所と、高雄事務所で許可証を発行してくれますのでどうしても運転したい方は申し込んで下さい。料金が3500円位掛かります。それよりもバス代が大変安いのでそ

れを利用したほうが良いでしょう。ホテルもピンからキリまで有りますが、日本に比べると大変安く利用できます。一部を除いては、日本のホテルの様な送迎の便宜などは有りませんので注意が必要です。

温泉ホテルなどではキャンセルが多い為多額の予約金を請求される事がありますので、個人の場合は現地へ行って交渉したほうが良いでしょう。

台湾は北から南まで日本と同じように温泉が沢山有ります。但し台湾では温泉と言うよりプールや「健康ランド」感覚なので水着着用が原則です。温泉宿には日本式の裸で入浴を売り物にしている所も有りますし、頼めば個室貸し切りも可能です。有名な所では、北部の「北投温泉」、中部の「廬山温泉」南部の「関仔嶺温泉」や「四重溪温泉」、東部の「知本温泉」などが有名です。



2. スポーツ・趣味・習い事

ゴルフ場は沢山有りますが、料金は安いとは言えません。スルーで1ラウンド1500元～

4000元程掛かりますが、曜日によって（月曜が多い）割引制度が有るゴルフ場が殆どなので現地で調べて見て下さい。

ゴルフ場は南北西に多く東や中部山岳部には余りありません。テニスも盛んでコートも沢山有りますので地元の方に相談するか、直にコートに行って仲間に入れてもらおうと良いでしょう。ほぼ間違いなくプレーさせて貰えます。

「太極拳」や踊り等も朝公園などで盛んにやっていますし、これも参加は可能です。そこで友人を見つけるのも良いでしょう。珍しい所では公園で朝「カラオケ」をやっている所も有ります。出張カラオケ屋さんがトラックでスピーカーと機械を積んできて歌わせて貰えますが、これは



有料です。最近ほうるさいので禁止になっているところも有る様です。台湾のカラオケは歌を聞かせると言うよりも、大声を出してストレスを発散していると言った方があっているかも知れませんね。

ダイビングは台湾のハワイと言われる「墾丁公園」などで盛んですが、バーシー海峡は流れも有るし鮫も多いので注意が肝心でしょう。各地にダイビングショップが有りますので、興味のある方はお聞きに成ったら良いでしょう。

社交ダンスも盛んでダンスホールなどもあちこちに有ります。

中国語などの勉強も出来ますが、簡単な会話は「台中振英会館」ならスタッフが教えてくれます。又、本格的には大学などで中国語教室が有ります。「埔里」と言う町では個人レッスンもOKです。1時間300元位だそうですが、何名かで受ければ安いでしょう。町には、日・英語の看板が沢山出ています。日本語は日本語で、英語は米国の事です。ちなみにアメリカ合衆国は、米国では無く美国と言います。



3. コミュニケーション

私は、原則余り現地で日本人とお付き合いはしない様にしていますので現地にどの様な日本人が住んでいるか滞在しているのか分かりません。現地の日本人でも一部LSに理解があり色々世話を焼いてくれる方は居ます。それより現地の台湾の方々とは知り合いに成った方が良くと考えます。台湾にも「日本人会」の様な集まりが沢山有る様ですが、一部は駐在員など向けの集まりのようにも聞いております。有名無実の様な会も多い様です。日本人のロングステイヤーも、LSの会の仲間では今まで聞いた事は有りませんが、最近になって何人かの方々がステイしていると言う情報もお聞きしています。その方々も、私の様に連れ合いが台湾人だと言う方が殆どなので、日本人LSはまだまだこれからだと思います。隠れロングステイヤーも居るかもしれませんが、日本人同士というのは未だ知りません。「台湾ロングステイ」を発信しているのも私達が最初のような感じです。台湾の特徴として日本時代の方々が主体に成った交流会が全土に有ります。これは台湾人だけの会ではなく、台湾人と日本人の交流を主眼に置いた会で、台湾人の方々と、日本人で台湾生まれの「湾生」と言う方々と、現地の日本人で参加している方々も居ます。「湾生」もお年に成り、年々参加者が少なく成って会が消えてしまったり、参加者が減ってきたりしていますが、この様な会に参加して付き合いを広げるのが最善と思います。私も台中にある「台中会」に参加させて頂いております。此処の幹事の方が日本人なので色々



便利に利用させて頂いてますし、この会から交流の枠を広げさせて頂いております。「台中LSツアー」の催行時には皆さんをお連れして居りますが、その中で親しくなられた方々も居るようで、大変嬉しく思っています。

4. 地域のイベント

台湾ではどんな小さな町でも廟やお寺が有ります。そこで毎年盛大なお祭りが催されます。全土から信者や観光客が集まって来るお祭りも沢山有るのでそれを追っかけて見ても大変面白いと思います。日本のお祭りとは派手さが違いますが、大変にぎやかで楽しいものです。大きな廟では毎週のようにお祭りが有ります。と言うのも大きな廟にはそこから分かれた神様の分身が年に一度里帰りをする習慣があり、その度に分身先の地元の氏子が神様と一緒に来ます。特に沢山有るのは「媽祖」と言う女性の神様を祭った廟で、この神様は「福建省」の神様なのですが、本山によって幾派にも分かれています。その派毎に分廟が有るのでから台湾中では大変な数になります。一番多いのは分廟が600以上有るとの事です。そこが年に一回里帰りするのでからお祭りが多いのも当たり前です。本廟のお祭りにはそれらの分廟から神様が又集まりお祝いをします。台中の近くにある、「大甲」と言う町にある「鎮瀾宮」は、台湾中でも有名な「媽祖廟」で3月23日の「媽祖」の誕生日にはものすごい人出の賑わいに成ります。このほかにも沢山のお祭りが台湾中であります。有名な「ランタン祭り」も台湾中持ち回りで毎年



盛大に行われます。タイにも同じ様な「ランタンフェスティバル」が有りますね。

台湾は旧暦の正月「春節」がメインになります。「春節」には台湾中で民族大移動が有りますので、その時期にお出かけの時は注意が必要です。

毎年5月には「東港」と言う港町で「本マグロ（黒マグロ）祭り」も有ります。その他祭り事には事欠きません。



〔4〕生活

1. 物価と買い物事情

台湾の物価は、他の東南アジアの国に比べると安いとは言えませんが、食料品や医療、交通、宿などに関しては日本に比べて大変安いです。意外と高いのが衣料品や電気製品、PC用品です。ですから衣料品やパソコンの周辺機器は日本で買って持って行った方が良いでしょう。医療は日本人の場合は大学病院や高度の医療施設に行く事が多いので高めになるかもしれませんが一般の医者の場合は大変安いです。薬も安く血圧の降圧剤などは一般の薬局で処方箋なしで

購入できますし、安いです。

一般の食料品は日本と同じにスーパーへ買いに行く事も多いですが、現地では市場の利用をお勧めします。少ない量から購入できますし、新鮮で安い物が買えます。台湾の市場は「朝市」が普通で、昼までに殆どが閉まってしまう。数は少ないですが「黄昏市場」と言うのが有って、これはお昼2時か3時頃から開きますので日本人の習慣としては便利です。台湾には地元のスーパーの他に「カルフル」があちこちに有りますので生鮮食品以外はそこの方が品揃えが良いでしょう。日本の食品や調味料なども殆ど揃いますし、難しいものは三越やそごうの食料品売り場へ行くと大体の物は揃いますが、値段は日本での2～3倍位します。漬物用の「浅漬けの素」「七味唐辛子」「ネリ山葵」等は置いて無い所が多いです。

生鮮品は断然地元の市場がお勧めです。刺身なども市場の魚屋さんに必ず置いてありますが、魚の種類は大変少なく3～4種類位しか有りません。作るのが面倒な場合は惣菜屋さんでも沢山有りますし、自分で作るより安上がりかも知れ



ません。ご飯も食堂などでテイクアウトのご飯を分けてくれますのでこれも便利です。

弁当屋さんも沢山ありますので、弁当を買うと言う方法も有ります。弁当は50元位から有りますので私たちもよく利用します。

酒類はビールなどは安いですがワイン類は高めです。台湾ビールが350cc 1缶7~80円で、現地の日本酒が4合瓶で360円位です。ウイスキーはスコッチの台湾瓶詰め品が1000円ちょっと位で買えます。紹興酒は日本の半分くらいの値段です。

レストランなどは日本の半分くらいの値段では無いでしょうか。台湾には「小吃」と言ってスナック的な食べ物が多くそれらは大体50円位から食べる事が出来ますので、それらの麺類やご飯類を揃いで構って一杯に成ってしまいますので、食べ歩きも楽しいです。

各町には必ず夜市が有り沢山の屋台が出ます。曜日によって決まってる地域も有りますし、何時もやってる所も有ります。夜市は台湾の風物詩でも有り欠かせないものです。台中にも4箇所ほどの夜市が有り、毎日やっています。台北や台南、高雄にも有名な観光夜市が有ります。

日本食は高級ホテルのレストラン以外は期待に添えません。



2. お金

1ヶ月の生活費は、滞在先の部屋代にもよりますが、今までの経験では大体20万円から30万円くらいです。ゴルフをしょっちゅうやればこんなものでは済みませんが、温泉に1~2回ほど1泊くらいで行ったり、他の地区へ1

泊どまりで行ったりで有ればこの範囲で収まりますが、台湾も最近の東南アジアの他の国と同じ様にインフレ気味なのでこの通りには行かないかも知れませんのでご承知置き下さい。

両替ですが、円から台湾元への両替は「台湾銀行」又は「〇〇国際商業銀行」等であれば原則出来ません。他の銀行の場合には事前申請して登録が必要に成ります。国際キャッシュカードやクレジットカードなどの引き出しは街中のATMで対応出来ます。Cカードは田舎へ行くと殆ど使用出来ませんし、大きな病院でも対応してくれる所は大変少ないです。もちろんCカード付帯の医療保険もキャッシュレスでは対応してない所が殆どなので、事前に日本で対応出来る病院を把握しておく必要が有ると同時に領収書と診断書は必ず貰って下さい。

銀行口座の開設は出来ますが、利息とか税金上等を考えると何処にメリットが有るのか分かりません。

3. 交通機関

桃園空港から各地大都市には直行のバスが出ています。同じ目的地でもバス会社によって料金がえらく違う場合が多いので乗る前に確認して下さい。又、バス会社によって同じ行き先でも到着場所が違う場合も有りますのでそれも確認した方が良いでしょう。今度再開する事になった「台北松山空港」からはどうなってるかまだ分かりません。

新幹線も「高鉄桃園駅」から乗ることが出来ますし、在来線の「台鉄桃園駅」からは特急や各駅停車に乗れますが、台鉄の場合は「桃園駅」ではなく「中レキ駅」の方が近いでしょう。両駅まではバスが出ています。

鉄道運賃も65歳以上はシニア料金が有りますので、購入時に申請して下さい。

市内路線バスなどの利用にはプリペイドカードが大変便利です。台北市近辺、台中市近辺、台南市と高雄市近辺の地区でそれぞれ利用できるカードが有りますが、最も多く利用されているのは台北近辺の「遊々カード」です。将来的には全国このカードに統一されるのでは無いで

しょうか。購入は各カード会社の事務所か、コンビニにて購入可能です。デポジットに100元払い、後はプリペイドの金額を購入します。65歳以上はシニア料金（半票）で半額になりますが、コンビニでは購入出来ないのので事務所へ行く必要が有ります。台湾ではバスの利用価値は大きいですが、殆どお釣りをくれませんので小銭を持ち歩く煩わしさを考えるとカードは必帯だと思います。郊外では本数も少なく時間も当てになら無い場合が有りますので、バス停



の時間表の前後15分の狂いは覚悟した方が良いでしょう。

タクシーは、台北市など大都市の場合はメーターで走る事も有りますが、田舎では事前交渉に成ります。但し台湾の場合は、運ちゃん（台湾語でもこう言います）の言う金額で殆どメーターと違いませんので信用して結構です。ぼる事は台北等以外は殆ど有りません。道が分からなくて時間が掛かっても余計にくれとは言いません。運ちゃんは一見危なそうな人間に見えますが皆気さくで良い人です。

レンタカーはお勧めはしませんし、外人には貸したがります。大手の2~3社のレンタカー会社は貸してくれますが、高いです。駅の近辺に有る沢山のレンタカー・レンタバイク屋さんは大体、「ビッツ」クラスで1日1500元前後です。50ccのスクーターで1日300元位で借りられますが借りるのは難しいでしょう。

4. 医療事情

台湾の医療技術は日本と遜色有りません。日本の医師免許を持つる医者や、日本の大学の医学部を卒業している方も大変多いです。

台湾の大きな病院には必ずボランティアの案内の方が居ます。日本語を話す方も沢山入るし、若しその場に居なければ必ず探して連れて来てくれますので言葉の心配は少なく済みます。大きな大学病院の場合は、風邪を引いて診察して薬を貰って、大体日本円で2~3千円位なので日本と同じ位でしょうか。町医者の場合は何百円単位で済みますが、日本人はやはり大きな病院へ行くそうです。案内の人に頼めば薬だけの請求も出来ますので、その時は幾らか安くなります。漢方医（中医）や漢方薬屋（中薬）も沢山有りますので新薬がまずい方も大丈夫ですし、漢方薬やサプリメントも大変安く購入出来ます。又日本では医者の処方箋が必要な薬も一般売薬として購入出来る場合も有ります。

健康保険も整っています。外国人でも一定の条件を満たせば加入する事が出来ます。保険を利用すると初診料数百円で手術・入院・薬・健康診断・所定人間ドック等が殆ど無料同然で出

来るとの事ですが、ベツト差額代は掛かります。

5. 通信事情

台湾での携帯電話通信方式は「G S M方式」なので、それ様の携帯機器を持っていれば、S I Mカードの交換だけで通信出来ます。但し他の東南アジアの国より不正使用に關しての規制が厳しい為、S I Mカードとプリペイドカードの購入は簡単では有りません。一番良いのは桃園國際空港の携帯電話通信会社の窓口で購入する事です。街中で購入する場合には保証人や身分証明書を2種類以上必要など大変難しく成りますので、注意が必要です。その場合には滞在先のスタッフ等現地の方に頼んで購入して貰いましょう。

インターネット状況は良好です。光ファイバーは未だ少ないですが、殆ど全国にA D S L網が有ります。個人での申し込みは数社有りますが、台湾のN T Tの「中華電信」が一番大きいです。

大きな駅の構内では無料の無線ランに成っており、自由に使えますが、余り使ってるのを見た事は有りません。その他、図書館などの公共施設やファーストフード店でも利用可能です。大都市の街中にはネット喫茶の様な所も沢山有りますので、インターネット接続の心配は無いと思います。

郵便はハガキが国内2.5元、海外10元。封書は国内5元、海外13元です。速達はプラス30元です。

國際小荷物の送り方ですが、日本のヤマト運輸と台湾の統一企業が提携して日本と同じ車とユニフォームのクロネコヤマトが走っています。他に地元の運送会社の「大栄」や「新竹貨運」等の方がクロネコより遥かに安いです。

台湾から日本へ荷物を送る場合は郵便局の國際小荷物便を使いますが、縦・横・高さの合計が150cmくらい、重さ10kgくらいの物を送って、船便で日本円にして2500円位なので大変安いです。船便なので日本まで3週間くらい掛かりますが、台湾から帰るときに不必要なものを送ってしまうと飛行機へのチェックイン時に荷物の重さを気にしなくても良いし、

超過料金を支払うより遥かに安いと思いますので私は何時も利用しています。逆に日本から送る場合は高いのでお勧めはしません。

台湾礼賛の記

関西支部 No.591 神原 克收

昨年暮れに619番鈴木幸男さんのお誘い旅行で1ヶ月間台湾に滞在した。台湾は超親日的で誠に居心地がよく、今年も11月から12月に掛けて1ヶ月間出掛ける積りである。

1. 滞在施設

滞在したのは台中市内、宿泊したのは振英会館というコンドミニアムである。ここは施設が素晴らしいだけでなく、従業員の対応も温かく、申し分のないコンドである。主要設備のご紹介をしよう。

- ① 部屋は1LDKで広さは20坪と広い・・・バス、シャワー室、洗濯機、乾燥機に十分過ぎるくらいの壁収納。
- ② 大型液晶TV、冷蔵庫、電子レンジ、炊飯器、食器乾燥機あり。
- ③ インターネットは部屋で自由に使える(無料)。
- ④ 各階に談話室があり、打ち合わせに便利。
- ⑤ 屋上階(10階)に麻雀・中国将棋各2セット完備、僅かながら日本語の本もある。
- ⑥ ジム、料理教室用の部屋、会議室、ビリヤードなどの部屋がある。
- ⑦ 屋上には庭園と物干し場。
- ⑧ 1階にゴミ収納室、生ゴミ用冷蔵庫。
- ⑨ 1階に大変立派なホール、カラオケも出来る。



広いリビングルーム、画面手前がキッチン



ベッドルームと書斎、収納スペースはタップリ



各階に談話室がある

次に従業員についてご紹介しよう。従業員は男性2人、女性3人。責任者は女性で、日本語の話せる鳥さんも女性。皆親切で何か頼めば即刻対応してくれるので実に気持ちがいい。



振英会館のスタッフ、左から2番目が責任者の左さん、真ん中は日本語の出来る鳥さん

2. 親切的な台湾人

台湾での居心地の良さは何と言っても台湾人が超親日的だということだろう。幾つか事例をご紹介します。

①街中で地図を広げて見ていると、殆ど例外なく誰かが寄ってきて「何をお探しですか?」と聞いてくれる。

②バスに乗ってどこで降りたらいいか不安なときがある。その場合は行き先を紙に書いたメモを見せると、他の乗客が我がことのように心配して「次だ、ここだ」とゼスチャーで教えてくれる。

③バスで混雑しているときは必ず若い人がさっと立って席を譲ってくれる。

④食堂やレストランで注文に困っている時や、スーパー・市場で買い物に困っているときなど、客の中で日本語の少し判る人が助け船を出してくれる。

⑤屋台や店舗で珍しそうに食べ物や商品を覗き込んでいると、嫌な顔ひとつせず親切に見せてくれるし、説明もしてくれる(言葉は判らないのだが)。勿論写真撮影もOK。

⑦今回同行の6人で夕食を摂った帰り道での出来事。上品な楊さんという台湾人老夫婦に声を掛けられた。我々が日本人と判ると「是非寄って行け」と誘っていただき、お宅へお邪魔した。美味しい高級な台湾茶にお菓子や果物をご馳走になり、四方山話で1時間半があっという間に過ぎていた。会話は勿論日本語。

楊さんは80才とのことだがかくしゃくとして「今でも週2日はゴルフ、2日はキリスト教団体の世話、2日はボランティアと休む暇もない」とのこと。

楊さんは「日本は大変良い教育をしてくれ感謝している。日本人は大好きで日本の友達は大事にしている。」

それにしても旧植民地でありながらこれほど感謝されているとは、新聞や雑誌で知識としてはあったが実際に触れてみて得心した。「明治の人は偉かったんだなあ」としみじみ思った次第。

後日Aさん夫妻はバス停でバス待ちをしているとき先日お会いした楊さんのお孫さんと会い、

目的地まで車で送ってもらい、おまけに彼の事務所（国立台湾体育大学教授）でコーヒーをご馳走になったとのこと。



楊さんご夫妻の自宅に招かれた

以下埔里での出来事

- ⑧たまたま新築祝いをしている家の前を通り掛かった。興味本位で覗き込んでみると「入っただけで」と招き入れられ、軽食や果物などを振る舞われた。更に「昼ご飯を食べて行け」と誘われたが、さすがに厚かましいと思って辞退した。
- ⑨埔里で週に一度開かれている日本語教室を見学した。教室と言ってもビルの空き部屋を使わせてもらっての同好会的なもの。そこで名刺交換した歯科医の頼さんが宿泊中のコンドへわざわざ朝食を差し入れに来てくれた。

3. 台日会

台湾には沢山の日本人がいるので、当然のことながら日本人会がある。それとは別に台中には台日会というのがある。大半は台湾人で台湾在住の日本人も加わっている。毎月1回昼食を兼ねた会合や小旅行を行っている。会での会話は日本語が条件。今回例会にゲスト参加した。

例会の冒頭に台日会の歌「元気いっぱい」（青い山脈の替え歌）を全員で斉唱。新会員やゲスト会員の紹介の後、いくつかの報告事項があり、懇談会が始まった。

台湾の方達との会話で役に立ったのが私の愛用している「少年探偵団」の名刺。「少年」とは「残りの年が少ない」と説明すると、「なるほど」

とスムーズに会話に入っていく。

懇談は孫の自慢話や日常の情報交換が主で、それ以外で話題になったのは「台湾は気に入ったか?」「昔の日本人は良かったが今の日本はアメリカ文化に毒されている」「昔の日本の良さが台湾には残っている」「占領時代に日本人は良い教育をしてくれた」などなど。

数人から「困ったら電話してこい」「家に遊びに来い」等の声を掛けていただいた。

大変気持ちのいい3時間であったが、参加者は殆どが高齢でこの会が数年後も存続しているのか少々気になるところではある。

4. 台湾省について

台中で車のナンバーに「台湾省」と言うのがあり興味を引いた。注意して見ていると省名表示の無いナンバーもある。これには台湾の歴史が色濃く滲んでいる。

清国が台湾省を設置したのは1885年、しかし日清戦争に敗れ台湾を日本に譲渡したため台湾省は一旦は消滅。日本敗戦後中国政府は台湾を統治したが1947年2・28事件をキッカケに台湾省を復活。国共内戦に敗れた蒋介石は台湾に逃れ、台湾省に政府機関を移した。中国（共産党）政府はあくまでも自国領土の一部と主張して台湾省と言いつつ、台湾（国民党）政府は将来中国本土奪回を夢見て台湾省を残した。そのため中国と台湾で共に「台湾省」が存続した。

その後台湾政府は1967年に台北市を、1979年に高雄市を政府直轄市に格上げし、台中は台湾省として残った。その時代の車のナンバーは「台湾省」「台北市」「高雄市」の3種類で、それが今日でも生き残っている。

1998年には李登輝総統が台湾省を廃止したため、台湾政府の台湾省は消滅したが、中国では今でも台湾省が生き続けている。

21世紀に入って台湾の新車は全て「省表示無し」ナンバーとなり、「台湾省」ナンバーの車は間もなく姿を消す。

5. 埔里のロングステイ受入れ体制

台湾で日本人ロングステイヤー受入れに最も

熱心なのが台中市の南に位置する南投県埔里鎮（市のようなもの、以下市という）である。

そのリーダーで埔里市長であった馬氏が国会議員に当選し、一層日本人ロングステイヤー誘致に熱がこもってきたようだ。

ロングステイヤー受入窓口は市役所の鄭課長で、日本語が堪能でエネルギッシュな女性である。鄭さんに連絡すればコンドの手配、埔里到着時バス停への出迎え、生活の基本情報提供、美味しい店の紹介などしてくれ、24時間いつでも電話相談にのってくれる。鄭さん以外にも日本語の出来るボランティアを数名抱えていて、鄭さんが多忙な時は代役をしてくれる。



エネルギッシュな鄭課長

埔里では日本人ロングステイヤー受入に協力してくれる店舗に「日本ロングステイ支援の会」という看板を掲げ、支援体制を支えている。埔里には日本語を話したいと思っている人は多く、その点でもロングステイ好適地であろう。



「日本ロングステイ支援の会」の看板

埔里は風光明媚な自然と台湾一といわれる上質な水が売り物だが、観光資源にはそれほど恵まれているわけではない。埔里滞在中の楽しみは観光よりも地元民との接触が主となる。

太極拳、カラオケ、水泳、テニス、社交ダンス、料理教室、中国語教室、囲碁、ゴルフなど楽しむ材料は沢山ある。日本語教室に顔を出せば人気者になること必定。ゴルフ環境は優れているとは言い難いが近郊に出掛ければ楽しめるし、付き合ってくれる地元民もいる。

やりたいものがあればそのサークルを紹介してくれるし、その中には日本語の出来る人も必ずいるので心配はない。折り紙や手芸などこちらから教えるものがあれば付き合いの幅は一層広がるに違いない。

日本人同士で付き合うチェンマイの生活も気楽で良いが、超親日的な台湾で地元民との触れあいを楽しむ埔里や台中のステイにも大変魅力を感じる。

6. 日本人墓地の墓守

台中市内に宝覺寺というユニークなお寺がある。ユニークなのは境内に鎮座する巨大な大仏で、台中に行ったら是非見ておきたい。

この寺には台湾の地でなくなった14,000人の日本人墓地があり、同時に日本軍人として志願して戦死した台湾人の慰霊碑もある。今でも毎年11月に日台合同の慰霊祭が行われている。

境内を散策していたら90才になるというお婆ちゃん（楊さん）が出て来て達者な日本語で案内してくれた。聞くと日本人墓地と台湾人慰霊碑はこの楊さんが守ってくれているという。墓地周辺には沢山の花が植えてあり、楊さんが丹精込めて育てているとのこと。

途中から「日本の古い歌なら歌える」ということで「湖畔の宿」「湯島の白梅」などを歌ってくれた。

案内の途中何回も何回も「台湾は日本人に世話になった、日本人は大好きだ。だからこの墓を守って日本に恩返しをしたい」と言っていたのが印象的で、90才にしては大変お元気で明るく、またの再会を約してお暇した。



日本人墓地の前で 90歳の楊さん

7. 老人天国

日本でも敬老精神はあるが、儒教が色濃く残っている台湾は日本より遥かに徹底している。

- ① 混雑しているバスに乗ると例外なく若い人が間髪いれず立って席を譲ってくれる。
- ② 家庭でも老人は大事にされているようで、姥捨て山のような考えとは無縁なのであろう。
- ③ 65歳以上はバス、新幹線を含む鉄道、美術館や博物館などが半額になる。
- ④ 70歳以上になると美術館や博物館は全て無料になる。
- ⑤ 食事では流石に老人割引はないようだが、あるレストランで冗談半分で「老人割引はないの?」と言ったら、料理を一品サービスしてくれた。

日本ほど高齢化が進んでいないという事情もあるのだろうが、兎に角老人には優しい国である。将来高齢化が日本並みに進んだときに、どのような変化をするのか興味津々である。

8. ゴルフについて

台中と埔里でのゴルフについても一言触れておきたい。結論から言うと、決してゴルフ天国ではないが、楽しむことは十分可能。

先ず台中について。地図で見ると車で30～50分くらいのところに9ヶ所ある。その内の一つ「台湾国際GC」を覗いてきた。ここは台中でも名門クラブで料金も他より少々高いとのこと。27Hで距離はレギュラーティで3,450Yと結構長い。芝の手入れは見たところ大変良好の

ように見受けた。気になる料金はキャディ、カートなど全て込みで、平日7,300円、週末8,600円、月曜日はサービスデーで4,900円、火曜日から金曜日は朝8時までにスタートすれば5,600円。

次に埔里について。南投県の観光局長の話では「30分～1時間のところに6ヶ所ある」とのことだが、これは少々眉唾もののようで、確認してみないと判らない。ただ埔里から30分くらいのところにまずまずのゴルフ場があるのは間違いないらしい。

何はともあれ「ゴルフ、命」の方にはチェンマイの方が環境は整っている。

9. 終わりに

最後に夫婦2人分、滞在日数26日間の費用についてご報告しよう。

総費用（除航空券）174,000円

（内訳）住居費75,000円、食事費40,300円、
その他58,700円

因みに昼食は一人一食平均250円、夕食590円であった。

この旅行は619番鈴木幸男さん呼び掛けのお誘い旅行で行ったもので、滞在中何かと鈴木ご夫妻にお世話になった。改めてお礼を申し上げたい。

台中生活をエンジョイしよう！

九州支部 No.3 池田 徳三郎

1. はじめに

2009年は7日間の台湾縦断旅行、2週間の台中滞在ツアー「当会鈴木氏の呼びかけ」に参加。鈴木氏の「台湾情報」はよく読みます。今年(2010年)は1月13日から2ヶ月間、台中に滞在したが、その生活の一部を披露することにした。

台湾は九州とほぼ同じ面積に約2,300万人の人が、中国の一部と主張されながら(1971年10月に中共が国連代表権を認められ、国連を脱退した)生活している。しかし、「中華民国」は国家元首も国旗も国歌も首都も通貨もビザも税金も法律も中国とは別に独自のものを有している。

2. 台中は台湾の臍に位置する

台湾を太平洋に接する地域と大陸に接する地域とを比較すると、九州と同じく後者の地域が歴史的にも、文化的にも産業・交通の面からも現在まで著しく発展し、今も開発されている。

大陸に接する地域は更に①首都の台北（人口260万人、台湾第1位の都市）を中心とした北部地域、②商業都市の台中（人口120万人、台湾第3の都市）を中心とした中西部地域、そして③古都で商業都市の高雄（人口150万人は台湾第2の都市）を中心とする南西部地域の3地域に分けられる。

それらを結ぶ台湾西海岸全体の真ん中に、「台中」は位置していると言えます。

* 高鐵の真ん中の駅



2007年に、主として日本の新幹線技術が導入され、台北～左営（高雄）間の大陸側西海岸を最短92分

（通常120分）で結ぶ「台湾高速鐵道（高鐵）」の真ん中駅は台中駅である。

* 在来線の真ん中の駅

台北から台中まで2時間20分、そして台中から高雄まで2時間を要するが、台北～高雄のほぼ真ん中は「台中駅」と言える。

そこで、台中で生活すれば、台北を中心とした北部地域にも、高雄を中心とする南西部地域にも凡そ1～2時間で到着することが出来る。勿論、台中を中心とした中西部地域の旅は、ほぼ日帰りでも済ませる便利な場所である。

3. 他人（特に日本人）に親切な台湾人

空港・新幹線は英語でOK。

台湾の人たちの優しさや親切さに魅了されて再度訪れる日本人は多いと聞くが、正にその1人である。

福岡空港から台北（桃園国際空港）まで約2時間30分（全日空ほか3社が乗り入れ）。ワイ

ンと機内食ではほぼ満足し、台北に到着。イミグレーションで入国手続を済ませ、手荷物受取所で荷物を受け取り、出口で手荷物チェック（同番号合わせのみ）を受けて入国する。

大勢の出迎えて混雑していたが、出迎えない。リムジンバス乗り場の標識を探すが、判らないので、すれ違いの若い女性に尋ねる。大変親切に乗り場の近くまで終始明るい笑顔で、「何処から来たのか」などと中国語が解らないと悟ると英語で話しかけられ案内された。

空港から高铁（新幹線）の桃園駅まで、リムジンバス（30元）で行く。車窓からはその間を新しい軌道で結ぶ大工事の様子が各所で伺えた。

桃園駅（高铁）は大きな綺麗な駅で、桃園から台中まで（約1時間）のキップを若い女性駅員のいる窓口で購入（英語で）する。年齢を聞かれ、パスポートを示すと料金が半額（60歳以上）となる。そして乗り場と次の乗車時間を流暢な英語で親切に優しく教えてくれた。

車内では親切な車掌に「荷物の置き場所」で配慮を受け、さらに台中駅に着く前に下車を知らせに来た。ソフトな対応が爽やかでした。

空港・新幹線（高铁）の構内は下手な英語で通じるので安心した。また親切な多くの人々に触れることが出来た。

4. 台湾と日本は国交断絶、情報収集は

台湾と日本とは国交がないため、両国間の大使館は置いてない。すべて民間レベルの交流に支えられている。

例えばビザ（「1年数次停留ビザ」・長期滞在ビザ・退職者用のマルチビザなど）の申請は「台北駐日経済文化代表処」等に提出する。パスポートがあれば、90日間は滞在できるので、それ以上滞在する場合にビザが必要です。

国内での「台湾の旅の情報収集」は「台湾観光協会」（東京オフィス、大阪オフィス）に請求しますと無料（送料は請求者負担：290円切手同封）で総てゲットできる。

北九州に居住しているので大阪のオフィスに「観光資料送付請求」と封書の表に書き、中に請求資料の内容を記載したところ、日本語のパン

フや地図が10数種類ほど送られてきた。

台湾で当地の旅の情報収集は「交通部観光局 旅遊服務中心」（台北市、高雄市）で取り扱う。各市の観光インホーションでは日本語の観光・ホテル・料理・ショッピングの案内があり、便利です。

大都市の観光課に行くと日本語または英語の通訳が、市内のガイドをしてくれる市もある。

日本の大使館に代わる役割は財団法人「台日交流協会」（台北市）が果たしており、1ヶ月以上の滞在は万一の事故を考慮して届け出をしたほうが良いでしょう。

5. 台中周辺の寺廟

台湾では①儒教・②佛教・③道教・④その他の神々（ご利益のありそうな実在の人物が多い）は、丁寧に寺廟に祀られ、線香の絶えることはない。人々は信心深く、多くの供え物をしている。

台中周辺の寺廟は①壮大な「孔子廟」、②八卦山の「釈迦仏」・屋根より高い布袋さんのある「寶覚寺」・「日月潭の「玄奘寺」③道教寺院では慈恵堂・勝安宮など、④その他の神として武将・商売の神様として有名な関羽を祭る「南天宮」、海の女神「媽祖」（まそ）を祀っている「天后宮」などの大きな廟から街角に祭る小さな寺廟、そして並ぶ住宅の1部に祭るさらに小さな寺廟などその信仰は多種多様です。

さらに新・旧キリスト教の大小の教会がある。

① 台湾の孔子廟

個人ないし町単位の小孔子廟を除くと4つの都市に壮大な孔子廟（台北・彰化・台中・台南）がある。孔子は学問の神様として人気があり、受験生のお参りと施設利用（図書室）が絶えない。

台中の孔子廟は台湾の中で最大の孔子廟。

同廟は篤志家の基金を基に建設委員会が設立され1976年に敷地面積23,6千平方M 建築面積2,3千平方Mの崇高・壮大な廟が竣工した。以来、人倫復興の基礎として市民に崇められている。

雙十路と力行路の交差する角に位置し、力行路に面して、照壁を潜るとその奥の第1門は元首のみが通れる古風で華麗な「れい星門」があり、「浄池」を渡ると雄大な「大成門」が遠くに見え、芝生の中央の歩道を進むと大成門に着く。



（荘厳な大成殿） ↗



大成殿内の神棚（明德至善の額と大成至聖先師孔子の位牌を祀る） ↗

大成門は「東ぶ」回廊と「西ぶ」回廊で矩形状の建物を構成する。

その奥の中央に華美厳壮な「大成殿」があり、孔子の神棚始め、孔子とその高弟を祭る。台湾で最も完備された孔子廟と言われている。

②—1 八卦山の大仏（彰化市）

彰化市のシンボルである釈迦の仏像は高さ22メートルにも及ぶ。裏側に大きな8つの窓があり、中に入ると6層の廟のようで、お参りができ、線香の煙は絶えない。大きな窓は換気用かともがう。



八卦山を登っていくと、山道の両側に32体の石の観音像が並ぶ参道が延びている。ここからは

彰化平原が一望でき、素晴らしい景観を楽しめる。

その他の仏像として寶覺寺の仏像、慈明寺の観音像、万仏寺の仏像、中正公園の観音像など沢山である。台湾TVでは、100以上のチャンネルがあるが、佛教布教のチャンネルは多い。

②-2 寶覺寺

この寺を有名にしているのは超特大の「弥勒大仏像」(下の)であろう。



弥勒仏とは、ご存知の七福神の布袋さんのことである。この大仏は金色で柔かな笑顔をとたえて多くの人に愛され尊敬されているが、1928年に建立された。高さは約30mで台湾では2番目の大きさと言われている。



境内の上の象の写真は、かつてインドに仏像がなかった頃、聖なる動物として象が崇拝の対象となり、この風習が中国・台湾で現在も残っている。

②-3 日月潭の玄奘寺：

玄奘寺は日月潭の湖畔南部の高台の上に建っている。玄奘寺は1965年に創建された寺で、玄奘大師(三蔵法師)の霊骨が祀られている。大師が長安(現在の西安)からインドに入り、勉

学の後、長安に帰ってきた足跡が記されている。

大師は西暦602年に出生、11才で父母を失い、13才の時に洛陽浄土寺に入り出家した。20才の時に長安を出てインドに入ったといわれている。西遊記は大師がモデルと伝わる。



1999年9月の大地震により玄奘寺も被害を被ったが、現在(2010年)地震前と変わらない状態に復旧されている。

③南天宮

台中駅の北西方向の線路沿いにある南天宮は赤い顔、長いヒゲの関羽こと関帝を祀る廟であり、台中隋一の大関帝像である。



(市街地に高く聳える関羽像) ↗

三国時代の名将・武将として理財にも精通していたため、また「そろばんの始祖」との伝承もあり、商人は「財神」すなわち金儲けや商売繁昌の神として信仰している。武将も商人も一番大切なものは信義・信用という点から、商業神としての信仰は厚い。台湾で商売の神としての関羽信仰はいたるところの街角でも良く見かけられる。

この廟の関羽の隣に中元普度の張り紙がある。

これもまた他の中華世界と同様に紙で出来た精巧な筆記用具、お菓子、金紙、などがパック



(真っ赤な顔と長い髭の関羽) 7

されており、最近では台湾やシンガポールで紙銭や供養グッズを燃やす事が環境問題に発展する。

その他台湾にある関羽の代表的な廟

台南市には「台湾の関羽」を祀る関帝廟の総本山といわれる「祀典武廟」(大関帝廟)があり、敬われ、信仰されている。

北京にある関羽を祀る廟は「行天宮」と言い、近くに古い師が集まる横丁が有名である。

関羽信仰は台湾・中国にとどまらず華僑と共に次第に世界各地に広がった。横浜中華街の中にも関羽を祀る廟がある。

日月潭にある文武廟では儒教の「孔子」と前記の「関羽」を同じ廟に祀っている。

④日月潭の文武廟

日月潭の湖畔北部にある「文武廟」は、日月潭湖畔の観光のハイライトスポットである。廟は1938年に建立され、1975年に再建された中国宮殿式の廟宇で、廟としては最大級のものといわれている。

廟は前殿、中殿、後殿の三殿様式になっており、



前殿は文廟で文の神である孔子が、中殿は武廟で武の神である関羽や岳飛が祀られている。

⑤ 大天后宮(媽祖宮)

天后宮は民間信仰の厚い海の女神「媽祖」(まそ)を祀っている。媽祖は航海・漁業の守護神として、中国沿海部を中心に信仰を集める道教の女神。世祖フビライにより媽祖神が天妃に格上げされたため、天妃宮と改称された。

台湾の各地(台北・台東・台南・宜蘭・鹿港)に立派な廟がある。台北では「行天宮」、宜蘭では「昭応宮」とも呼ばれる。

鹿港の天后宮

特に古い歴史と天然の良港に恵まれた「鹿港」(台中の北に位置する。)に、媽祖を祀る台湾で初めての廟として建てられた(1591年)。台湾で最も古い歴史を持つ媽祖の廟で、また精巧な壁画と石彫刻でも有名である。

台湾の各地に70余の媽祖像が散在するといわれるが、各地の媽祖は「鹿港」に里帰りすると今も伝えられている。



またオランダ軍を徹退させた名将の鄭成功は水上作戦に勝利し、媽祖に感謝し廟を修復した。

清朝が台湾を首尾良く手に入れたとき、それは媽祖のおかげだと、1936年に再建したと言われる。

特に台湾・福建省・広東省では、強い媽祖信仰を集めている。横濱にも媽祖廟が新築(2005.02.)された。長崎の興福寺は媽祖をお迎えすることで祭りが始まるとか。

5. 博物館・美術館等

国立台湾博物館、国立歴史博物館、国立故宮博物館など国立の名を冠する博物館は10に及ぶ。そのほか、大都市には郵政博物館・国父史蹟記念館などの特殊博物館、記念館、美術館、

動物園、史跡等を有する。

① 国立自然科学博物館

台中の国立自然科学博物館は、高雄の「国立科学工藝博物館」、恒春（高雄から南下）の「国立海洋生物博物館」と並び台湾の三大科学博物館の一つである。1981年に設立されたこの博物館の広い敷地内には、科学センター・生命科学館・中国科学館・地球環境館を中心にシアター教室・熱帯植物園・各種庭園が配され、一日では廻りきれないボリュームです。台湾政府の科学教育にかける熱意が伝わる。



観光客が楽しめるのが「中国科学館」で、中国の文化や歴史を科学的な側面から分析、解説しており、中国医薬、薬草園

の展示では、漢方薬や針灸の歴史や基礎知識を人形やイラストを使ってわかりやすく説明する。また、古代文明や中華民族の思想体系、人生観に関する展示、更に中国の土木技術はヨーロッパの数百年先を進んでいたことを示す展示もある。付設の熱帯植物園は高さ31メートル、直径56メートルの巨大温室で、常に湿度が80～90%に保たれており、南アマゾン川の周辺環境が再現され、巨大な椰子の木やソテツ・パンの木・アボカド・ドリアン・紫檀などを間近で楽しむことができる。

② 国立台湾美術館（台中）

国立台湾美術館は、24の展示ホールを有し、1988年にオープンした。

緑で囲まれた美術廣場・美術道には、大小様ざまな彫刻が点在している。収蔵品も多い美術館と言われている。定期的に西洋美術の展覧会を開くほか、中国の絵画、彫刻、美術等の貴重な作品を独自の方法でコレクションしている。

「碑林エリア」には、明代、清代、近代の「書



道

家

の

道

道



道



（近代の「書道家の名墨」）

美術館から緑園道へ

美術館のそばに緑いっぱいの小道（緑園道）がある。五権西一街から、沿道には独創的な装置アートが展示され、おしゃれなレストラン・ブティック・ギャラリーなど40軒余が軒を連ねる。食後のそぞろ歩きの散歩には、ロマンたっぷりの、雰囲気の良い通りです。

③ 民俗公園

台湾の「民俗」をイメージした門をくぐると、中国式の本門があり、右側の開けられた場所が受付を兼ねた入場券売り場がある。

入場券は、大人50元（60歳以上は半額）、子供20元（12歳未満）。午後4時半以降は20元。

園内のレストラン「美食館」の食券（100元）を購入すると、入場料は無料。美食館で100元



分

の

泥を焼いて作った建築材料)を復元した建物や小さな林の歩道がある。民芸館の後方、赤レンガの壁にくりむいた円い門をくぐると、中国蘇州の庭園を模倣した古典庭園になっている。奥には、鯉の泳ぐ池や大きな木が、周りを囲むように植えられ、強い日差しをさえぎり、暑い夏の日でも、涼むのにいい場所のようです。後世に台湾の民俗文化資料を残そうということで、1989年に台中市が作った教育型の施設公園といわれる。

民芸館 ↘



ステージの後ろ部分が「民芸館」エリアで、台湾のレトロな催しが行われる。

みやげ店が数件あり、懐かしいものから、台湾らしいものまである。2階部分は、「美食館」で手ごろな値段で食事ができる。

6. 台日会 (台日交流聯誼会)

インターネットで台日会に出会う人は多い。台日会は台中において、日本に関する資料・情報を収集し、公開している民間ボランティア団体で、特に台湾と日本の相互理解と友好親善のために、草の根の交流を促進する事を目的に創立された。その沿革は

1. 1996年11月に「日本語聯誼会」として発足
2. 2005年1月に現在名に改称し、再スタート。

構成 日本人40数名、台湾人60数名

会長 1名、副会長2名、事務局長1名、幹事8名、顧問若干名、監事1名

活動 出版物「台湾見聞録」・「今日から明日へ」・「台湾風物情」外 計10冊
月例会 (第2土曜)、誕生会、お茶会外

林啓三前会長の後に、女性の莊如紅会長が3代会長に就任された。



↗ (世話役の喜早氏と荘会長—全国大飯店にて—)



↗ (台日会の会員と晚餐 —阿Q茶舎にて—)

台日会が出版した冊子「ふるさと台中」には、「(同会の)日本人から見た台中」の記事があり、市内を散策すると日本が沢山発見できると指摘し、次の見所を推奨している。

日本と関係する 代表的建物として

- ① 台中公園、② 台中駅、③ 台中市役所
- ④ 台中放送局、⑤ 明治小学校、⑥ 台中一中
- ⑦ 台中二中、⑧ 寶覺寺、⑨ その他 精明一街、阿Q茶舎、林獻堂老家、三越(新光三越百貨 台中店)、そごー(廣三SOGO百貨)。

町の看板として

すし屋、回転寿司、日本料理屋、ラーメン屋、セブンイレブン、ファミリーマートのコンビニは、何処の街角でも出会うことができる。

日本商品は日系デパート、スーパーで手じかに殆ど総ての品が入手できる。

本屋の子供漫画も日本の翻訳物が人気を集めているようで、大人も楽しんでいる様子です。

KTVの派手な看板のあるカラオケボックスに行くと、日本の歌が歌える。多くの台湾人が日本の歌を日本語で上手に歌っている。

チャンネルをひねるとTV NHKの国際放送

が見られる外、台湾のテレビ局は日本の番組を吹き替え放送している。

市内探索は台北にあるMRK（捷運）やモノレールがないため、車、バイク社会で大気汚染も酷いし、ラッシュアワーの交通渋滞は酷い。北京・上海・台北・マニラ・セブ・バンコク・チェンマイ東南アジアの大都市の共通の悩みである。

台中の交通手段はバスかタクシーである。

① 台中公園と日本の関係

台中のシンボルの1つである台中公園は、2003年に「台中公園100周年」を迎えた。記録によると、明治41年（1908年）縦貫鉄道全通式の大式典の会場に選ばれ、大々的な改修がなされた。

4160坪の双閣亭（現在の湖心亭）が人工池とともに三角形屋根（その後回収）が作られ、当時「台湾八景1つ」と謂われたとある。

公園内の図書館付近には、戦前に「台中神社」があり、今は写真つきの説明書があるに止まる。

② 台中駅と日本の関係

現在の駅舎は前記の明治41年から9年を要して大正6年（1917年）に改修築され、大戦の空襲、地震に耐え、1995年に2級史跡（文化財）として保存され、市民に愛され親しまれ利用されている。台湾で最古の駅舎といわれる新竹駅（1913年竣工）に次ぐ古駅（停車場）です。

両駅とも松崎萬長氏の設計と伝えられるが、赤レンガの外観と高い吹き抜けが特徴である由。

台中駅の裏側では戦前に帝國製糖株式会社の軌道が通じ、サトウキビのほかに人も利用した。

③ 台中市役所・旧州庁舎と日本の関係

台中の市制は大正9年（1920年）に布かれ、翌年に丸い屋根の白亜の建物が竣工した。戦後は国民党が使用し、その後市の資料館、社会局、交通局などが使用し、今は市民に開放されている。

隣の旧州庁舎は大正13年「1924年」に竣工し、今は台中市政府が利用しているとのこと。

④ 台中放送局と日本の関係

台北放送局、台南放送局に次いで昭和10年（1935年）に台中放送局が開設され、戦後民間が管理。1998年に市に返還され、99年大地震で罹災し、市はこれを補修して、現在大千広播台

が管理し、一般に公開されている。

⑤ 明治小学校と日本の関係

市内の大同国小の前身である明治小学校は、戦前の明治小学校（明治32年創立）であり、大正12年（1923年）に皇太子が視察され、さらに親王殿下等が視察されたので有名。1999年に盛大な「100周年記念式典」が行なわれた。同窓会の「小ざくら会」も半世紀有余をえて、その後解散したようです。

学校のご好意で、昔の校舎が今も大切に残されている小学校であるとのこと。

⑥ 台中一中、⑦ 台中二中、紙面の都合で省略

ただし、戦前の台湾の中等教育制度に触れる。明治40年（1907年）に台湾総督府中学校（台北）、大正3年（1914年）に同台南中学校が日本人のために開校した。翌大正4年に台湾公立台中中学校が誕生した。台湾人のための中学が開校し、入学した。その結果、日本人の子弟は大正11年に「台中2中」が発足するまで、本国か、台北か、台南の中学かに進むことになった。そして大正11年に台中州立第一中学校と改称された。現在人には想像も出来ない時代と沿革があった。両校ではそれぞれ創立100周年記念事業を挙行し、卒業生は昔日の青春を謳歌したとか。

そのほか、台中師範・台中女中・台中二中・大同国小には、日本人卒業生が多くいて、同窓会では日本語で少年少女の昔話で花が咲いたが、今は同窓会も少なくなったとのこと。

⑧ 寶覺寺と日本の関係

前掲の佛教の寺、寶覺寺境内には戦時中に台湾で戦死した日本人の遺骨（1万4千人柱）を納めた日本人墓地がある。

その日本人墓地の近くに「靈安故郷」（李登輝前総統の豪筆）慰霊碑があり、台湾人元日本軍人・軍属が祀られている。毎年11月25日は、慰霊碑の前で、盛大な日台合同の慰霊祭が行われている。

大戦中、日本軍に志願して、海、空、陸に戦い、戦陣で散った台湾人元日本軍人・軍属3万3千余柱の霊を弔う慰霊祭である。東京の靖国神社に行けないので、ここに慰霊碑を建立してお参りするとのこと。日本でも平成13年より結成団を組織して11月25日に参詣するとのことであった。

昨年この盛大な慰霊祭に著者は参加した。

まず、日本人墓地での祭事後、慰霊碑の前にテントを幾重にも張り、関西、九州の各地から、台湾各地から陸・海・空の制服を着た両国の老いた参加者が集い、日本の神主による神式の儀式、君が代、海行かば、台湾の歌などが厳かに歌われていたが、その感動は忘れられない。



台中市役所

↑「靈安故郷」(李登輝前総統の豪筆)慰霊碑(寶覺寺)



明治
小学校

7. 台中の素敵な病院

先進諸国の間で、台湾が数学で世界一となり、その他の科目で、日本の成績を上回っている。そして日本は2等国に引き下げつつあり、騒がれている。医療(施設・技術・サース)・教育・IT産業も台湾が上かも知れない。著者は右足骨折のため末尾の台中市内の大学付設病院に1週間入院し、通院した体験がある。

*日本語の通じる病院は少ないが、筆談でも何とか通じる。病院は、平日も土・日も夜9時まででは開いているので便利。多くの医者は、英語が堪能です。

日本に留学した医者は、昔は多く、特に年配の医師は、子どものころに日本語教育を受けていた人で日本語が話せる。その後の医学留学生は、タイ・フィリピン等の東南アジア諸国と同じくアメリカ、EUに行く傾向のようです。

*大きな総合病院は、夜でも救急外来24時間受付で心強い。日本のように受け入れ病院のたらいまわしや、医師、看護師を待つて放置され

ることもない。病院は夜中でも煌々と明かりがついて、何時でも治療できる人員が待機していた。台湾では、日本よりも安心できる先進の医療制度が設けられていると言えるでしょう。

*予防接種は、日本より安く受けられ、又衛生所に行けば、日本と同じ無料の予防接種が受けられる。*子供の予防注射は腕でなく、太ももにするとの説明であった。

*漢方薬は、漢方専門の大きな病院で調合してもらい、小さな店では、脈をとって薬を調合してもらえる。漢方でも、体質によって、胃の調子が悪くなるので、漢方だから体に優しい、無害とは考えないとの説明。*針治療は、長期の治療に用いるという。経験のある方で、もし台湾に行かれたら、試してみたいはいかがでしょう。

*台中の病院は総てインターネットで簡単に検索できるので省略する。ただし

*日本語が通じる病院のみ掲載(注)財団法人交流協会(日本大使館や総領事館はなく、その代わりに交流協会がその役目を果たしている。本部は東京、支部が台北と高雄にある。)の安全情報より

財団法人 交流協会(台北事務所)安全情報:

邦人が利用する主な総合病院と日本語の通じる主な診療施設(内科、小児科、小児内科のみ)

- | | |
|-------------|------------------|
| 1 仁愛診所 | 02 - 2422 - 3255 |
| 簡医師 | 基隆市孝三路 80 号 2 |
| 2. 敦仁内児科診所 | 04-2310-0307 |
| 黄医師夫人に要事前連絡 | 台中市大業路 209 号 |

- | | |
|-------------|-----------------|
| 3. 東興診所 | 04-2259-1025 |
| 徐医師 | 台中市南屯区大業路 508 号 |
| 4. 高診所 | 04-2234-1032 |
| 高医師夫人 | 台中市北屯路 281 号の 2 |
| 5. 中山先生紀念医院 | 04-2473-9595 |

周医師	台中市南区建国北路一段 110
-----	-----------------

- | | |
|-----------|-------------------|
| 6. 仁愛綜合医院 | 04-2481-9900 |
| 詹医師 | 台中縣大里市東榮路 4 8 3 号 |

注) 邦人が利用する主な総合病院には日本語を解するボランティアが通訳にあたる場合がある。

大規模病院は24時間対応の救急設備が整っており、診療所でも平日、土曜日は夜9時頃まで診察を受け付けるのが一般的で、日曜日の診察が可能などところもある。

(個別の診療時間については要確認)

(参考) 著者が入院した病院

中国医薬大学付設医院 04 - 2205 - 2121
国際医療サービスセンター内 日本人の通訳
台中市北区育徳路2号

8. 台中の宿泊案内

前掲4.において台中の情報収集は触れた。日本での旅の情報収集は「台湾観光協会」(東京オフィス、大阪オフィス)に請求し無料です。また宿泊情報については台湾ロングステイ協会の外に多数あるが、ここでは同協会に触れる。

台湾ロングステイ協会は、日本人退職者専用窓口として開設された台湾政府指導の協会ですが、同協会で紹介している4つの台湾の宿泊施設がある。

①長庚養生文化村 ②台中振英会館

③埔里元宝大鎮 ④キャンプディビッド

インターネットで、同協会の東京事務所、そして台北事務所に連絡を取り、台中の振英会館を知る事が出来た。同会館の宿泊月使用料金、

週使用料金を協会または会館に直接インターネットで問い合わせ、予約した。

同協会のインターネットのPRに掲載されている。しかし、

台中振英会館 宿泊施設の紹介は今回省略する。



[台中振英会館のマネジャー]

次に少し長くなりますが、台北ナビの台中「振英会館」の紹介を下記に記載します。

こんにちは、台北ナビです。

台湾ロングステイ協会で紹介している台中の宿泊施設「振英会館」(9階建て)を案内します。

台中ロングステイ案内(振英会館)

台中ステイに最適のマンションを満喫しましょ

う。台湾でロングステイを考えている方必見！
台中市内にあるロングステイマンションはシニア利用者用に設計され、運動施設やコミュニティ機能も充実。住宅街の一角で静かな環境に加え、近くの大通りには飲食店が集中し、生活品の買い物にも大変便利。日本語のできるコンセルジュも常駐し、都市型ロングステイとして最適な条件を備えています…。

台中ステイ、1ヶ月の目安は？

さて、実際にステイをはじめる場合、生活費はいったいどのくらいかかるの？一概に言えませんので、物価など例を挙げておきます。(価格は全て2010年1月現在のものです。) まずは会館の宿泊費ですが、ダブルベッドの部屋で1ヶ月2万6千元、ツインベッドの部屋で3万元。

電気・水道料金は別計算で、マネージャーによると、だいたい3千元くらいが多いそうです。

シーツやベッドカバーのクリーニングは一式200元～300元。また電気製品など備品はありますが、ゴミ袋とか洗剤など消耗品は買い揃えなければなりません。外食する場合もピンからキリまで。一番安い麺類は20元からあるし、日本のラーメン屋さん(200元)もあります。



(コンセルジュのマリさん(右)は日本語OK)

シニアのニーズに合わせたマンション

屋上9階の屋上には中央にあるコミュニティハウス(将棋・麻雀・パーチイルームなど)を挟んで2つの大きな庭園がありバーベキューパーティもできます。

コミュニティハウスの中央には①大きなダイニングキッチンとテーブルのある部屋。その両側にも将棋やマージャンテーブル、読書室のできる日当たりの良い部屋が2つある。お友達同士、数組のご夫婦でスティに來られたケースでは、屋上のダイニングルームを利用して、奥さん方が自分の部屋で作った料理を持ち寄り、パーティを開いたりしたそうです。

各階のゲストルーム

シニア居住者とそのコミュニケーションを第一に設計されています。現在ロングスティ者向けに貸し出している部屋は60室ほどです。

寝室がダブルベッド1つ(1~2人)のタイプと、シングルベッドが2つ(ツイン)タイプの2種類がありますが、どちらもダイニングキッチンとリビングがある大きい部屋と寝室、浴室の3室がセットになっています。



(リビングのソファーセット。部屋ごとに違う形です)



↗ (100チャンネル以上あるケーブルテレビ)



洗面

キッチンには冷蔵庫、食器乾燥機など、必要な備品はほとんどあります。食器の種類や数も多めにあるので、ゲストを迎えての食事もできますね。包丁もパン用やフルーツ用など、5種類あるのも主婦にとってはウレシイところです。



↗ (食器乾燥機には6人分の食器)

洗面台の側には洗濯機と衣類乾燥機。浴室は湯船とは別にシャワーブースがあります。ホテルと違うのは、部屋の掃除やタオルなどの洗濯も、基本的に居住者に任されている。(有料で頼むこともできます。)



↗ (洗濯機と乾燥機)



↗ (トイレはウォシュレット)



↗ (エアコンは冷暖房兼用のタイプ)



(コンロも電磁調理器。鍋を載せないと自動的に切れる。)

ベッドカバーも落ち着いた色。部屋の内装の色は少しずつ違う、これも居住者が他の人の部屋を訪問した時に、ホテルと同じ内装ではなく、「家」の感じを味わえるようにと考えマンションのあちこちにシニアの方に対する配慮が。

ナビ(取材)はリビングのテーブル表面が柔らかいのでコップが倒れないかと思ったのですが、マネージャーの左慧英さんによると、つまづいてもケガをしないように、考えて柔らかいものになっているそうです。



↗ (この寝室はシングルベッド2つのタイプ)



↗ (この寝室はダブルベッドで1人でも2人でも可)

多目的利用施設と運動施設



↗ (ヨガやダンスに使える板張りルーム)



↗ (ジムはランニングや自転車マシンが中心)



↗ (こちらはビリヤードルーム)



(会議室兼 カラオケ室 一日本語の歌 多数一)

中国経済に対する日本人の関心

関東甲信越支部 No.922 樫尾 隆之

日本はどうなっちゃうの？

中国は上海万博で沸いているようですね。我が家でも、たまにこんな会話があります。「このままていくと日本はどんな国になっちゃうの？」退職後にくってくる衣服は中国製だし、食品も中国産をよく食べるようになった。

今のトレンドが続けば、2020年にはさらに少子高齢化が進み、人口は現在の1億2,700万人から1億1,500万人にまで減少。65才以上の人は増え続けるから、国の年金の支給額は危険水域に。子供手当や高校授業料無償化、社会保障に必要な財源がないまま、消費税率を上げることもできず、赤字国債の発行に頼るから、国の債務残高は1,200兆円を突破する。

日本は慢性的な財政赤字に進み、財政破綻がささやかれ、円は暴落。2009年に474兆円だった名目GDPはその後も足踏みを続け、2010年に中国に抜かれたままになっているでしょう。貿易黒字を続ける中国の人民元は変動相場制に移行していて、1元75円*になっている。若者は就職難の日本を見限り、日本より給与の良くなった中国に行って就職するようになる。

まあ、冗談ですが、笑ってばかりいられないのが恐ろしいところです。そこで、遅まきながら、中国経済の勉強を始めた次第です。

(*注：現在は1元14円)

最近NHKのクローズアップ現代とか、NHKスペシャルとか、テレビでも中国関連の話題を目にすることが多くなっています。新聞、書籍などで目にする関連記事は、中国の経済発展の様子を好意的に書いているものもあれば、急激な経済発展の中国を警戒し、やがて崩壊するとか、中にはガス田や領土などで日本とは利害が反するとして敵視に近い見方をするものまであります。

日本国内の閉塞感に対して、隣の中国が好景気で沸いているのを知ると、一種のいらだちを

感じているのだと思います。私も関心を持っていますが、さまざまな情報が錯綜していて、なかなか実像が結ばれません。



内陸部へ拡大する中国経済

3月末に桂林、楊朔、龍勝旅行に行ってきました。南国暮らしの会の有志によるロングステイの適地を探す視察旅行でした。

中国は、EUとアフリカ北部を足したような広大な国土、民族や言語の多様性、地域によって状況の違う巨大モザイクのような地です。ちょっと6日間訪問したからと言って、盲人が象の尻尾を触るようなもので、全体はさっぱり分かりません。

しかし、事前に読んだ本のおかげで、興味深く観察することができました。都市部の高層ビル建設現場や、ところどころ未完成の高速道路、取り残されたようなレンガ作りの民家などを見てきました。楊朔の民家では、しまっていた日本刀を見せられました。ご主人がそれを上段に掲げ、「バカヤロー」と言ったので驚きました。都市部の道路は交通渋滞で、車がスキさえあれば、強引に入ってきます。電動バイクの群れで、信号のない交差点では横断も大変でした。

深夜、桂林空港に降りて都心に向かいました。往復2車線の道路を高速道路にする工事が進行

中でした。未完成の部分もあって、そこはぬかるみの迂回路でした。バスがよろよろと対向車を避けながら走りました。完成すれば往復6車線の堂々たる高速道路になります。

中国政府は金融危機の後、日本円換算で56兆円規模の景気対策を打ち出し、高速道路、鉄道、高層ビル、住宅建設などを進めてきました。四川の震災復興予算だけでも1万元（14兆円）で、麻生政権が出した日本では前代未聞とされた景気対策の補正予算規模14兆円と、ほぼ同じ金額です。上海虹橋に空港、新幹線、バスターミナルなどからなる交通のハブを建設するプロジェクトが進行中とか。景気対策のための財政支出のケタが違います。



コマツのパワーショベルが成都では2007年にくらべ2009年には3倍の売上げを記録。買っていくのは中国では個人だと言うことです。西松建設のようなゼネコンや下請けの建設業者ではありません。それも農民工（出稼ぎ労働者）のような地方でもちょっとやる気のある者だと言います。1台日本円換算1,500万円のパワーショベルを、月15万円のリースにしても、地方政府からの仕事が絶え間なくあるので、毎月20～

30万円の稼ぎになります。鄧小平以来の改革開放政策が、沿海部も内陸部も区別なく、大波になって進んでいます。

日本の機械、電機、精密、自動車などの輸出関連企業にとって、中国が得意先になりました。すでに日本の輸出先としては米国を超え、第一位です。金融危機後の日本の景気対策は、中国が代わりにやってくれていると考えて良いほどです。

ひとつの国土に同居する2つの中国

中国には戸口と呼ばれる戸籍制度があります。戸口は農民と都市住民とを戸籍制度から峻別するもので、農民の都市部への移住は厳しく制限されています。農民は都市部に出稼ぎに行くことはできますが、社会保障や教育などの面で農民戸籍を持つものは著しく不利になっています。国内に経済的な格差があるというだけでなく、中国には豊かな都市部の人と、貧しい農村の人との、一つの国に異なった二つの民族が暮らしているといった感じなのです。

中国の人口は13.3億人。しかしまだ農民が多く、2009年に農民戸籍を持つものは約8億人です。農民戸籍を有する者の中に、農民工が1.5億含まれていることを考えると、中国の農民人口は半数の6～7億程度ではないかと推定できます。中国は、いまだ農民が過半を占める農民国家であると言えます。

日本では農業従事者は戦後1940年代に人口の40%を切り、工業化によって、GDPが年率10%程度で増大していた高度成長期を通じて減少し続けました。2009年には農業従事者が人口の3%になっています。米国も農業生産の効率が高いので、農業従事者は人口の2%です。中国のように農民の割合が半数以上の国でありながら、世界第2位のGDPをもつ国に成長した例はこれまでにありません。

湖北省武漢市に住む私の友人はメールで、つぎのような説明をしてくれました。中国の戸籍制度は複雑で、説明をいろいろ聞いてもよく分かりません。改革開放後30年たちますが、2、3億は都市へ移住したのではないのでしょうか。そ

のため、どの都市も人口が膨らみました。もし戸籍制度で制限しなければ、たくさんの都市がパンクし、スラム化していたでしょう。

上海や北京では、農民工の多くが定住化しています。農村戸籍を持つ農民工が都市部の病院で治療を受けた場合は、農村部とは医療保険が異なるので、100 元を超える部分が個人負担となってしまいます。SARS と診断された農民工が、病院を逃げ出して感染を広げてしまうという事件もありました。政府は戸籍制度の問題を把握はしていますが、妙案はないため、漸次改善の方針をとるでしょう。

農民が都市戸籍を簡単にとる方法が、一つあります。それは大学か、高等教育の学校に入ることです。農民達は、子供達には都市に住ませたいので、学費を稼ぐため、農民工として働く人たちも多いようです。学生達は入学と同時に戸籍を大学に移し、卒業時に就職先の企業のある都市へ戸籍を移すことが可能なようです。



不動産ビジネスが牽引する中国経済

中国は改革開放政策をとり市場経済を導入しながら、政治的には共産党独裁で社会主義の国です。土地は公有制です。

鉄道、高速道路、高層マンションなどのインフラ整備が進んでいますが、地方政府や土地開発公社などの周辺には大きな利権が生まれ、巨額の利益が得られる。その資金が、再びインフラ建設に投資されているから、日本の 1980 年代の不動産バブル期のように、マンション価格の高騰をもたらしています。不動産からみのビジネスが、中国の驚異的な高度成長をもたらして

います。

上海などでは空気や河川が汚れ、車で移動するのも困難な場所にあるマンションが、東京の物件並の価格で取引されています。土地の所有権はなく、70 年の利用権が保証されるだけですから、高い買い物です。

中国の役人には古くから汚職体質があります。不動産からみの取引は汚職の温床になりがちです。腐敗マンションという言葉もあるようで、それは汚職でもしない限りとても購入できない住宅を指すのだそうです。

この国では、まだプレーヤーと審判が分化していません。政府は自分で法律を作り、それに基づいて開発を行い、そして関連会社を作り、運営をします。賢い役人は 2～3 年、経営者として関連会社へ出向し、高給を取り、めどがついたら戻ればよいのですから、汚職をしなくても十分潤います。

すでに多くの中国人がこのあたりの事情について気がついています。国民の 90% 以上は政府に不満を持っています。土地の収用で起きるトラブルも多くなっています。

社会主義を掲げながら、鄧小平以来の先富論で官僚統制の中で市場経済を推し進めたことが、このような格差の大きい社会をつくってしまったと言えます。

貿易黒字と人民元問題

米国政府は 4 月に中国に対して元の切り上げを要求しましたが、中国は反発しています。人民元が安く管理されていることは、現在の世界経済にとって不均衡の要因ですが、人民元を切り上げれば、中国からの輸出製品の価格が高くなるので競争力が下がります。そのため、切り上げを実施しても極めて小幅に時間をかけて進めるとみられています。

しかし統計を見れば、中国の貿易黒字額はここ数年、減少に転じています。金融危機以後に欧米や日本の消費が弱まり、中国からの輸出が減少したからです。したがって中国の年率 9～11% という増大し続ける GDP は、貿易黒字の伸びだけでは説明がつかなくなっています。

確かに4～5年前までは中国は世界の工場で、日本企業が次々に中国に進出し、工場を作り、ものを作って輸出してきました。しかし、しだいにGDPが大きくなるに従って、国内の購買層が育ち、今や日本のほとんどの企業は中国から世界へ輸出するのではなく、中国の消費者をターゲットにした戦略に切り替えています。何しろ、都市住民だけでも5～6億程度はおり、そのうち中間層が半分としても日本の人口の倍以上の購買層がいることとなります。土地が広く、人口が多いことはうらやましいことです。

改革開放の初期（1980年代）には、資本も技術もないため、経済特区を作り、徹底的に外資導入をはかりました。税金、水、電力、土地などをただ同然にして海外企業を誘致し、そこで作った製品を輸出してきました。

現在ではそれが成功し、中国国内にも資本や技術が蓄積されるようになりました。自信を得た中国政府は、次第に海外企業を特別扱いせず、税金、資源、土地代をきちんと取るようになっていきます。最近では労働法も代わり、むちゃな首切りは許されず、福利厚生、退職金や社会保険も厳しく企業に付加されるので、労働集約のみに期待した外国企業はベトナムやその他の所へ逃げています。特に中国南部の電子部品や機械、服飾などの輸出工場が深刻です。農民工の低賃金に目をつけたビジネスはもはや行き詰まりです。こうしたことが、こちらの日本企業の新たな課題になっています。

上海での暮らし

昼ごはんを食べながら、家内と雑談しました。上海万博の様子を伝えるテレビ報道などによると、中国社会には経済格差が広がっているようだ。

上海に住む姪のメールがきました。昨日地下鉄駅でゴミ箱から焼き芋の皮を拾って食べている青年を見ました。おそらくペットボトルを拾い集めて生計を立てている人です。かたや冬なのに呑気にアイスを舐めている人がいます。同僚の李さんはお昼ご飯の麺を一口すすって残しました。自分の親と同じ世代と思われる人たち

が、自転車の荷台に山のように廃物を積み上げ、ペダルに全体重をかけるようにして運んでいる様子なんかをみるととても心苦しいです。

会社には、100人ほどの中国人がいます。ほとんどが上海人ですが、蘇州、杭州、武漢、南京、江蘇省、北京、河南、新疆などから来ている人もいます。既婚者はみな親と一緒に住んでいません。同じ上海市内でも別のマンションに住みます。自分の子供を親元に預け、週末だけ会いに行ったり、引き取ったりするそうです。「なぜ一緒にすまないの?」と訊くと、「老人とは生活習慣が異なるので面倒」といいます。夜更かししたいし、休日は朝寝坊したいけど、親や義理の親と一緒にだと、そうもいかないからだそうです。ある人はまた、夜ご飯だけ実家に帰って食べるといいます。そして明日のお弁当を詰めてもらって、自分の家に帰るそうです。



今、上海の不動産はとても高いです。2～3年前の2～3倍するそうです。それでとても買えなくて、やむを得ず親の家に住むパターンも多いようです。基本的にはやはり、結婚

前には家を用意する(家がないと結婚できない)、というのが常識だそうです。上海のマンションの値段は日本とあまり変わりません。

武漢の学生が、「なぜ日本の子供達は親と同居しないのか?」と言うと聞きました。「社会へ出てそれなりの収入を得たら、親と同居し、親に楽をさせたい」という思いが強い。しかしそれは、上海と武漢の違いではなく、学生と社会人の違いかもしれません。私の会社の武漢人も、学校を卒業して上海に来て、上海で結婚して上海に住んでいます。親は武漢に住んでいます。

河南省の同僚は河南に3軒もマンションを持っていますが、河南には帰らないで上海で家を買いたいそうです。河南には仕事がないそうです。河南のマンションを売り払っても、上海の狭い一軒すら買えないそうです。上海は東京以上の都会です。

中国はどのように発展していくの

中国でも学生達の就職活動はたいへんなようで、あまり良い話を聞きません。求人が買い手市場になったせい、新卒者の初任給が下がり始めました。ひどいところは1000元を切るところも出始めたようです。製造業の現場で働く農民工の給与も800元程度です。企業の管理職クラスは4000元、5000元と多くなり、日本の部長にあたる経理というポジションでは月収が10000元前後にもなるようです。つまり一般作業員の10倍以上もの給料をもらっている人もいるわけです。こと給料に関しては、日本よりも社会主義国家である中国の方が、格差が大きくなっています。

発展の続く沿海部と第一次産業に頼る内陸部との経済格差は開くばかりです。改革開放政策後に現れた新富裕層は一般庶民からは考えられないほどの財産を蓄えており、時間がたつにつれてその格差は開く一方のように思われます。

最近の中国の発展は、1960年代に東京オリンピックと大阪万博をやった日本の高度成長期の発展の過程とよく似ているという人もいます。しかし、日本は中国ほど経済的な格差の大きい

社会にはなりません。敗戦後に米国の関与があったおかげで農地解放が行われ、日本の農家は1~2ヘクタール程度であっても、少なくとも自分の農地を所有することができました。高度成長期には地方から都市への人口移動がありました。日本列島改造論に見られるような鉄道や高速道路などの公共投資が行われましたから、逆に土地成金という現象もおきて、農家がそれほど貧困に苦しむということはありませんでした。

その後の日本は1989年に不動産や株式のバブルが崩壊したあと、20年以上も経済成長しなくなっていました。社会主義の中国が同じようなことを経験するかどうかは不明です。中国も都市部で見られるような不動産バブルが弾けるのを機に、経済成長が鈍化する可能性はあると見られています。

中国に13億以上もの人口があると言っても、経済格差があり、農民や都市住民の多くには、まだ消費を楽しむ余裕がありません。1970年に、人口1億の日本で開催された大阪万博の入場者数は、6,400万人でした。2010年に、中国で開催されている上海万博の入場者は、約7,000万人の予想です(外国人、300万人を含む)。高い入場料の上海万博に旅費を負担してやってくる来場客は、新富裕層の一部と近隣の省に住む都市住民(中間層)などに限られているのではないのでしょうか。

購買力を持つ者がまだ限られているとすると、自動車や電機などの内需の拡大は、日本企業が期待するほどには進まないと見られます。

中国はこれからも安い労働力を生かして、労働集約的な工業製品の輸出により、経済発展を続けようとするでしょう。しかし、日本以上に「もの真似」で成長してきた中国は日本以上に行き詰まる可能性もあるようです。付加価値の高い工業製品を製造しようとするれば、産業の高度化に対する投資も必要になります。エネルギー利用の効率化や環境問題などの課題も多い。

中国では社会主義の体制下で政治に関する話しをすることは危険だという風潮があります。ネット上の書き込みが網路警察に監視されてい

て、反体制的な書き込みがあると公安当局から呼び出されます。今後政治、社会的不安も発生するのではないかという説もあります。しかし、現在の国家体制は強固で崩壊することはないと見られています。



参考文献：

私には湖北省武漢市に住む友人がいます。また上海には26才になる姪が住んでいます。この投稿は最近のメールで中国に関する情報のやりとりをしていたものを再構成して作文しました。折に触れてメモしておいた新聞やインターネットの記事も利用していますが、つぎの本で読んだことも参考にしています。

1. 財部誠一、中国ゴールドラッシュを狙え、新潮社、2010

「日本が不況を脱出し、日本経済を復活させるには、中国市場をよく理解して現地化をすすめるには、中国経済にくらいついていかなければならない。安い労働力に目をつけた生産委託のビジネスモデルだけでは、欧米企業には太刀打ちできない」

2. 川島博之、農民国家中国の限界、東洋経済新報社、2010

「中国における、都市と農村の経済格差は、中国の国内に2つの国があると言ってよいほどだが、その融合には途方もない努力が必要になる。中国はこれからも労働集約的な工業製品の製造により、経済発展を続けようとするだろう。だが、資本と技術を海外から導入して、安

い労働力を利用して輸出で稼ぐ経済だけでは、21世紀に真の先進国になることは難しい。」

3. 陳惠運（ちんけいうん）、野村旗守、中国は崩壊しない、文藝春秋、2010

「安価な労働力を武器に、輸出一辺倒だった中国経済は転機を迎えようとしている。経済の安定と雇用創出のためには政府主導の公共事業などで内需を掘り起こす以外に方策はない。現在の中国で消費を謳歌できるのは数千万人ほどの新富裕層だが、都市住民、農民など大多数には消費を楽しむ余裕はない。しかしたとえ経済が失速しても、国内に矛盾があっても、中国共産党の精緻な国家統治システムを考えたとき、国民の反乱などによる体制崩壊は起きない」



4. 大川 豊、中国で日本語を教える、長崎出版、2008

「退職後、蘇州大学、南京工業大学、武漢の中南民族大学で日本語を教えています。最近の中国は経済発展が著しく、都市部では日本とほとんど同じ生活がおくれます。最近では地方都市でも日系企業の進出が盛んです。

宿舎は2LDK、近くにスーパーやコンビニも多く何でもそろいます。物によって物価の水準は異なりますが、食費は5分の1以下でしょう。自動車はほぼ日本と同額です。マンションは南京でも100平米がおおよそ100万元(1,400万円)を超えるでしょう。給与格差を考えると中国人でも高い買い物です。賃貸マンションでも安いもので60平米、3,000元(4万2千円)以上です。」

中国・桂林長期滞在視察旅行

視察旅行参加者一同

平成 22 年 3 月 29 日（月）から平成 22 年 4 月 03 日（土）まで 6 日間、総勢 15 名で中国広西チワン族自治区の景勝の地、桂林を訪ね、長期滞在候補地としての現状と実情を見てきましたのでその報告をいたします。

桂林は、中国南部、広西チワン族自治区の東北部に位置し、水墨画の世界をして有名な「離江下り」に代表される世界的に有名な観光地です。

年間国内外から年間 1 6 0 0 万人もの観光客がこの地を訪れ、その内 2 割が外国人で、日本人も約 10 万人が訪れています。

しかし、近年桂林は観光だけに頼るのではなく、歴史、文化、環境をベースにした住環境に注目し、優しい街づくりを志向し、ゆっくり、伸びやかな生活ができる住空間の創造を目指して活動し、その結果、2005 年に中国建設部（日本の建設省に相当）から「住環境モデル賞」を受賞しています。

桂林は中国でも珍しく脱工業化で自然に優しい都市作りを目指しているのです、これは我々の目指す長期滞在に適する条件の 1 つになるのではないかと思います。

桂林市内中心部人口は約 90 万人で、緯度的には日本の沖縄と同じですが年間平均気温 19 度、年間降水量は 1900 ミリで、温暖湿潤気候に属しています。しかし大陸の内部に位置するため、緯度が低いにもかかわらず、日本と同様に四季があり年間を通してとても過ごし易い気候です。

平成 22 年 3 月 29 日（月）

午後、全員成田空港集合し、中国南方航空にて広州に向け出発。桂林には現在、日本からの直行便はありません。広州、北京、上海経由のいずれかになります。成田から 1 番便利なのは広州経由で、時間的にも待ち時間を入れて、5

時間～6 時間で到着します。

今回、飛行機の広州到着が大きく遅れたため、乗り継ぎ便まで時間が無く、我々は出迎えのガイドさんに会うことができず、慌しく国内線まで構内カートで移動しました。しかし、団員の 1 人は乗り継ぎ出口を間違え、なんとか出迎えガイドさんに会うことができ、国内線までつれて来てもらうというハプニングがありました。

さて、夜 9 時過ぎ桂林空港到着。細かい雨の降るあいにくの天気でしたが、日本ほどの寒さではなく、早速、迎えのバスでホテルに向かいました。

普通、市内までは約 40 分から 1 時間かかるのですが、途中、空港と市内を結ぶ道路の建設場所が何箇所もあり、これが完成すれば上下片側 2 車線の高速道路になり、30 分でつながるとの説明を受けました。

宿泊ホテルは「桂林幸運酒店」という、ホテルとコンドミニウムが併設された 4 つ星クラスホテルで、我々はコンドミニウムスタイルの部屋に計 4 泊宿泊しました。棟別に部屋が分かれており、セキュリティーのため自分の棟に入るためには、ルームキーカードで自動認証を取る必要があります。

部屋はリビングルーム、寝室、バスルーム、キッチン等がついていて、部屋全体が大変広く、また調度品などもしっかりしていて、印象として普通ホテルのジュニアスイートルーム以上で、ここで長期滞在をすれば、疲れることはないとの印象を受けました。

なお、ここは 1 泊朝食付きで、シーズンにもよりますが、350-450 元（約 \5,200 ～ \6,800）から泊まることができます。

平成 22 年 3 月 30 日（火）

朝食は中国料理と西洋料理のバイキング。品数は豊富で特に問題はありませんでした。

今日も雨でしたが、市内観光と各施設視察に出発しました。七星公園、らくだ岩、パンダ研究所、日塔・月塔、象鼻山などをめぐり、昼食は「桂林人美食街」で取りました。

ここは桂林の一般の人が食事をするところで、観光用ではありません。長期滞在の場合、一食どのくらいかかるかを体験してもらうため選びました。

ここでは一人平均4-5品取って、飲み物を入れても約70元(約¥980)で済みましたので、いかに物価が安いかがわかります。

その後、市内の総合病院、桂林人民病院(桂林市救急センター)訪問。ベット数230の本格的西洋式総合病院で、桂林で最新の医療施設と優秀な医師が常駐する、唯一外国人を治療できる病院です。

そして、ここでは海外旅行保険を使って治療を受けることができます。

続いて、長期滞在用コンドミニウムを3箇所訪問。新築2箇所、中古1箇所。当地では基本的小風呂にバスタブはなく、シャワーのみです。ただ、探せば勿論バスつきの部屋もあります。

新築：コンドミニアム1階：広さ約80平方メートル、2LDK、家具、電気製品つき：家賃日本円約3万5千円。

新築：コンドミニアム6階：広さ約120平方メートル、3LDK、家具、電気製品つき：家賃日本円約5万円。

中古：コンドミニアム1階：広さ約65平方メートル、2LDK、家具、電気製品、バスつき：家賃日本円約3万円。

次に市内からちょっと離れたところにある万福景健康リハビリテーションセンター訪問。ここは周りを山や湖に囲まれた静かな環境の中にある一大健康維持促進センターです。ここでは、ゆっくりと滞在して、健康を回復するための4ツ星クラスのホテル宿泊施設、そのためのテニス、バドミントン、卓球などの各種リクリエーション施設、ダンスホール、カラオケルームなどがあります。

また、医療センターも併設され、高齢者医療の専門家やプロの高齢者介護チームが西洋医学と鍼、灸マッサージ等の漢方治療を織り交ぜて臨

床の仕事に従事しています。治療費は1日1科目当たり約1,000円で、宿泊は1ヶ月一人約50,000円で3食付です。但し、ここでは海外旅行保険適用はできません。

その後ホテルに帰り、一休みして夕食に出かけました。夕食は「お茶宴会料理」で、各種お茶に肉や野菜を混ぜて調理した、桂林独特の栄養豊富な健康的長寿料理でした。そして、ここでは長期滞在の場合必要になる、言葉の問題を解決するため、日本語アシスタントに来てもらい一緒に食事をし、親交を暖めること出来ました。皆、日本語が上手で会話に支障は無く、お互いに話が弾み遅くまで歓談し予定より遅くなってホテルに戻りました。

平成22年3月31日(水)

本日はいよいよ「離江下り」です。但し今の時期は渇水期のため、全工程はできないので最初にバスで「鍾乳洞冠岩」を訪問しました。

ここは桂林で一番大きな鍾乳洞で全長12km、三層構造で、最下層は地底川が流れ、そこをボートで下り、内部をトロッコ列車やエレベーターを使って見学します。そして約2時間の観光はそのスケールの大きさに全員圧倒されました。その後、船着場から時折小雨のぱらつく、文字通り幽玄で水墨画の世界「離江下り」を楽しみ、船上で川魚料理に舌鼓を打ち、その後再びバスにて陽朔へ向かいました。

ここ陽朔は改革開放以来、対外開放の観光都市の第一陣として、美しくもまた独特な風景により多くの観光客を受け入れて来ています。し



かし、それでもなお、今でもここでは時間がゆったり、静かに流れています。

夕食は名物の「ビール魚料理」で、その後「印象劉三姐」を見学に行きました。これは、実際の山と川を舞台にして、総勢 600 名以上の人たちが演ずる踊りやマスゲームの一大「山水劇場」です。

しかも演ずる人たちは近隣の村人で、昼間は農業や漁業に携わっている一般の人たちだそうです。参加者全員このショーの素晴らしさに感激し、将来陽朔を訪れる方がいれば、このショーは外せないものだという点で一致しました。

平成 22 年 4 月 1 日 (木)

この山水画の街や周辺をよく知るための観光に出かけました。先ず地元の農家を訪問しました。ここは数百年続く伝統ある農家で、家の周りや内部の作りは昔のままで、中国の一般的農家の日常生活をよく知ることができました。

次に山の中腹に穴の開いた月亮山や樹齢 1000 年以上ガジュマルの木を見に行きました。途中、周りの景色がいろいろ変化し、離江下りで遠くからしか見えなかった景色が目の前に現れ、山水画の世界を身近に見て、何とも言えない自然の雄大さと悠久の歴史を肌で感じるような雰囲気でした。

その後 2 時間かけ桂林に戻り、昼食は桂林名物「ビーフン料理」を「桂湖飯店」で楽しみました。

桂林ビーフンは中国では誰でも知っている桂林を代表する有名な食べ物で、北の小麦に対し、南の米粉（ビーフン）と言われます。ビーフン

で一番重要なのは、日本のラーメンと同じようにタレ（スープ）で、各お店とも独自の秘伝のタレを持っているそうです。食事をしたところは桂林でも一・二を争う有名店だそうで、高級車がずらりと並んでいました。食後、お土産店によりホテルに帰りました。



夕食は市内を流れる離江のそばにある「九龍酒家」で「山水料理」を食べました。ここは離江で取れる川魚、えび、蟹などを中心に調理する郷土料理で、中国料理の中でもちょっと変わった内容のものでした。

夕食後、桂林 4 湖ナイトクルーズに参加。綺麗にライトアップされた岸辺や橋を船から眺め、途中鷓鴣のショーや中国の伝統的な胡弓の調べを満喫することができました。

ただ、下船後バスに戻る途中、街頭の無い暗いところを通ったのですが、そこで団員一人の携帯カメラの紐を鋭利な刃物で切られ、カメラを取られてしまいました。本当に一瞬の間で、その男を取り押さえましたが、既にカメラは他



の者に渡っていて、取り戻すことができませんでした。

本当に残念なことでした。

平成 22 年 4 月 2 日 (金)

この日は終日自由行動の日でしたが、希望者だけで桂林で最高峰の「堯山」観光に出かけました。

今日は珍しく快晴で、海拔 909M ある頂上にはスキー場にあると同じリフトで登ります。だんだん登るにつれて空気がひんやりしてきます。桂林の水墨画の世界が眼下に大きく広がってきます。

10 分ぐらいで頂上に到着。少し強い風が吹いていましたが、眼下に広がる壮大な景色を十分堪能することが出来ました。その後、ホテルに帰り自由行動となりました。



ただし、私はカメラ盗難の団員のため盗難証明書作成のため所轄警察署に行くことになりました。これは、海外旅行保険から還付金をもらうために必要な書類で、本人、ガイドさんと一緒に行きましたが、タクシーで 20 分以上かかりました。それでもタクシー代は 15 元（日本円約 210 円）でした。タクシーの初乗りは 2.8Km、8 元（日本円約 112 円）とのことでした。路線バス

は大体 1 元から 2 元で行く場所によりますが無料バスも運行しています。総じて物価は日本の 1/3 から 1/4 程度だと思います。

夕食は「月牙楼」でとりました。ここは七星公園の中にある由緒あるレストランで、政府の高官や会社の取引先を接待する時に使うそうで、日本で言えばさしずめ割烹料亭というところだと思います。出てくる料理は精進料理で、その味と量に皆満足なようでした。



平成 22 年 4 月 3 日 (土)

出発のため、早朝 5 時に起床、朝食を取り空港向け出発。

朝 07 時 40 分のフライトで広州に向け出発しました。広州では行きに会えなかった出迎えのガイドさんにも会え、スムーズに国際線に搭乗することができました。この広州空港は大変広く、また、国際線から国内線に乗り換えるには複雑です。何回かくれば問題ありませんが、初めての場、必ず出迎えガイドを頼むか、よほど乗り換え時間に幅を持たせないと乗り遅れることがあると思います。

午後 2 時、無事成田空港に到着。皆で再開を約し別れました。

以上ご報告申し上げます。

コタキナバルで日本語ボランティア

東海支部 No.208 小林 明広

2010年4月上旬から約1ヶ月、マレーシアのコタキナバルで日本語ボランティアをしました。これはワールドステイクラブ主催の活動に参加したもので、日本語を教えると共に、空いた時間はロングステイを楽しみました。

1 全体概要

- ・月水金の夜に日本語の授業があるので、昼間は予習や資料の作成、配布するコピー依頼などを実施した。
- ・火木は、午前中にゴルフ、午後は昼寝やInternetなど、夜はテニスをした。
- ・土日は洗濯や買物・観光・マッサージなどにあてた。

2 日本語の授業

テキストはみんなの日本語5課～7課で、日本を出発する前に教案を作っておいた。現地では、当日教える項目の確認と教案の修正、休憩時の話題などを用意した。教室は宿舎のマリナコートから歩いて10分。学生は7人、全て中国系マレーシア人、年齢は18～31、男性2人、女性5人という構成だった。学生は英語ができるので、日本語の会話を基本としながらも、文法の説明には英訳を多々用いた。この点は日本で担当した複数母語のクラスに比べてやりやすかったし、学生の理解も早かった。また学生たちが現地のレストランへ2回連れて行ってきて、現地の食事を一緒に楽しんだ。

3 現地での生活（1RM = 30円）

宿舎のすぐ近くにデパート（センターポイント）があり便利だ。生活必需品はすべてそろっており、食事やマッサージ、足の角質取り、とこや等もここでできる。周辺には豊かな森ときれいな海が広がっている。宿舎のベランダから

キナバル山がよく見える。

天気は朝から昼ごろまで晴れ、午後は雲がわき、夕方から夜にスコールが2日に1回位ある（雷も時々）。最高気温は33℃位だが、湿度が高く、日に当たるとすごく暑い。このため、野外活動は午前中か夜が中心になる。

ゴルフ場は近くのステラハーバーで、セルフでカートと昼食券付きで108RM、コースは日本のゴルフ場に比べて遜色ない。テニスは日本・現地人の混成グループに入れてもらって、夜6時～9時に楽しんだ。

4 感想・物価・費用

- ・現地の人は顔や肌の色・宗教の違いから最初は違和感を覚えたが、慣れると結構ムトリーだと感じた。
- ・現地の食事は脂っこいものが多く、胃がもたれた。このため時々、値段の高い日本食堂にも足を運んだ。
- ・物価は日本に比べ半分位、ビールは日本並みに高い。私の良く行くチェンマイに比べ1.5～2倍高い。
- ・マッサージはオイルを使った揉み为中心で35RM/h、結構気持ちよかった。
- ・ロングステイの観点から、チェンマイと比較すると、物価、食事、ゴルフなど殆どでチェンマイが勝る。英語が通用し、きれいな海があるのがここの優れた所か。
- ・1ヶ月の費用は合計18.8万円で、内訳は、現地までの往復7.9 宿泊代4.2 ゴルフ代2.6 生活費4.1万円
- ・最後に、チェンマイでも日本語を教える機会があれば、ぜひ経験したいので、下記まで情報をください。kobayal77@yahoo.co.jp

南米の旅② (ペルー、ボリビア編)

関東甲信越支部 No.40 平澤 信

VISA と旅日程

'05. (平成17年) 1.10 (日) エクアドルの西側の地方都市ロハ (Loja) から夜行バスでペルーの北の街ピューラへ。海沿いの街トルヒーヨを経て、ペルーの首都リマには1月13日 (木) 到着。ここまでの移動は全て長距離バス利用。ペルー、ボリビア両国とも3か月以内はVASA不要。

ペルーのピューラへ (piura) 心も渴く風景

1月10日 (月) ロハからピューラへ。バス代8\$ (848円)。夜行バスで真夜中にエクアドルとの国境越えだったため、真っ暗で辺りの景色は全く分からなかった。蛾と小さな虫が飛交う山奥のイミグレーションで旅人は叩き起された。バスを降りてポーとした頭でノロノロと入国手続きに向かう。

乗り物酔いの薬 (センパー) はかなり強いらしく、なかなか眠りから覚めない。ぼんやりした頭で、細かい英字を読まされ、書かされた上、パスポートを受け取るため、漆黒の闇の中を道路の向かいにあるオフィスまで右往左往させられた事をぼんやりと覚えている。髭を生やした年配の担当官は、怖い顔で、旅人のちょっとしたミスも厳しく注意して、旅人を怯えさせた。

だが、私を見るなり、急に優しい顔になり“フジモリ大統領”と叫んで、“どこから来たの？東京？”などと無駄口を利いている。フジモリ氏が大統領の時、この人に何か良い事でもあったのだろうか？ こんな時、本当は何と答えるのか分からないので、いつもより少し丁寧な頭を下げて通過した。

国境とは言え、全く人気のないこの恐ろしい景色の山間部にイミグレーションを作らなくとも…。と髭オヤジ達を気の毒に思う。

朝の6時30分ピューラの街へ着いた。この街

も地図に地名はあるものの、旅行案内は一切掲載されていない。普通の旅人は通過すると思う。

朝から陽射しは強烈で、40℃を越えているが湿度が35%とく、物陰に入れば暑く感じない。

ガイドブックにホテルの掲載がないので、タクシー運転手の勧めに従って、土地の人がよく利用すると言うパシュヒック・ホテルに泊まった。広々とした中庭もあり、ACも付いているのだが、あまりの暑さで、殆ど利いていない。

因みにホテル代は25ペルー・ソル (PS) (879円)。物価も住人の生活を反映してかなり安い。

街の様子は、西洋風の建物が多いのだが、全く緑がない。大通り以外は舗装もされてなくて、道路には「きな粉」を敷き詰めたような黄色い砂道がどこまでも続く不思議な景観だ。

いくら暖かいところが好きでも、緑のないこの街に、普通の日本人である私は住めないと思った。街は歩いて15分ほどで目抜き通りを抜けてしまうほど小さな街だ。

高温と乾燥のため、やたら咽が渴くのだが、この景観を見ていると、咽の渴き以上に心の渴きを感じる。豊富なのは、燦燦と降り注ぐ太陽のみ。「何と貧しい！」これが実感。

大通りの銀行でお金を両替し、ペルー・ソル (PS) を手にした時、“あー、ペルーへ入ったのだなー”との実感が湧く。



トルヒーヨ（ペルー）この暑さに雪が…？

1月12日（水）早朝5時30分到着。バス代25ペルーソルPS（799円）。夜行バス続きで体力を消耗したので、本日3ツ星ホテルのコロナアル・ホテルへ。45PS（1,439円）。

冷房のよく効く清潔な部屋でよく眠ったら、咽の痛みが少し取れて、体が軽くなった。

昼食に街のイタリアン・レストランでパスタを頼んだ。イタリア人らしき若いコックさんが好感が持てたのだが、出されたパスタは粉っぽい。え、トマトソースが酸っぱ過ぎて歯が浮いてしまいそう。高くて、まずい。大勢の客達もこれを食べているので、この街の人達と、私達の味覚が違うとしか思えない。ウーン食文化の融合はかなり難しいことかも。

街を散策してみると、ペルー第3の都市だけに、コロナアル風の建物も多く、整然と区画整理され古い歴史のある街のようだ。

しかし、カテドラルもドミンゴ教会も派手派手の原色に塗られていて、安っぽく、有難味が感じられない。けれども、これは日本人の私の主観であって、これが、この国の文化なのでしょう。

街の中央から、遠くの山が汚れた雪を被っている？ 不思議な景色が見えた。この暑さの中で、この時期ペルーで決して雪は降らないはずなのに…。

ペルーの首都リマへ

1月13日（木）トルヒーヨ発8時の長距離バスに乗車。リマまで9時間の旅。バス代25ペルーソルPS（799円）。

走り始めて1時間ほどすると周りの景色は一変する。雨が降らないため、乾燥して、地平線の果てまで植物の1本も見ることにはできない。山の石が溶けて（風化して）、今砂漠になりつつあったのだ。

昨日以来、雪だと思っていた物は実は砂であった。トルヒーヨを豊かでない街と思っていたが、リマへのバスの中から見た人々の暮らしは、今まで私が眼にした人間の暮らしの中で、最も貧しい生活に思える。アマゾンで見たインデオ

の掘っ立て小屋のような家さえも豪邸に思える。

40℃を越える気温の中で、トタンで囲っただけの家。屋根は日除けにスタレを掛けただけ。家財道具と呼ばれるものは皆無。ポリタンクに飲み水が少し。食べ物は、とうもろこしの粉やジャガイモだとバスの運転手が教えてくれた。それでも人は生きなければならない。この生活を見て、昨日の汚れた雪景色の驚きは異質の驚きに変わった。

ペルーがこんなにも貧しいとは知らなかった。アンデスの清らかな水で、質素ではあるが健康な暮らしをしていると思っていた。

国土の殆どが砂漠と化してしまったため、人口の7～8割が、首都リマ集中していると、案内書に書いてある。

誰が、どのような政治を行えば、この国は蘇生できるのだろうか？ 砂漠化と言う自然の前に人間は本当に無力だ。

午後4時近く、予定より少し早くバスターミナルに着いた。何もかも灼熱の太陽に焼かれ、リマの旧市街も黒っぽくくすんで見えた。

この辺りは、かなりの危険地帯との情報を得ていたので、道草せずにタクシーで宿へ直行した。

リマでの生活（優雅な日本風呂も）

この宿は、旅に出掛ける前、ラテン・アメリカクラブ役員のU氏に南米の旅事情を伺った折ご紹介頂いた宿で、民芸品市場に程近い「ホテル江田イン15US\$（1,590円）朝食付き」だ。日本人の枝光宏子さんご夫婦の経営するペンションで、お2人のさり気ないサービスで心身ともにくつろげる宿だ。

ユニークだったのは、ご主人が日曜大工でパテオ（中庭）に茅葺の東屋を作り、そこに日本式の風呂があったことだ。満天の星を仰ぎながらの入浴は、日本の温泉にいるようで、リマにいる事を忘れてしまいそうだった。

お腹の弱い私のためにご主人が、魚と野菜入りの「おじや」を造って下さった時は本当に有難かった。同胞の好だろうか？ 日本人と言うだけで、こんなに良くして頂いて採算が取れるだろうか？ 少し心配。

リマは、大都会だけに博物館、民芸品市場や大きな市場もあり見る所も多く、長期滞在しても退屈することは無さそうだ。ここへ辿り着くまでの間、バスから見た酷い生活が嘘のようにリマ市内は活気に満ちている。

宏子さんご夫妻のお人柄もあると思うが、ご近所や、日本人同士との、近づき過ぎず、孤立せず程よい距離を置いた対人関係を拝見できたことも素晴らしかった。

滞在中、市内に住む日本人滞在者のNさんから「美味しい水だき」を食べに来ないかとお誘いを受け、お相伴に預かった時も、リマに住む日本人の生活を垣間見る良い機会であった。日本の住宅事情からすれば、かなりの豪邸で、メイドさんも2人いた。このメイドさん達に「日本の水だきは好きですか?」と聞いたところ、「前は物足りなく思ったが、この頃は美味しいと思うようになった」と含みのある答えが返ってきた。

日系人も多く住んでいて、五十肩が痛んだ時、即マッサージ師を紹介されたときは、日本の埼玉にいるより便利だと思った。

因みに、マッサージ師の彼は、日本で事業に失敗し、老後日本での生活は厳しいと判断し、48歳でリマに来たのだと言うが(現在52歳)、竹林に囲まれた閑静な住宅に住む彼の生活は、周りの環境も含めると、東南アジアで人気の地よりも遥かに豊かな生活に、私には見えたのだが…。

リマで馴染めなかったもの

唯一つ馴染めなかったのは、サン・フランシスコ教会の地下で、おびただしい数の人骨を見た時だ。地下3階までこの景色は続くと言うが、地下1階部分だけで、25000体の骨が納められていた。この骨は植民地時代に葬られた庶民のものと言う。頭蓋骨と他の部分とは分けられて、渦状に美しく、芸術的(?)に並べられている。死後一旦埋めた遺体を2か月後掘り出して、骨の部位ごとに所定の箱に収めるのだとの説明であった。

掛かり付けの宗教を持たない私には、全く意味が分からない。骨を美しく並べて飾る事にど

んな深い意味があると言うのだろうか?

若い頃見たイタリア・ローマの「骸骨寺」を思い出した。骸骨寺では、電気の笠や廊下の手すりまでも人骨を使っていた。

稀有なものを見たとか、異文化と簡単に呼べない白人達の猛々しさ(?)の様なものを感じて仕方がない。

農耕民族を祖先に持つ我ら日本人には馴染めない光景だった。

エレナさんのお宅拝見(リマ)

日本語の堪能なスペイン系ペルー人のエレナさんは「南の会」のSさんが日本を出発の時紹介して下さいました。

リマのミルフローレス(高級住宅街)に住む37歳のご婦人だ。庶民の住む私の宿泊先「江田イン」に車で迎えに来てくださり「日本人が、何故こんな貧しげな所に住むの?」と不思議がった。

江田インは、山小屋風で私は結構気に入っていたのだが、彼女には、あばら家に見えて心配らしい。日本に10年も住み、かなり日本事情に精通しているが日本の「侘び・さび」の世界はまだご存じないようだ。

彼女の住む家は、私の宿泊先から車で15分。ミルフローレスの目抜き通りに歩いて7分くらいの高級住宅街にあった。

寝室4部屋、広い台所、リビングから見える陽の当たるパテオ(中庭)、どこも清潔で快適なもの。

エレナさんは、「貴方がご希望ならば1か月200\$ (21,200円)で滞在して構わない」と言う。よほど江田インにいる事が気掛かりらしい。でも、リマは、それほど危険な街なのかも知れない。エレナさんの家も、鎖で幾重にも施錠したうえ、本扉にも鍵を2つ掛けると言う生活を見ると、かなり危険と隣り合っていることが納得できる。

独身女性の彼女が何故こんな高級住宅に?と聞いていたら、エレナさんは自分からその顛末を話してくれた。

「日本のトヨタに出稼ぎに行き、丁度日本の

バブルの時で、1か月50万円も働けた。寮に入り、昼も夜も働いたお金で、この家を買った」という。

では、この家はいくらであったか？「5万\$ (530万円)」であったとのこと。日本とは物価が違うとしても、信じられない価格だ。

彼女の容姿は、ペルー人には見えず、やはり母国スペイン人に見える。「この美貌で日本の男達にかなり持たてたでしょう？」の質問に「ウフフ…。結婚も申し込まれたのよ」と含み笑いをしていた。

彼女曰く「日本大好きで、10年も滞在したため、日本政府から不法退去させられた。だからもう日本に行くことが出来なくて残念なの」とのことであった。

今は、日本で働いた資金で、洋装店も開き3人の従業員を使っていると言うが、中国製の安い衣類の進出が彼女の生活を圧迫しなければ良いかと願うのみだ。

江田インでは、パピルス様の家に住み、野菜の多い日本食風の食事をし、仙人になったような愉快な5泊6日の逗留であった。決して裕福な国ではないけれども、何故かまた来たい気持ちが後を引く。

ペルーは、豊富な地下資源を持つ国と言うが、庶民はその恩恵を受けていないような気がする。宝の山に腰掛けて腹を減らしている貧民なのだろうか？

ペルー中の富をリマに集めてしまったように、リマだけは豊かな感じがした。治安が悪いと聞いていたが、街を歩いて見て私が感じたことは、悪い人はほんの一握りで、殆どの人々が善意で素朴だと言うことだ。

江田インの宏子さんが、ナスカへのバスも、宿も手配してくれた。ご好意にすっかり甘えたリマの楽しい1週間が終わった。

リマでヌクヌクと、もっと滞在していたい気持ちを奮い立たせナスカへ向かう。私の旅はまだ始まったばかりだから。

地上絵のナスカ（荒涼たる風景）

1月18日（火） リマ発9:00 →ナスカ着16:00。7時間の旅。バス代80\$ (2,609円)。

辿り着いたナスカは、TV等で誰でも知っている通り、荒涼とした大地が地平線まで続いている。バスから見た景色も、廃墟のような街ばかり。こんな過酷な条件で人は生きられるものなのか？ 厳しい現実を見た。

“…誰も辛くは当たらぬを

なぜに心の悲しむる…”

私は普段、詩を愛読するような繊細な人間ではないのだが…。思わずこんな句が口を突いて出るほど侘しい風景だ

食事のついでに街の市場を回って見たら、野菜も魚も干物のようであった。かなり高いお金を払っても食べた食事はまずかった。

旅することは楽しい。けれども、こう言う身を切られるような切なさ、どう対峙したものかいつも戸惑ってしまう。

ナスカの地上絵に特別の興味があった訳ではないが、クスコへ行く途中なので、1泊して翌朝（19日（水））セスナに乗って見ることにした。

当日の明け方、体の節々がバキバキと痛みを感じる。検温してみると38.8℃。特に疲れた感じもないのに一体この熱は何だ！ いつものことながら情けない。

しかし、セスナも予約済みのため、体調を気にしてはられない。熱でトロンとした目で、無理を押して30分の地上絵見学に。

若くて超ハンサムなセスナ操縦士の荒業？のような地上スレスレまで急降下して「マダム猿が！鳥が！」のサービスは有難かったけれども、体調不良のため、目まいがして、危うく吐きそうになってしまった。ビニール袋を握り締めての30分は、事その他長く感じた。

ここに書かれた絵は「雨乞いのための絵」との説明であったが「こんな絵で雨は降らない！」と私は捨て鉢な気持ちになった。

気持ちの余裕をなくしたまま次の訪問地アレキパへ向う。

ナスカに住んでいる人には申し訳ないが、ここには住みたくない。ここに住んだら直ぐに死んでしまいそうな気がする。

因みに、ナスカのホテル代は、ロス・ホルタレス35\$ (1,142円)。観光客が多いせいか清潔

で、明るい良い部屋であった。セスナによるナスカ絵ツアー代50 \$ (5,300円)。

お気に入りのアレキパへ（ペルー）

1月19日（水）。いくら旅好きとは言え、38.8℃の熱と、激しい下痢に悩まされながらの旅は、いささか辛いものがある。

ナスカへの出発が夕方であったため、ホテルで半日休んだことが幸いしてか、朝の鎮痛剤の座薬が効いたのか昼過ぎには37.5℃まで熱は下がったが、腹痛はあり、眼球も熱を帯びていて、体はだるい。

自分の腹の中を調べてみたい。さらさら流れる清流で胃や腸を洗い、痛むところにマキロンを塗って、燦燦と太陽に当てたら治る。

ただし、胃と腸を乾している時、猫やカラスに食べられないように気を付けなくてははいけない…。と埒もないことを考えた。

昼間ウトウトしながら、神田「満月」の熱々の力ソバを啜っている夢を見た。私は、普段特にソバを好んで食べている訳ではないのに、何故こんな夢を…？ 日本人の根底に流れる食文化の妙であろうか？

夜9:30分の夜行バス発車時刻には、少し体が楽になった。

ナスカ→アレキパ間、9時間30分の旅。バス代45 \$ (1,468円)。

アレキパには、翌朝7時に到着。小都市ながら文化施設もあり、閑静でしっとりしたこの街を気に入った。1～2泊で通過する予定であったが、身体不調のため、5泊と言う長逗留になってしまった。微熱と下痢が続いていて、いまいち志気が上がらない。

少し体調が落ち着いた時、この街の市場へ出掛けた。南国特有の匂いがしていた。ただし、魚の目はどんよりと曇り、肉類には真っ黒くハエがたかっていた。果物だけは新鮮で豊富であった。

アレキパで見た2体のミイラ

その後、「アンデスの聖地博物館」へ行って、「生贄（いけにえ）のミイラを見た」生贄はいず



れも少女で、年齢は12～14歳。火山の噴火を鎮めるために神に捧げられたのだと言う。

生贄にされる前夜、少女には、美味しいものが振舞われ、チチャ（お酒）を飲まされ、ウトウトしている少女の後頭部を鈍器で殴り殺して捧げると言う恐ろしい説明だった。

「生贄にされることは名誉なこと」との説明であったが、それほど名誉な事なのに、何故年端も行かない少女を選ぶのだろうか？

生贄はなぜ処女でなければいけないのだろうか？ 処女にそれほどのご利益があるとも思えないのだが…。

乾燥した大地に埋もれていたミイラは保存状態も良く、500年もの歳月を経た少女の顔には表情が少し残っていた。斜め上を向いた顔は笑っているようにも、泣いているようにも見えた。

また、この街の大きな教会の壁画で「最後の晚餐」の絵を見た。皿に盛られたご馳走は、「クイが1匹（大きなネズミの皮をむしたペルーの名物料理）」手足を上に向けて転がっていた。12使徒達の深刻な顔と対照的で思わず吹き出してしまった。

では、「日本の教会で最後の晚餐」の絵に出てくるご馳走は何だろう？ やっぱ「刺身の盛り合わせ」だろうか？

ホテル・レジナ 20PS (689円) 朝食付。共同の台所、パテオ（中庭）もある。そして、感じの良いテキパキ女将がいるお宿。

コンドルの舞うカニヨン・デル・コルカ渓谷

1月22日（土）アレキパ滞在中、大荷物を宿

に預けコンドルの舞うかの地へ1泊2日のバスツアーに出掛ける。ツアー代22 \$ (2,322円)バス、ホテル、ガイド料で食事代は別。

ホテル前を8:00スタート。観光バスで5時間カニヨン・デル・コルカへ。

ペルーに来て始めて見る深々とした緑に心が安らぐ。この辺りまで来ると、村人の大半はインデオだ。

この地方も殆ど雨は降らないというが、ヴィレッジのあちこちに轟々と音を立てて流れる清流を見た。地下水脈を探り当てたのだと、ガイドは言うが不思議な景色であった。

村人は何を食べているのか?聞いてみた。「ポテトや豆が常食で、時々飼っているアルパカ」とガイドは答えた。コレステロールや高血圧症にはなり難いけれども、長生きは出来ない食事内容だ。

真っ赤な汚れたスカートを履いて、杖を突いてヨタヨタ歩く老女を、村で多く見かけたが、冷え込みの厳しいこの地方で、化繊のピラピラしたスカートは似合わない。日焼けした老女達の顔は、シミと皺に刻まれていて、過酷な生活環境である事を物語っている。

インデオ特有の生活様式にこだわり過ぎて、文化そのものを根こそぎスペインに持っていかれてしまった気がする。

「インデオの性格は、穏やかで人懐こい」とガイド氏は言うが、この穏やか過ぎる性格も又、自分達の文化の多くを失ってしまった要因に思えてならない。

私達の昼ご飯は、こざっぱりしたレストランで、薄味美味のトマトスープと、豚や牛と全く味の違う意外と淡白な味のアルパカステーキだった。13PS (424円)。胃が喜んだ。

本日のツアーは、ドイツ人、アメリカ人、ノルウェー人。スペイン人。そして日本人2人の計12人。

さて、今夜の宿は、ムード溢れるログハウス風。だが、このヴィレッジは標高が3600mと富士山頂よりも高い位置にあるため、夕食前、アメリカ人の若い男性が激しい頭痛と腹痛、嘔吐のため、文字通り七転八倒の苦しみを訴えた。高山



病特有の症状なのだが、こんなに激しい苦しみ方を見たのは始めてで、死ぬのかと思った。回り的人達はオロオロするばかり。その時、医者卵だと言うドイツの若者が、手際よく酸素ボンベと高山病薬を飲ませて事なきを得た。

私も日本から持参したダイアモックスを常時半錠服用していたのだが、弱すぎるのか歩くと息切れはするし、頭がボーとして全財産入りのバッグをレストランのトイレに忘れた。アメリカ人女性がすぐに届けてくれて大事には至らなかったが、恐ろしきかな高山病。

翌朝はコンドルを見るため、朝5時起床6時朝食6:30出発。のガイドの指示に、若いヤンキー娘と共に私も盛大に悲鳴を上げた。

朦朧とした頭で向かったコンドルの舞う展望台であったが、ミルク色の霧が立ち込めて谷底は全く見えない。

「早朝に谷底が見える日は殆どない」とガイドさんは言った。谷底は見えなかったが、悠然と舞うコンドルを見ることは出来た。

切立った山々には仙人さえ住めないほど険しく雄大で、この景色を見ただけで私は十分楽しめた。

休養をとったにも関わらず、胃も腸も具合が悪く痛む。一体この体、生きながら腐ってしまったのだろうか？

一旦アレキパのホテルに戻り一泊した後、翌日の夜行バスで、クスコへ向かう。

夢のような街クスコ（ペルー）

1月25日（火）アレキパ→（プーノ経由）クスコへ。バス代50PS（1,631円）。ガイドブックには、15時間と書いてあるが、実際は、9時間で到着した。2年前新しい道路が開通して、6時間も時間短縮したのだ。早く着いたから良いという物ではない。こんな不正確な古い情報を載せるガイドブックに小腹が立つ。これでは「地球の迷い方」ではないか？

早朝5時クスコ着。朝もやの中に浮かび上がった美しい石畳の街クスコの風情は口では語りつくせない。長い歴史に刻まれた重厚感のある建物が放射状に整然と並んでいて、始めての街なのにとっても落ち着く。インカ文明の水準の高さが偲ばれる。

シーズン中であったため、目指したホテルは2軒とも満室で断られた。断ったホテルのフロントの人が親切に紹介してくれた、アルマス広場の目抜き通りに面したホテル・チャスキに有難く行って見ると、建物は古いがどっしりとした趣のあるホテルで、US \$ 10（1,060円）。

設備も悪くはないのだが、建物全体が傾いていて、部屋の中でボールペンが転がってしまうほど傾いている。長時間部屋にいと目マイがしてくる。

こんな一等地で値段が安過ぎると思ったら、やはりワケありだった。いい宿を探さねばと思っている矢先、一足先にクスコを旅立った例の「アラマ〜の渋ちん伯父さん」ことM氏が、ポリビアの地からメールでHアニータを紹介してくれた。15US \$（1,590円）。

たった5 \$（530円）でこんなにも違うか？と思うほど清潔で、静かで広い部屋で朝食もつく良いホテルであった。

ただし、クスコは標高が3360mと高いため、ホテルから街までの道のりを、毎日階段を200

段ほど昇り降りするのは、予防薬のダイアモックスを飲んでいても途中2〜3回休むほど息切れがした。

クスコの街には、歴史のあるカテドラルや、インカ美術館、ラ・メルセー修道院など見るところも多い。私の琴線に触れた場所は、インカの民族博物館の歴史や素朴な機織風景、耳搔きから牛1頭まで何でも売っていると言う中央市場の活気は心に残る思い出だ。

機織の実演には、若くて美人の娘さんより、確かな技術を持つ皺々のお婆さんのほうが、より多くの観光客のフラッシュを浴びていた。

日本食店「金太郎」

クスコの街の目抜き通りに「金太郎」と言う日本食店があり、よく食べに行った。日本米に近い味のご飯物、焼き魚、すし、麺類などを出してくれる。

ただし、すしは2貫5PS（511円）と決して安くはない。日本人がすしを注文しているところは見掛けなかったが、西洋人達はこの高いすしを大盛りにして、醤油をジャブジャブ付けて、真っ黒くなったすしを食べていた。それほど海に近くもないこの地で、なぜ魚が新鮮で旨いのか？こんな地の果てで日本の味覚の繁盛を見たのは我が事のように誇らしい。

オーナーは40歳前後の日本人男性でクスコに在住8年と言う。

料理の味付けやマナー良さも、現地の雇い人達に指導が行き届いて、安心できるお店だった。外国で日本の味を守ることはそう簡単ではない。

多くの場合、その国の味に妥協し過ぎて、日本の味と程遠いものになっている場合が多い中で、よくぞ、その妥協点を見つけたものと思う。

ウルバンバ溪谷ツアー

クスコ滞在中、緑の多い近郊のウルバンバ溪谷ツアーに出掛けた。

出掛ける前夜、例の「金太郎」から白ご飯を買ってきて、日本から持参した「ゆかり」を混ぜてお握りを作り、鮭缶と野菜・果物を持って出掛けた。ホントに美味しいランチが楽しめた。

ウルバンバ溪谷辺りでは、リヤマや、鶏肉の焼いたものも良く食べた。

日本人旅行者を意識して味付けした訳でもないだろうに、甘辛いたれの味付けが日本の焼き鳥と似ていたのも、インデオと我々は同じモンゴリアンで、全く違う土地で生活してもなお、味覚が似てくるのかもしれないと、不思議な縁を感じた（ただし、これは何の根拠もないあて推量の平澤学説）。

クスコから→チンチェーロ→ウルバンバ→ユカイ→カルカ→ピサクと、この地方の見所を1日で効率よく回ってくれるのだが、ハード・スケジュールで疲労困憊した。

私には、やはり気ままな旅が合っている。

驚いたことに、この辺にもマチュピチュとそっくりな美しい遺跡群が幾つもあったことだ。

この景色こそ、旅に出る前、私が想像していたペルーの原風景であった。

村々にはサラサラと小川が流れていて、村の民は、この小川で野菜を洗い、洗濯もする、のどかな風景が見られたが、時代を逆戻りし過ぎたような人々の暮らしは豊かには見えなかった。

空中都市マチュピチュへ（ペルー）

2月28日（金）早朝、日本で世界遺産の人気1位に輝いた空中都市マチュピチュへ。

一般的にはクスコから日帰りする観光地だが、時間長者は列車で1泊2日の旅へ。列車はジグザグと山間部を4時間かけてマチュピチュ麓駅のアグアス・カリエンテスを目指す。更に、歩くこと25分（普通の健脚は15分ほど）。スーと視界が開けたとかと思うと、眼下にあの見覚えのあるマチュピチュ遺跡の美しい景色が見える。この日ばかりは「雨女」の私も好天に恵まれ、向かいの山々までスッキリと見える。こんな事はめったにないと現地ガイドが言った。

「1911年、草に埋もれ、廃墟と化していたこの遺跡を400年の眠りから覚めさせたのは、アメリカの歴史学者ハイラム・ビンガムで…。」と言う劇的な解説から始まったのだが、語学力が充分でないため、説明の大半を聞き漏らしていると思うと残念な気がした。

でも、この風景を見るだけで、胸に迫り来るものがあり、特に解説はいらなかった。

「遺跡の総面積5キロメートルの中に、人が住むための住居、神殿、宮殿、牢獄、墓地と諸施設が整っている。

かつて1万人もの人が住んでいた」と言うが、この空間に1万人は住めないと私は思った。せいぜい500人が限度では？

復元された居住跡や段々畑などから想像するに、意外と大勢が住めそうには見えたが、1万人の住人…はどうしても引っかかる。空中都市周辺全体と言う意味であろうか？

この遺跡の全容は本当に美しい。いにしえの人々が夕餉の支度をする煙が立ち昇る様子を想像するだけで心癒されるものがある。

だが、現地で受けた説明によれば、「スペイン軍に追われ、この空中都市を去る時、老人・病人等歩けない男女158人（この数字うろ覚え）を、マチュピチュの秘密保持のため惨殺して逃げた」という惨い話も聞かされた。その人達を葬った墓地が遺跡の一角にあった。

現在の景色と言え、数頭のリヤマが草を食む、それはのどかな美しい風景であった。

高度が高いため、山の天気は変わりやすく、雲ひとつ無い快晴だった空から午後2時頃にはパラパラと雨が降ってきた。

同行のYさんは宿に帰ることを急かす。「張子の虎でもあるまいし…。だから人と一緒に嫌いだ！」霞がかかったこの世のものとは思えないマチュピチュの夕暮れを心行くまで見ていたかった…。



南米の女性は強し！

翌朝、この街の夫婦が経営する「美容院」で髪をカットしてもらった。薄暗い店内は昔の日本の美容院の感じがした。私の髪をカットしながら夫婦は喧嘩を始めた。客がいる事など眼中にないようだ。言葉は分からないが、かなり激しい口調だ。と言っても一方的にカミさんの方が強い。

鋏やカミソリを持ったまま夫に殴りかかり、夫はついに、ガラス戸の外まで追いやられた。

断然妻の態度が大きく見えたが、夫も打たれなければならないような事をしてかしたのか？

単に髪結いの亭主で力が無かっただけなのかは不明。目鼻立ちのハッキリした南米人の顔はこんな時恐ろしいほど迫力がある。

でも、客の私に助けを求めるような弱々しい視線を送る夫に、私は「1人で頑張れよ！」とキツイ視線を送り返した。「こりゃ駄目だ」と、そっと眼を伏せる夫の顔を見たら、なぜか可笑しさがこみ上げた。

麓の街は小さいけれども、街中を温水や清流も流れていて、「いで湯の街」と言うに相応しい雰囲気がある。

夕刻、露天の温泉浴場でインディオの人達と、この谷あいの温泉で一緒に入浴した。

だが、この温泉、私達には少し温水がぬるく、中々お湯から外に出られない。

日本人は、いつから世界に冠たる「熱い湯」好きになったのだろうか？

この後、一旦クスコに戻り、翌日プーノ（ティティカカ湖のある街）へ向かう。



プーノからティティカカ湖へ（ペルー）

1月30日（日）9:00 クスコ→ティティカカ湖のある街プーノへ向けて発。プーノまでノンストップで走った。バスの中で、しそご飯、鮭缶、ほうじ茶でランチをとる。

この街も、聞きしに勝る殺風景な街だ。今宵は年に一度のフェスティバルで、60村から集まった人々が、民族衣装に身を包み、カテドラル前の広場で夜通し踊りを披露すると言う。

祭りのため、大通りは少し華やいでいるが、街全体が、うらぶれた瀕死の状態で、歩いても何となく危険と不安を感じた。

樹木が殆ど無いため、日中30℃くらいあった気温も、夜は14.5℃まで下がる。湿度10%と乾いているため、肌寒く感じる。

踊りの見物客が大勢いるが、出店のような食べ物屋は全く出ていない。子供達も吹きさらしの道路にうずくまっていて、楽しいお祭り風景には見えなかった。

予約のホテルは、ジョヤ・デル・ティティカカと言う3星ホテルUS \$15 (1,590円)にしたのだが、節電のため、9時には廊下の電気が消された。



室内の電気も本が読めないほど暗いため、クスコで買って来たロウソクを机の上に立てて、その場をしのいだ。

電気と水を十分に遣える事こそ文化のバロメーターなのだと、ここでも思い知らされた。

巨大湖に住むインデオの生活

翌日（1月31日（月））、ティティカカ湖1日ツアーに参加。ツアー代PS66（2,186円）観光代とボリビアまでのバス代を含む。

朝の7:15分にホテルをピックアップ。

観光客を乗せた船はトトラ（日本で言う萱のような草）の林の中を40分ほど進むと、ここに住むインデオの家々が並ぶ集落に着く。水の中で枯れたトトラの群生が腐っているため、家のある周辺のティティカカ湖の水は紅茶色になっていて、場所によっては匂った。

トトラの家は、ベッドも、台所も、家財道具の全がトトラでできている。粗末な台所には、プロパンガスが設置されていたが、食べ物は木の実や湖で獲れた小魚と言った粗末なものがあるだけ。けれども、皆丸々と太っている。観光客がいないところで、こっそり何か食べているに違いない。

しかし、床もベッドルームまでもが水でジクジクしている。この家、湿気で体に悪そー。

外で木の実をつぶしているお婆さんをカメラに収めようとしたところ「お金が先だ！」と催促された。かなり観光客ずれしている。

ティティカカ湖に浮かぶ幾つかの島のひとつ、タキーレ島にも行って見た。

この島の案内書には、「島の子供達に「飴」頂戴とねだられて、つい渡してしまう人が多いが、この島には歯医者はいない。虫歯になったらかなり深刻な問題となるので、飴ではなく、皆で食べられるパンやフルーツをあげるように…」との注意書きがあった。

ティティ・カカは日本語が訛った？

プーノの言い伝えに「昔、この地に太平洋を漂流して辿り着いた日本人が住んでいて、母国に帰ることが出来ず、毎日、父（ちち）・母（はは）

を懐かしんで話していた」この言葉が訛って「ティティ・カカ」となったのだと言う。

少し出来過ぎた話のようだが、インデオは私達日本人とは遠い祖先が親戚同士、こんな話がこの地にあっても不思議ではない。

ティティカカ湖は日本の琵琶湖の12倍の巨大湖で、「深さは最大281m、水温は低いが、魚類は多く生息し、特に、鱒は住民の重要な食料になっている」と、本日のガイド氏は説明してくれた。

「トトラの家に泊まってみたい」と思ってロウソクを持参したが、湿気と寒さで、明日肺炎を起しそうな家だったので取りやめた。

ボリビアの首都ラパスへ

2月1日（火）いい所なしのプーノの街からティティカカ湖、コパカバーナを經由して、ボリビアの首都ラパスへ。国境越えのバスで9時間の旅。午後4時頃ラパスに到着。

ラパスの街は想像していたよりも華やかで活気があり、決して嫌いな街ではない。

到着日の夕方、ホテルの近くを散歩して串刺しにされた強烈な匂いのする奇妙なものを見つけた。売り子の説明によれば「リヤマの胎児の干物で、酒の肴にちぎって食べると、大変美味しい物」だと言う。

手足も顔も付いているリヤマの胎児の干物は食べられない。なぜ？と言われても食文化の違いと言う他は説明ができない。

翌日、観光バスに乗っておのぼりさんになった。個人では回りきれない民家の軒下や、郊外まで効率よく回ってくれた。バス代US\$6（636円）。

ラパスの街全体がすり鉢状になっているため、街なかでペットボトルを落としたら道路をどこまでも転がるほどの傾斜で、場所によっては高齢者には住み難いかも知れない。標高も3650mと高く、普通に歩くだけで息切れがする。南米の薄い空気に慣れて来たのか、薬なしでも頭痛や目まいははしなくなっている。

この街では、すり鉢の底には高級住宅が並び、

小高い丘の上の方には貧しい人達の掘っ建小屋のような家が山頂まで、ピッシリと並んでいる。高いところは、空気が薄いからだと言われガイド氏が説明してくれた。

お互い我がまま者同士の旅友？

ラパスには、4日間滞在することにした。ここに滞在中は、お互いを干渉しない自由行動をYさんに提案した。「食事も？」とYさん。「全てフリーに…。そして出発の朝10時にロビーで…。」と私も結構我がままを言った。

これで「私が別行動したいことが彼女に伝わった」と思った。

Yさんは簡単に承知してくれたので、案外彼女も1人を望んでいたのかと思った。ところが、ホッとして部屋に引き上げたところ、翌日から毎日のように1日4～5回Yさんの来訪がありフリーにした意味がなかった。

1人になりたいと言う私も我がまま、1人は嫌だというYさんも我がまま困った事だ！

こんな時、どのように話せば相手の心を傷つけずに自分の意思を伝えられるのだろうか？

Yさんの心の内を読み切れていない。

因みにラパスの宿泊先は、ホテル・サガルナガ(3ツ星ホテル) US \$15 (1,590円)。

遠くの山並みが見える清潔でサービスの良いホテル。

ウユニの巨大塩湖へ向かう(ボリビア)

2月4日(金)。午後5:30発の夜行バスでラパス(ボリビア)から、世にも珍しい塩の湖へ。目指すはウユニ(街の名前)。

バス代BS100(ボリビアーノ)(1,342円)観光バスは走っていないため地元の人達の方が多いガタガタの路線バス。

南米のバスの多くは高速で、シートも良いバスを使用しているが、この区間のバスは珍しくトイレも付いていない。サービスエリアのあるところは、食事のついでにトイレを借りることも出来た。

が、しかし、数時間走ると、地平線まで何もない。広大な砂の平地に差し掛かると、民家も

見えず、客用のトイレも勿論ない。何処まで行っても隠れる場所ひとつない荒野が続く。用を足す時は、バス周辺で、皆思い思いの方向を向いて用を足す。

この場合のコツは、わずかの窪みを見つけて、座っている人には背を向けるか、横を向いて自分の場所を確保する。私は幸い長めのウインド・ブレイカーを着ていたのでお尻は隠せたが、短い上着やセーターの人達は大きなお尻丸出しで用を足す。

この時、面白いことに気が付いた。多くの男性が、女性と同じスタイルで座って用を足した事だ。この辺りの習慣なのか？この国のマナーなのかは分からずじまい。

始めてこのスタイルを見た時は、男装の麗人？かと思ったが、随分むさ苦しい麗人だったので、直ぐに男だと分かった。

バスは、砂の荒野をウユニの街まで5時間ほど走った。

2月5日(土)の朝9:30。私達にとって、この国の観光のハイライトになる筈の、ウユニの目抜き通りに到着した。

世界一大きな塩の湖がある他は何もない。塩か鉄道関係の仕事をしている人達だけが寄り添うように暮らしている小さな街だ。

だが、街には意外に多くの「飲み屋もレストラン」もある。ここには、定職を持つ人が多いせいか、こんな砂漠のようなところでも、それなりに生活を楽しんでいることが分かる。

全てが塩のホテル(ボリビア)

ウユニの街から1時間ほど塩湖の中を走ったところに建物の外壁・内装・床の全てが塩のブロックで出来ているホテルに到着した。

ホテルの中は、椅子・テーブル・ベッド等家具類も全てが塩なのには驚いた。食事中、塩分が足りなかったら、テーブルや椅子を擦って舐めれば事足りると言うわけ。

外観は、白っぽいブロックのように見える。

周りは全て水で、汚すものがないため建物はお菓子の家のように「塩」と言われなければ分からない美しさだ。

ホテルの中から見える湖の情景は、汚れ色が全くない。竜宮城があるとすればこのような感じか？と思うほど魅惑的であった。

だが、ベッドは、リヤマの毛を布団の代わりにして、何処となく湿っぽい。物珍しくはあったが、2度とこのホテルに泊まりたいとは思わない。

塩湖は、雨季と言うことで、湖の表面全体に4cmほど水が溜まっている。その水が陽の光を受けて虹色に輝く様子は幻想的で、湖と青空が一体となって地平線は見え、巨大な水のカプセルに入ったような錯覚に陥る。塩湖の魔術にすっかり魅せられた。

しかし、このホテル、塩湖の中での生活廃水が環境問題となっていることから、ここにある2軒のホテルは近々閉鎖になると聞いた。

それで良いと思う。残念には思わない。

翌日、塩湖の中にあるサボテン公園にオンボロ車に9人のすし詰め状態で出掛けた。

途中、韓国の若者が「バニョー（おしっこ）」と叫んだ。そして車の後ろで用を足した。

ここの塩は上質で、国内は勿論、外国にも大量に輸出していると聞いたが、いろんな人達の「バニョーの隠し味」が利いているから、上質で美味しくなったのだろうか？

塩のホテルに帰ってみると、観光客が大勢この珍しいホテルを見物している。我々が泊り客と分かるか他愛もない質問攻めにあつた。

Yさんは、誰彼かまわず、気のなさそうな相手にまで熱に浮かされたように話し掛けてている。情報を望んでいない相手にまで無理強いすることは無いと思うのだが…。

観光団が去って、私達もウユニの街に戻った時、Yさんが「アレー、私の荷物が無い！」と騒いでいる。荷物の中には、チリへの国境越えの寒さに備えて、冬の衣類一式と帰りの航空チケットを入れて置いたと言う。「ホテルのテーブルの上に置いた荷物を、ホテルの人達が積み忘れたか、観光団の誰かに取られたか？」とYさんのイライラは募るばかり。

思えばこの1か月半の間に2回荷物をなくしている。出発の時、自分の荷物を確認しないの

は極めて初歩的な過ちで、全く本人の落ち度と言う他はない。又もや事故を呼び込んでいるようなYさんに掛ける言葉もなくなってしまった。

この辺りで、別行動に移さないと楽しい筈の私の南米の旅が痩せ細ってしまう。

国境越え列車は18時間かかった

'05年2月5日（月）早朝3:30発の列車は、ウユニを出発の時から1時間遅れ。

国境越えに備えて、地元の人達は毛布や布団を用意して、暖房が入らない寒い列車に乗り込んでいる（冷暖房の入る清潔な列車を走らせることは、経済的にゆとりのある先進国でなければ出来ないことのようにだ）。

案の定、列車は途中の峠越えの辺りで猛烈に冷え込み、車内の温度は4℃、湿度10%。

今宵は徹夜だ！眠ったら風邪を引く。

寒さにめっぽう強いYさんだが、冬物の衣類を無くしたため、全身鳥肌になり、ガタガタ震えていた。助けてあげたいが、私も人の分までは持っていない。仮に余分を持っていても、大柄のYさんが私の衣服を着られる筈もない。

バスか、鉄道かを選ぶ時、強引に鉄道にしたのもYさん自身だったのだから、この判断を誤ったのは他ならぬYさん自身なのだが、本人がこの事を、自覚している節は微塵も感じられない。

この人に付き合っていたら私は体を壊してしまう。少し荒療治かも知れないが、この寒さの中でこそ、キッパリと別行動を提案しようと思った。寒さと疲労で私の方も気持ちの余裕を失っていたと思う。

それではYさん、ご機嫌よう！

優柔不断に列車に同意してしまった自分自身に腹が立ったせいか、切羽詰った心境だったからか、驚くほど自然に「Yさん、カラマ（ペルー）から別行動にしましょう。体調もあまり良くないので…」と切り出した。

Yさんは、烈火のごとく怒って「今まで、貴方の体調に付き合っ、随分時間の無駄をしてみました。1人ならば夜行バスでバンバン飛ばして、かなり先へ行けた筈だから、ホテル代も

節約できた。この大損害どうしてくれる？」と怒り心頭で、手も、うわずった声も震えている。

Yさんの硬い性格を私は知っているから特に驚きはしなかったが、「ホテル代がもったいない…。云々」には自分の品性をも疑われかねない。私は返す言葉もなかった。やはり関西人は凄い(関西には関係なく、Yさん個人の問題であるとは思うが)。

何度か「先に行って欲しい」と促したときも、彼女の立場になってみれば、「体調不良の友を置いて先には行けない」との思いからだったのかも知れないが、聞くに堪えない悪口雑言を言う割に、臥せっている時の私に対して、特別な心配りがあったようには思えないのだが…。でも、何もしないことが心配りの場合もあるから、彼女なりに気遣いはあったのだと思う。アレだけ怒るには彼女も相当我慢していたであろう事を思えば、申し訳ない事をしたのは私かも知れないと、自問自答。

だが、今度は、Yさんにも私の意思是良く伝わったようだ。

この後、彼女はプンプンに怒ったまま、必要なことさえ口を聞かない。

一緒にいる間はせめて普通に振舞えないのだろうか？ と、こちらが気恥ずかしく、身の置き所に困った。

私も人様のことを、とやかく言えないのだが、Yさんは人との接し方が幼稚で、大人としての社会性が育たないまま大人になった気がしてならない。こちらにも言い分はあったが、Yさんの毒気に当てられて、もはやどうでも良くなった。これから先は別行動になると思えば、あまり苦にもならない。

極寒列車は周りじゅうが砂漠のような、途中駅でチリ入国の手続きをするため、2時間の停車。遙か遠くに雪を被った富士山に似た山がせめて眼を楽しませてくれた。

国境越えの旅人を当て込んで、線路の脇には食べ物屋が並んでいる。私は、ロシア人の勧めに従って、肉じゃが風の物を食べた。見た目は「肉じゃが」であったが、肉は、靴底かと思うほど固いうえ、キツイ匂いがした。

チリのカラマに着いたのは、その日の夜9時30分。何と18時間掛かった事になる。

車中の寒さと疲れで、咽も胃も腸も痛み絶不調の状態でチリのカラマへ入国した。

アメリカ長距離周遊と特筆3題

関西支部 No.957 谷澤 誠一

3月10日、デルタ航空でサンフランシスコ国際空港(SFO)に着いた。

空港から市内への安い移動法はBARTと呼ばれる電車、予約してあるホテルに近い Powell St.の地下駅で降りる。地上へ出たときは西も東も分からないからコンパスで方向を確認して近くのケーブルに乗った。

フリー旅行で特に外国の都市では馴染みのない所では地図(ガイドブックの地図でも)とコンパス(磁石)は山歩きのように必須である。

ケーブルで2ブロック坂を上がって Post Street であることを確認して車掌にホテル住所を示して尋ねると「東へ2ブロック」だと言い、

あまり近いので運賃5\$/1人(高い)は受け取らなかった。

このケーブルではデッキに立っていて運賃を払わない客も多いが今回その後では1日券を買って何回か利用した。

サンフランシスコ(以下SFCと書く)と言えば坂道のケーブル、金門橋、霧、チャイナタウン等が連想されるだろう。この街は風景がよくてアメリカ人が将来住みたい街の上位を占める。

こうして古い小さなホテル(Fitzgerald H.)に入ってアメリカ周遊の1日目を開始した。

このアメリカ行きは半年前に長女が孫2人を連れて大騒ぎをして千葉県柏から、娘婿が商社勤務しているフロリダのタンパへ移り住んだことから、妻がそれまでアメリカには関心を示さなかったのに「アメリカへ行く」と言い出したことから始まった。

どっちみち費用をかけてアメリカに行くならこの際ついでに広くアメリカを見ておくことが得策だから太平洋岸から大西洋岸までU字型に大移動をしてフロリダへ行く案をたてて昨年末に航空券を抑えてチケットを買った。

今年初めは南タイ旅行もしてからマレーシアのキャメロンハイランドの日本語ボランティア、それに続いてアメリカ旅行をしたので目茶々々忙しかった。

航空券は関空-成田-SFC IN、タンパOUT-デトロイト-成田-関空というデルタ航空、アメリカ大陸の横断や東海岸での北上、南下はすべて陸路、鉄道移動で、アムトラックとか使用したUSA レールパス、アメリカ最南部の大陸横断列車、サンセットリミテッド号について最初に触れて順次、旅程に従って書いていく。

アムトラック (amtrak)

アムトラックとはアメリカの半官半民の鉄道会社のことで、現在アメリカの民営鉄道会社は膨大な量の貨物輸送(貨物列車は大型貨車100輛以上牽いているのが普通)だけして採算の合わない長距離旅客列車は全廃してしまった。

そこで連邦政府が乗り出してamtrakを創設し、車輛と従業員だけを持ち、ワシントンDC-ボストン間の東海岸だけは自前の線路だが、その他は民間鉄道会社の線路を借りてアメリカ全土に長距離旅客列車を走らせている。

USA レールパス

アメリカ非居住者向けに発売されているUSA レールパスは15日間と30日間、それ以上長期もあり。

15日間のは¥36,000、15日以内で8回以下という制限が出来たが、全アメリカのアムトラックの列車に乗れる。

このパスで移動できる距離と値段は最大限利用すればその効用は図りしれない。

安全を見て14日、7列車でSFCからロサンジェルス、続いて南部を横断、北上してボストン、引き返し南下、フロリダまでの合計1万km(大阪-東京間10往復に相当)を超える鉄道移動の計画をたてた。

パスは日本では大手旅行社で買えるし、パスポートがあればアメリカでも買える。

SFC(サンフランシスコ)には長距離鉄道は来っていない。対岸のエメリービル(シカゴから到着列車)、オークランド(SFCから南へ出発列車)等からSFCへはアムトラックバスと呼ぶバスが連絡している。

このバスもこのレールパスで乗れるが短距離で1回にカウントされるので私はそれを嫌ってレールパスを使用せず現金で乗った。

SFCやロサンジェルスには以前1度来たことがあるが今回は市内ツアーに乗ったので金門橋(golden gate bridge)を渡ったり一望できる丘に登ったりした。

ロサンジェルスでは前回と同じ、リトル東京と日系人会館へ行ったのみ。ハリウッドなどは遠いし興味も薄く時間も足りない。SFCから近いシリコンヴァレーのハイテク集中エリアも関心はあるが行ってみる余裕はなかった。

サンセットリミテッド号 (SUNSET LIMITED)

サンセットリミテッド号はロサンジェルスからフロリダのオーランドまで、太平洋岸から大西洋岸まで唯一の完全大陸横断する列車名で、しかし途中のニューオルリンズが5年前ハリケーンカトリーナの被害を受けて以来ニューオルリンズ止まりになっている。

週3回だけ、水、金、日に東行きはロサンジェルスから発車する。発車して46時間後、3日目にニューオルリンズに着く。

そんな長時間列車に乗っているのは苦痛ではないか、退屈しないのだろうか?

アムトラックのコーチは座席の足元が広く足置き枠があり座席の下も前に上がって伸ばした足を置ける。背もたれはリクライニング、大き

く後傾して夜も十分眠れる。

寝台車 (sleeper) も 1 等と 2 等があるがパスとは別料金で案外高額で長期間の利用にはコスト面で向かない。

以前 2006 年に、ロッキー越えで有名なカリフォルニアゼファー号でデンバー→サンフランシスコ間で 2 等寝台を使ってみたが狭くて料金ほどの価値はないと思った。コーチの座席で十分眠れるからである。

併結しているラウンジカーは屋根はガラスで抜けていてソファは窓向き、そこにふんぞり返ってコーヒーかビールでも飲んでいけば、俗事のくしゃくしゃは棚上げ、天下泰平、快適で気楽、ゆったりとして移り行く風景を眺めていられる。

中西部のアムトラック列車は 2 階車輻でラウンジカーの 1F はビュッフェになっていてコーヒーやビール、ワイン、ソフト飲料、スナック類、サンドイッチ、ホットドッグ、マルちゃんや日清の Cup Noodle、など買える。1 日 1 回ダイニングカーでディナーをとることにしていたが、他はビュッフェですませた。

以前にアムトラックで同行したことがある人たちは別に鉄道ファンでもないが口をそろえて、全然退屈しなかったと言っていた。エコノミー症候群と言われる飛行機の方が、帰りの延べ 17 時間のフライトがよほど苦痛であった。今回、妻も同じことを言っていた。

鉄道旅行のメリット

上記にもその快適さに少し触れたが鉄道旅行のメリットは飛行機が点から点への移動に対し



て地上の景色を見ながら線で移動するから広範囲を観察できること、特にアメリカなど広大な国土を持つ国の広さと地域変化を実感できることである。

そして実利的には、レンタカー移動のように運転の疲労が無い、事故の不安が 0 にちかい。

また夜、寝ている間にも移動出来てホテル料金を節約できることである。

自分 1 人の旅行なら殆んどホテルを使わない旅もアメリカやヨーロッパならフリーパスを使って計画出来ないことはない。

テキサスの砂漠

そんなわけでサンセットリミテッド号でロサンゼルスで 3 月 14 日 (日) に定刻 14 時 30 分を 1 時間半遅れて発車した。

レールパスの乗車回数に制限があるため 1 回はこの列車のような超長距離列車で目的地に近付いておくのが合理的計画と考える。この 1 列車で 3500km 近く、大阪からハノイに達する距離に相当する。

2 日目は、未明から列車はテキサスの砂漠を走っていた。途中で砂漠の中に石油の町が 1 つあって停車、それ以外駅は無く丸 1 日走り続け、その日の夕方まで砂漠は続き、何と 15 時間かかって砂漠を走り抜けた、なるほどアメリカという国はとてつもなく広いんだ!

3 日目の 16 日 13 時 40 分 (時刻表では 14.30 着) に予定より 1 時間も早くニューオーリンズに到着した。一体何がどうなっているんだろう。

ニューオーリンズ

この町の名でまず浮かぶのはデキシーランドジャズ、ハリケーンカトリーナ、「欲望という名の電車」(A Streetcar named Desire) などだろう。後者のテネシーウイリアムスはこの街で、場面もこの街のフレンチ地区に設定してその戯曲を書いた。エリア・カザン監督、ヴィヴィアンリー、マーロン・ブランド主演の映画を見た人も多いと思う。

ニューオーリンズに Desire Street という通り

がある（日本語に直すと「欲望通り」になる）そこを通る路面電車を劇の題名にしている内容象徴している。

1863年4月南北戦争が終わったあと奴隷から解放された黒人たち（正式にはアフリカンアメリカンという）が戦争が終わって不要になったラップを使って演じ、この街で作ったのがJAZZの発祥、デキシーランドジャズであった。

ハリケーン、カトリーナは2005年8月末、ニューオーリンズを中心にルイジアナ州で1700人が死亡、140人の行方不明という痛ましい犠牲をだした。連邦政府の救援が相当遅れたことも話題になった。

この辺のいきさつは堤美果の「ルポ貧困大国アメリカ」（岩波新書）に詳しい。この本にあるような負の面は素通りの旅行者には見えない。ただ目につくのは異常肥満の人が特に南部で多く見かけることくらい。昔は太った資本家を左翼が揶揄したが、現在はエリートはスマートである。

ニューオーリンズ観光の中心はミシシッピ川に面したフレンチ地区で中でもバーボン通りが最も華やかである。ここはハリケーンで浸水しなかった。

通りでは夜遅くまで多数のPubやライブハウスの至る所からジャズやブルースやロックが響いてくる。

昼間は路面電車に乗ったり人気レストランを訪ねたりして夜バーボンストリートへ行く。

最初の夜はメゾンバーボン (Maison Bourbon)

という店でワインを嗜みながらデキシーランドジャズを聴いた。私はジャズファンでもないのでおおかたの曲名は知らず「聖者が街にやってくる」だけは聞き覚えていた。この店はバーボン通りのほぼ中心にありここのジャズを聴かない観光客はまず居ない、と地球の歩き方に書いてある。入らずに外で立ち見している客も多い、こうすれば無料。

ニューオーリンズのミュージシャンたちはニューオーリンズやルイジアナの宝と言われる。アメリカ内は勿論、世界から観光客を集めているからだ。

ニューオーリンズ2日目

昼間、ミシシッピ川畔堤防上を散歩、川幅が広く大型船も行き交い気分はのんびり・・・

フレンチクォーターのフレンチマーケットひやかし、「フレンチ」がよく出てくるのは昔この州はフランス領だったから。後スペイン領になり今の中心部はこの頃に建設された。フレンチクォーター地区が観光の中心になっている。

夜、疲れていたけれどもう1晩バーボン通りに行かなければ2度とこの町へ来ることは無いだろうから後悔するのではないかと、出掛けた。

レストラン、ガンボショップでニューオーリンズの伝統料理「ジャンバラヤ」というのを食べてみた。米を肉汁で煮てチキンやシーフード、なまずも使って作った混ぜご飯で何とも絶妙、複雑な味、世界でここにしかない料理であった。ミシシッピ河口で取れるかき料理もこの名物だそう。



前日30分待って入った人気レストラン Mothers Restaurant、70年伝統の家庭料理のホットドッグにしても凝ったハムや刻み肉が何とも美味で、このことは、「アメリカ料理」というものは無くてアメリカ人の舌はサンドイッチやハンバーガー、フィッシュ&チップスなど大味しか知らないという先入観を少し変えなくてはいけないと思った。

妻も何か変わったものを注文して賞味していた。

ジャズでもう一つ見逃せないライブハウス、プリザベーションホールの行列に1時間待って入った。ニューオーリンズジャズ保存の目的で開業しているライブハウスである。中で飲食する店ではなくジャズを聴くためにチケットを買って入る。

前日のメゾンバーボンのバンドはクラリネット、サクソ、ベース、ピアノ、ドラムの5人、この日のプリザベーションホールのはそれにトロンボーンが加わって6人で両方とも黒人と白人の混合バンドであった。

セント パトリックデー パレード

さてその後が強烈な驚きで3月17日のアイリッシュの祭り「セント パトリックデー パレード」に出会った。そんな祭りの事知らなかったから偶然である。

バーボン通りはぎっしり人で埋まりグリーン
の衣服、帽子、ネックレスで通りは緑に染まり、
いくつかの通りに面したホテルの階上ベランダ
は見物客で埋まり、道行く人は各所で踊りまく
っている。

アイルランド人ばかりではないだろうがアメリカ人というのは、こんな時底抜けに、とことん楽しむ人種だと実感した。

失業率10%という深刻な社会問題もハリケーンの傷もこの大騒ぎには片鱗も見えない。

パレードは数十台の飾った車でわいのわいのと取り囲む群衆にグリーンプラスチック玉を連ねたネックレスや飴などをばらまいて騒ぎながらゆるゆると通って行く、Missパトリックパレードも愛想を振り撒いて過ぎて行った。妻は



大小10本くらいネックレスを集めてフロリダの孫たちに持って行った。

翌朝次の目的地アトランタへ行く列車の発車時間が早いので終りまで見ずにTaxiでホテル(Queen Crescent H.)へ戻った。

タイトルにアメリカ長距離周遊と「特筆3題」としたのは今回のアメリカ旅行で強く印象に残り特筆したかったのは、1、ニューオーリンズ、それから後述する、2、ケネディ宇宙センター、3、テーマパーク、ブッシュガーデンの絶叫ジェットコースター、の3つをあげたいのが理由。

アトランタ

3月18日、朝5時起床、ニューオーリンズ7.06発、列車名クレセント(Crescent(三日月))夜20.20アトランタ着、アトランタ駅は小さい、taxi乗り場も無い。1日に東行き、西行き各1本しか列車が無いのでは止むを得ないか? 妻が運よく流しTaxiを捕まえた。

車社会と鉄道

車社会は鉄道を衰退させて地球温暖化ガスを増やすことをアメリカでよく分かる。世界の温暖化ガスの22%はアメリカが排出している。ちなみに2位中国19%、3位ロシア5.8%日本4位4.7%、

日本が少ないようだが1人宛に換算すると日本の排出はアメリカの50%強である。

鉄道やバスなど公共交通を衰退させてマイカーやトラック輸送を増やす政策は子孫を地球に住めなくする自殺行為と言える。

鉄道輸送の地球温暖化ガス排出量は単位輸送量当たり自動車輸送の1/7で、鉄道や公共交通利用を利用して自動車による個別移動を避けることは、人類の未来の生存に貢献することになり高次元でも有益である。

アトランタでは夜着いてホテル1泊しかしない、翌早朝ホテルの周辺を歩いてみてコンパスとガイドブックの地図で素早く街の概念と地下鉄線などと行動ポイントを調べ上げなくてはならない。

そして利用したH.Holiday Inn Atlanta Downtownはオリンピック公園やコカコーラの近くと分かった。

19日は「風と共に去りぬ」のマーガレットミッチェルハウス記念館とワールド・オブ・コカコーラ（見学用に作られたコカコーラ社の施設）を見学のみと決めた。

「風と共に去りぬ」は南北戦争時代アトランタを舞台にした、誰でも知っている名作。ヴィヴィアン・リーとクラーク・ゲーブル主演の映画も年輩の人は大方見ているのではないだろうか？

記念館で、昔のタイプライターがあり、よくこんな狭い部屋であんな長編が書けたと思う。それにしても係の英語の説明がもう少し聞き取れたらよいのに・・・

アトランタにはコカコーラ本社がある、創業者は風邪薬の開発をしていて偶然できた液が美味しかったので売り出すことを思いついたという。

ワールド・オブ・コカコーラでは、これでもか、これでもかとコカコーラの様々の展示や映像を

みせられて最後に試飲、世界200カ国の1000種以上のコカコーラ社の飲料を飲めるが、そんなもの何種飲めるだろうか、私は僅かずつ10種も飲めなかった。

ワシントン DC 経由ボストンへ

その日夜、前夜来たのと同列車で20.21発を約1時間遅れて発車、ワシントンDCへ向かった。車中3泊目、翌20日ダイヤ時刻より1時間早く終着のワシントンDCに着いた。毎回遅れて発車して早く到着している。

アムトラックは途中で単線の待合わせなどで、長い時間停車することがある。車内放送を聞いてスモーカーたちはプラットホームに降りて「すばーっ」とやっている。この停車時間を削れば、少々遅れても簡単に取り戻せるし、また気まぐれのように速く着いてしまったりする。東部のアムトラック列車は中西部の列車のように2階客車ではない。

ワシントンDC駅で11.25発ボストンサウス行きのチケットを受け取り列車はまた1時間遅れて発車、ワシントンDC-ボストンの区間は電化されており列車は速く、レジオナルでも150km/h以上のスピードが出るようだ、この区間を走るアセラエクスプレスという列車は高速で200km/h以上、USAレールパスでは乗れない。

フィラデルフィア、それからニューヨークは地下で通り過ぎ20.10ボストンサウス駅に着いた。

間違えて白タクに乗り約2倍、¥1,100.の損失。たいしたことはないが駅の出口で待っていた、パリッとした服装にひっかかった。

ホテルMarriott Copley Place、1室、円換算¥14,500.(今回の旅行では1番格上)に入った。

ボストン、美術館、大学、レッドソックス

今回の旅程にボストンを加えたのは妻の希望に依る。美術館、静か、落ち着き、水準の高い大学、などのイメージがボストンを選ばせたのだろう、松坂大輔が居るレッドソックスもイメージ形成の1つかもしれない、切符の入手は至難だそう。

私は3年以前にNY（ニューヨーク）から1人でボストン美術館へ日帰りしたことがある。

今回ボストンへ来てやはり美術館は外すことが出来ないで10時の開館前から地下鉄グリーンラインDで、地上路面になっているMuseum of Fine Arts 駅で降り開くのを待って入った。

パリのルーブル、ペテルブルクのエミルタージュと並んで世界3大美術館といわれる1つで特に日本美術の収集では世界一である。明治のころモースや岡倉天心等によって収集され、きわめて良好な管理で保存された。

広重等の浮世絵、仏像、曼陀羅その他大量保存しているといわれる。しかし浮世絵は日本に貸し出し中とかで展示は無く以前に見たときより日本美術関連の展示は少なかったのは残念であった。

しかし名古屋の金山駅前にあるボストン美術館が毎回ここから借り出して展示しているので関心があるとき何時でもJRの青春18切符か近鉄休日切符で観に行こうと思う。



ハーバード大学

7人のアメリカ大統領を送り出し多数のノーベル賞受賞者を輩出した、世界100カ国からエリート中のエリートを集めるハーバード大学のキャンパスへ妻の発案で行ってみた。

最近ではルーズベルト、ケネディー、ジョージ・ブッシュがハーバード出身である。

私など逆立ちしても入れないので、もし輪廻が事実なら来生に挑戦することにして今生はキャンパス散歩にとどめた。

ファニエルホール・マーケットプレイス

静かなボストンで1番賑やかで私には楽しい地域であった。レストラン、持ち帰り食品屋、ケーキ屋、チョコレート屋、パン屋、土産品、衣料店など、屋外に2本、屋内1本、賑やか通りがあがる。

大道ヴァイオリン弾きも演奏していて思わず聞き入ると後で少額のチップを入れておく。

夜はチャイナタウンへ、超級市場（チャイニーズスーパー）で買い物、越南料理店でPHO（ベトナム米粉麺）Spring Loll（春巻）等で食事。

翌、22日 南へ出発の日、朝すばやくフリーダムトレイルを1/3程歩いた。

ボストンコモンという公園の中心から道路にひかれた赤線に従って由緒ある建物やアメリカ独立にかかわった跡、など迷うことなく観て回れる。キングスチャペル、ベンジャミン・フランクリン像、ボストン虐殺事件跡（この事件が後、独立戦争につながった）など。

駆け足のニューヨーク

13.40 発ワシントンDC行きで18.00 過ぎニューヨーク（以下NYと略す）pen,Station 駅に着いた。巨大な地下駅である。JRの大阪駅か名古屋駅をそっくり地下に入れたくらいの広さと思える。

NYは激しい雨だった。H.Pennsylvania は“外れ”、駅に近い抜群の立地の巨大なホテルだが広くてピカピカのロビー、レセプションに比して客室はがたがたで清潔では無かった。バスタブは使えず湯も出なかった。フロリダ行き切符が

予定の日を取れなくて2泊の予定を1泊は捨てることにしていたので、ちょうどよかった。

この旅行の出発直前、アトランタまで列車の予約が決まった後、5つのホテル9泊を日本でアップルワールドという日本のネット販売の会社を通じて立地、格、料金をチェックして予約した（SFCの2泊だけはそれ以前予約済）。

NY以外は十分納得できたがNYだけは安いホテルを選んだ自行自得ともいえる。

日本はさておき、アメリカはホテルが高いので長い旅行には経済面でも苦慮する。もし1人の長期旅行ならユースホステルや公共交通で行けるモーテル（少ない）を探すなど工夫が要る。ちなみに今回の旅行では機中泊2、車内泊4、ホテル11泊、内1泊放棄、娘の家6泊であった。今回旅行でホテルは立地を確かめ、良くても★★★クラスの平均約¥9,000.～10,000./1室を選んだ。

翌23日 朝早くブロードウェイやタイムスクエア、5thアベニューを通りセントラルパークまで通勤者の群れに混じって歩いてみた、彼/彼女らの通勤の足は速い。この巨大なビル群のどこかへ入るのだろうが自動車通勤でなく、郊外から来て最寄りの地下鉄駅から職場へ歩いて通勤しているようで東京や大阪と同じである。

NYペンステーションから10.52発マイアミ行き列車でフロリダの娘家族の家があるタンパへ向う。1昼夜以上の移動だ。駆け足のNYだった。

タンパ（フロリダ）の住宅地

フロリダに近づき南下していくとオレンジ畑などが現れ植物相も変わっていく。

住宅街の娘家族の家に着いた24日、市の中心通りへ孫たちも一緒にキューバンレストランなどに案内されたが、翌日は疲れて昼まで寝ていて一歩も外へ出なかった。

住宅地からは何処へ行くにもスーパーも、孫たちの学校も僅かな繁華街も遠くて車が無ければ日常生活が出来ない。アメリカで暮らすには英語が出来ることと車の運転が出来ることが必須である。

タンパに日本人学校は無いので孫たち（2人

とも男、中1と小4）はアメリカの学校に通っており初め英語が全く分からなくてクラスで孤立して強烈なストレスで悲鳴をあげたそう。最初の6か月が大変で、学校は英語の補修してくれるが両親も必死で子供たちに夜英語を教えたと言う。

今は2人とも平気である。

鱷のパークGATORLAND

タンパやその他フロリダには、そこらの池どこでもアリゲータと呼ばれる鱷が居る。人間に関する事故はないそう。

英語のクロコダイルとアリゲータの区別がこれまで幾度も聞いているがまたよく分からなくなった。何でもクロコダイルは先端が四角で凶暴、アリゲータは口先が丸く割とおとなしいとかの従来のイメージだがどちらも鱷は鱷だ。

27日、車でタンパから1時間半ほどのオーランドの1テーマパークGATORLANDへ行った。

夥しいアリゲータ（大きいのは3mもある）が幾つもの池に居て餌づけやショーをやっている。また客を鱷の背に座らせてくれる。私も試してうっかり鱷の足を踏んで鱷が痛がって動いた。これは案内してくれた娘婿他一行6人全員1人ずつ鱷に座った。後日、その時のめいめいの写真の表情を見るとおかしくなる。

大小の水槽や池に数千頭かのアリゲータだらけでそれを1巡、見て回れる園内鉄道がある。



ケネディー宇宙センター

同じ日(27日)午後ケネディー宇宙センターへ行った。オーランドの東、車で2時間位、大西洋岸の厳密にはフロリダ半島から数m離れた広大な面積の島であった。

一般観光用に敷地の1部にIMAXなど見学施設を作っており、入場可能(36\$/1人)で、バスツアーで、発射台を望遠出来る見送り席や組み立て工場の周りなどを回れる。

アポロ11号で月へ行った3人をのせて地球に戻ってきて海へ飛び込んだ円錐形の制御室(司令塔)や、大阪EXPOのアメリカ館でも1970年に見た月の石、それにサターン5型ロケット(1969年に7月、月着陸したアポロ11号と同型、直径10m、長さ110m)などの展示があった。サターン5型ロケットの展示は圧巻、その巨大さに圧倒された。

それにしても最後に地球に戻ってきて海に着水するのは直径3m、高さ1.5m程の小さな円錐形の司令塔だけ(アポロ11号では3人の宇宙飛行士がこれに乗って戻った)である。



地球を出発するときの直径10m、高さ110.6m、2812tonもの数段の巨大なエンジン付き燃料タンクなどは地球引力を振り切るための秒速8000mを超えるスピードを得るためと月面脱出などのためで、用済みになると、地球の海や月面や宇宙に次々捨てる。壮大な廃棄物である。

その後開発されたスペースシャトルは出発時の長さはサターン5型の半分くらいしかなく、3本の燃料タンクロケットに蟬が止まっているように張り付いて上がるシャトル機体は中型旅客機くらいの飛行機と弾丸の中間のような形をしている。

これはサターンロケットのように海に降りず陸上滑走路に降りるようになった。

機体に比べて翼が小さいから当然着地時の瞬間スピード(普通ジェット機は220~250km/h)が速く、長い滑走路が必要だろう。その辺の空港には降りらず、フロリダ宇宙センターかカリフォルニアの2か所しか降りられる滑走路は無いようだ。機体は繰り返し使用できるがすでに30年の歴史を持ちスペースシャトルは今年いっぱい退役する。

閉館前時間ぎりぎりでもImaxを観た。4D宇宙船内、無重力の映像は立体だから自分もそこに一緒に乗って浮いている感じ。

なお4Dとは3Dが立体の意味で、それに時間が加わって動く映像だからから4Dと呼ばれることがある。やがて世界は映画もTVも3D(4D)時代に入る。

山崎直子宇宙飛行士が9日後の4月5日にここから飛び立って、この原稿を書いている時点



(4月19日)ではまだ宇宙に居て帰還のためフロリダの天候回復を待っている。スペースシャトルでは日本人最後の宇宙飛行士である。

オバマ大統領は将来火星へ有人飛行をしようとぶち上げたし、山崎直子飛行士も次は火星へ行きたいと発言している。

このセンターの見学が出来たことはこの旅行で最も大きい収穫だった、と思っている。

テーマパーク「ブッシュ・ガーデン」

パソコンで買ったブッシュ・ガーデン（パドワイザービールの持ち株会社の経営）のチケット約¥7,000。（2日間有効、カード払い）は安くはないから短時間入場には向かないので自分1人とりあえず入場した。

タンパにあるこのテーマパークはアフリカがテーマで広大、それと絶叫ジェットコースターを売り、にしている。

2700頭いるというアフリカの動物、犀、象、フラミンゴ、等々はパーク内鉄道で観て回った。

地元で人気のあるのは落差60mを垂直落下（完全垂直）するジェットコースター、2回目の垂直落下は落差30mで、作られた廃城の屋根に落下、屋根の破れ目から中に飛び込む。

それから水面を激しく滑走して周囲の客をぼとぼとにして停止する。故意に水をかけられて喜んでいる輩も居てめでたい。

このコースターには心臓麻痺をおこしてはい



けないと家族に乗るのを止められた。娘は乗ったことがあるそうで「怖いと言ってもそれは一瞬だよ」と言っていた。

120mもの高さの木材で作られたコースターもありレールは複雑に園内を駆け巡るから5基あるジェットコースターが広域で絡み合っ、あちこちまるでジャングルのようなのだ。

夕方、娘や孫も来て垂直落下を除いた4基に次々乗ったが、120mも高いところへ上がるのだから周囲の景色はよい筈だ。しかしレールの前方を必死で見て構えているのがせい一杯で、景色を見るなど論外、自分が逆さで居るのか、横か、まともかさえも分からなくなる。

これでもか、これでもかと次々に宙返りや螺旋落下を繰り返して奈落に引き込まれる恐怖を感じ、左右に振り回される衝撃、縦曲線での瞬間無重力、横向き、逆さまなど繰り返して高い料金を払って、これほどひどい目に遭うことに腹が立ってくる。

娘も、以前に木造のコースターで、木だから激しくないと思って載せたら、子供が目を開けても居られない急落下の連続で、小さい子供をひどい目に遭わせる、と怒っていた。

日付変更線と時差、きつい時差呆け

3月31日帰国した。

往路、航空機が太平洋を渡るとき日付変更線を越える、そして暗くなり短時間、夜を過ぎてアメリカに到着すると同じ日の日本を出発した時間より数時間遡っている。結果、長時間起きていることになる。1日に2日分の時間があっ

て得した気分。

復路は北寄りにカナダやアラスカ上空を通るからベーリング海峡で日付変更線、それを越えると、夜が無いのに翌日になる。朝アメリカを出発したら夜がないまま翌日の夕方日本に着く。

目茶々々勘が狂って特に帰国した後、ひどい時差ぼけを起こす。これはヨーロッパから帰った時よりはるかにきつい。

アメリカで西部から東部へ移動すると3回、途中で各1時間ずつ時差調整が必要で西部、中部、東部はサマータイムが実施されるが山間部(ロッキー、マウンテンタイム)はそれが無いので複雑、今回の旅行中14日からサマータイムに切り替わった。まちがうと列車を乗り外すなど大失敗をすることになり神経を使う。

アメリカで移動中、日本時間を考えても混乱してまず当てられない。

日本へ電話の必要もあるので、予備の時計を持ちこんで日本時間のまま触らないとか、日本の携帯を見るとか工夫が要る。

日本との交信、フロリダの娘との連絡や移動中ホテル到着が遅くなる時など電話には、日本から持ち込んだ携帯(国際対応機種)でメールも含めて何とかした。

情報収集

2006年に3月、ワシントンDC-シカゴ間往復と10月にシアトル-シカゴ-デンバー-SFC間のUSAレールパス利用鉄道移動経験がありそれが今回の計画や移動ノウハウのベースにな

っている。

利用した旅行社

H I S 梅田、トラベルワンダーランド

ホテル予約

アップルワールド社(インターネット予約、ホテルバウチャーは自分でプリント)

携行した資料

地球の歩き方アメリカ '09,10版、ダイヤモンド社

Overseas Timetable 1, 2月2010版、Thomas Cook社

その他 現地入手のTimetable、地図、パンフなど

費用集計(2名分)

航空運賃(sir charge 込)	¥232,100.
USA レールパス×2	72,000.
交通費(電車、タクシー等、家出発から旅行中、帰宅まで)	30,976.
ホテル(11泊)	108,000.
AIU 海外傷害保険(本人+家族)	16,870.
サンフランシスコツアー	8,463.
入場料(ジャズライブ、美術館、テーマパーク等)	17,417.
飲食費(食堂車、レストラン、スーパー、コンビニ購入等)	76,902.

合計(2人分)	¥564,730.
1人分	¥282,370.

(個人的土産品等は含まず、1 us \$ = 91円で換算)

支 部 便 り

関西支部便り

関西支部長 No. 891 徳永 卓雄

徳永支部長を選任～関西支部の新執行部発足

6月19日の支部総会で、新支部長として徳永卓雄さんの就任が承認されました。また新役員として大川泰永さん、坂本清子さん、菅憲三さんの就任が承認されました。

徳永支部長の下、役員一同心を一にして明るく楽しい支部の運営に努め、支部の発展に貢献していきたいと思っておりますのでよろしくお願いたします。

新しい関西支部執行部の体制です。

支部長	891番	徳永 卓雄
副支部長		
総 括	957番	谷澤 誠一
催 事	816番	有元 義晶
総 務	753番	大西 清
会 計	811番	山本 嘉雄
企 画	672番	丸山 百合子
	173番	平山 三雄
	501番	大川 泰永
会 員	1210番	亀尾 弘之
	(兼務)	大西、平山
広報・通信	632番	河南 裕子
	1338番	坂本 清子
監 査	1154番	菅 憲三

6月例会のテーマ

6月19日、総会に引き続き例会が開催されました。

・海外移住を考える～1336番 稲富惇浩さん
 ・ダバオ生活3か月～811番 山本嘉雄さん
 それぞれのテーマについて体験発表があり、17時からいつもの居酒屋「呑」に移行し懇親会を開催しました。



挨拶する徳永支部長



稲富惇浩さん



山本嘉雄さん

「関西ゆりの会」結成、～第一回食事会の開催～

企画担当 丸山さんの呼びかけで女性だけの食事会を、4月25日に北区のレストラン「なにわ食彩しずく」で開催、8名が参加しました。名称を「関西ゆりの会」とし今後定期的で開催して親睦を深めるとともに「例会」への女性の参加を呼び掛けることにしました。



「関西ゆりの会」食事風景

親睦ゴルフ会の開催

4月15日、今年第1回のゴルフ会を開催しました。場所は兵庫県の「オリエンタルGC」で平山さん以下4名が参加しました。

(以上)

東海支部便り

東海支部長 No.543 清水 重一

定例会、サロン会

東海支部として、予定どおり夏の定例会及びサロン会は実施します。毎年この季節は「涼」を求め会員の皆様は海外及び国内の避暑地に行かれます。

従って、会としては参加者が少なく、残された会員で例会を開催します。

猛暑の中、残された会員だけのお寒い定例会になるのではないかと心配しています。

しかし、楽しみにしている会員、参加者の為にも気分を変えて、少人数でも中身の濃い定例会、サロン会にして行きたいと考えております。

会員の予定を見えますと

- アメリカ、コロラド州、デンバーへ一人旅 60日間
- アメリカ、ハワイ州 数人の会員 40日間
- タイ チェンマイ 数人の会員
- 国内旅行 相当数の会員様が避暑を目的に活動しております。

東海支部としての支部便りは今回はこのような状況ですが、活動的な会員の集まりなので、次号の支部便りを楽しみにして下さい。

ペナン支部便り

ペナン支部長 No.1020 松下 茂

1、支部長交代について

4月1日をもってペナン支部長を川崎氏より引き継ぎました。

ペナンに移住して四年目とまだ経験も浅く何もわかりませんが、一生懸命がんばりますのでよろしく願いいたします。

ペナンにお越しの際はお気軽にご連絡ください。

携帯電話 010-386-3502
メールアドレス yoko-papa@hotmail.co.jp

2、支部活動について

①総会及びサロン会

昨年の2回から年3回の開催に変更

②支部会員相互の情報交換

南国ペナンメールの充実

③支部会員サークル活動の実施

ゴルフ大会、釣、ボーリングなど

今年のペナンは暑いで～す。これも世界的な傾向ですかね。

例年ですと1月～3月は乾季で暑いのは、当たり前ですが、今年は4月、5月と雨も少なく連日35度の乾季の暑さが続きました。

やっと6月の声を聞いてから、朝夕雨が降りしのが易い気候になってきました。

そして今ペナンは”果物の王様ドリアン”の

季節になっています。

島の西側のバリ・プラウの一带（通称ドリアン街道）で”ドリアンフェア”が開催されておりペナンのメイン道路に告知ポスターが沢山貼られています。

残念ながら私はドリアンは大の苦手です。家内は好物で食べたいのですが我が家への持ち込みは、マレーシアのホテル同様、絶対禁止状態です。

ドリアン好きにはたまらない季節の到来でしょうね。

南の会会員の皆様、日本の夏よりペナンの夏は涼しく過ごしやすいですよ。

ぜひ一度、熱帯夜の日本より避暑？でペナンへお越しください。待っています。

関東甲信越支部便り

関東甲信越支部長 No.1125 佐々木 一信

このたび関東甲信越支部長の役割をすることになりました #1125佐々木です。前任者の馬場支部長そしてお世話役の皆様長い間ご苦労様でした。

馬場さんは理事長としての健闘をを祈りすると共にご指導を賜りますようお願い致します。

関東甲信越支部の主な仕事は「毎月のサロンの開催」です。全員の参加で活発な情報交換の場にするよう心がけます。

支部のスローガンは前年度から引き続き「楽しく、仲良く、情報交換」を掲げ運営をしていきます。

諸先輩の築かれた実績を汚さぬよう、微力ですが役割を支部お世話役と共に果たしていきます。

お世話役は全理事と240菊地範夫、470細田良子、923永田隼人、1309青木一義、434大野悦子の各氏を加えて運営をしていきます。

お世話役の構成

支部長 1125佐々木一信

副支部長 750小松勝正 1068山科滋雄

1256大塚眞一 1230吉野正博

会計 434大野悦子 489加藤久子
755岩井文哉
監査 462小林孝

毎サロン会当日11時より支部世話役会を開催。

支部会員の皆様の一層のご協力をお願いいたします。



九州支部便り
九州支部長 No.581 朝永 清壽

4月3日(土)熊本例会の開催

午後1時から熊本市市民活動支援センター「あいぽーと」において、情報交換会を開催しました。

参加者は31名(オブザーバー4名)、一時帰国中の会員をはじめ鹿児島から山口迄の多くの会員の発表があり、お役立ち情報満載の充実した会になりました。

最新のLS報告として

○穴見保彦御夫妻の「シニア割引を徹底的に活用したハワイ滞在」。

○高田和夫御夫妻の「コタキナバル、ラナウ他のステイ(特にゴルフ)」。

○チェンマイにステイ中の江上信一御夫妻の「チェンマイにステイするにあたっての住居選びのポイントやチェンマイのお勧めポイント」。

○チェンマイで日本語教師をされている鍋島尚様の「バンコクからチェンマイへ転居」。
等プロジェクター(ミュージック付)を使つての報告となりました。

LSお役立ち情報として

出発から帰国までのトラブル、ハプニング、失敗事例等々誰もが一度のみならず二度三度と体験しそうな事例をお互いに、具体的に出し合い、その対処の仕方及び再発防止について皆わが身におきかえてデスクッションしました。(カードの種類による保証については各自改めてチェックしたほうが良さそうですよ・・・)

<懇親会>

懇親会は28名出席し、飲む人も飲まない人も和気あいあいと熊本での夜を楽しみました。

7月例会の開催

博多は山笠の季節、時折激しい雨の降る中、九州支部で昨年亡くなられた会員に哀悼の意を表し、1分間の黙祷を捧げたのちに九州支部連絡総会及び情報交換会を開催しました。

日時： 7月4日(日) 13.30～16:30

懇親会 17:00～

場所： 福岡市 NPO ボランティアセンター

出席者： 正会員 33名(内委任状 15名)

家族会員 7名

深松副支部長司会のもと総会及び情報交換会を実施しました

<総会>

1. 稲田支部長挨拶

東京で開催された役員会、支部長会、総会及び関東甲信越支部サロン会の報告がありました。

2. 定期支部総会 (議長 1206 相川)

* 第1号議案 平成21年度事業報告書(稲田)

* 第2号議案 平成21年度決算報告書(國武)

* 第3号議案 平成22年度事業計画案(稲田)

* 第4号議案 平成22年度収支予算案(稲田)

* 第5号議案 役員の信任について (稲田)

支部長 581 朝永清壽

副支部長 920 國武光慶

会計 651 穴見安彦

監事 1362 菅田規久

以上、担当役員から説明があり、満場一致で議決されました

今回、役員が交代し、新体制になりましたので、新旧役員から挨拶があり、総会を終了しました。

* 支部長 851 稲田聡 → 581 朝永清壽

* 副支部長 652 深松幸康 → 920 國武光慶

挨拶要旨

稲田 4年間ありがとうございました。ロングステイの定義はなく時代とともに目的も変化します。

朝永 会員の皆様の一致協力をお願いしたい。

深松 会が硬直化しないよう新しい風を吹き込んで。

<情報交換会>

1. キャメロンハイランド、イポーにステイして(1132 菊地勲雄様)

チェンマイが暑くなり、3月2日からいまはやりのエアアジア(荷物の重量オーバーに注意)で6年ぶりのキャメロンハイランドにステイした菊地さん、美しくも厳しいトレッキングコース他たくさんの思い出のつまった写真を利用し説明してもらいました。

2. アンコールワットの印象(851 稲田聡様)

稲田さんらしくカンボジアの歴史と地理の説明からはじまったアンコールワットの遺跡は写真からも壮大さ、彫刻の緻密さ、膨大さをうかがうことができました。もし、行かれる場合はアンコールワットとトムを2回行かれるのがおすすめでそうです。

<懇親会>

場所を天神のアーケホテル内「花水木」に移し22名参加のもとホテルオーダーバイキングを楽しみながらおおいに懇親を深めました。

北海道支部便り

北海道支部長 No.1009 佐藤 治巳

22.7.14

1 2010年第1回北海道支部情報交換会

- (1) 日時 H 22.6.5 (土)
- (2) 場所 かでる2.7
- (3) 参加者 24名(関東支部から2名参加)

(4) 議 事

- ア 支部長会の報告
- イ 会計報告
- ウ 役員改選(新支部長にNO.1009 佐藤治巳氏が決定)
- エ 新入会員様の紹介
- オ 北海道に滞在中のNO.1315 広上様(関東支部)の北海道滞在記
- カ 長期滞在報告
 - ・NO.111 堀江幸博様のヨルダン旅行の報告
世界遺産の「ペトラ遺跡」のお話や死海・アンマン等、中近東の珍しいお話を写真を見ながら聞く事が出来ました。
 - ・NO.609 三島様ご夫人のチェンマイ旅行の報告
ご家族で行った方の女性から見た、チェンマイの体験ということで、チェンマイ＝ゴルフの概念を外れてユーモアあふれるお話に新鮮さを感じました。

(5) 懇親会

PM5:00～そば徳で実施

25名の方が参加し活発に意見交換がなされ、中には1年ぶりの再会もありましたがここでも有意義な情報交換が出来とても2時間では足りない位大いに盛り上がりました。この店は通常は空いていない時間帯なのですが、参加人数を言ったら特別に開店してもらいました。

2 女性ミニサロン会 22.7.9 (金)

恵庭市；えこりん村 参加者 5名

何時もの女性サロン会は札幌で開催していましたが、今回は恵庭市在住の会員さんに企画していただき、レストラン・ガーデンパーク・ドックラン・等「花」と「動物」と「ショッピング」をテーマにした環境に配慮した複合施設「えこりん村」に行ってきました。

曇り時々晴れというお天気に恵まれ、30ものテーマガーデンがある「銀河庭園」を植物に詳しい会員さんが次から次と花・草・木の名前を教えていただきながら、ガイドさん付きの様に散策する事が出来ました。

食事野菜がとても美味しく、レストランでは2時間、海外のお話に始まって健康・年金と話が進み笑って・食べて・お喋りをして北海道の短い夏を楽しむ事が出来ました。

帰りには次回「秋の北海道」の計画の話題が出ました。

3 ふれあいゴルフコンペ 22.5.21 (土)

シャムロックカントリー倶楽部(千歳) 参加者10名

当日は、天候に良く風もなく条件に恵まれ大変楽しいふれあいゴルフでした。

次回は9月18日(土) クラークカントリークラブを予定しております。

4 第2回北海道支部総会

10月2日(土)「かでる2.7」を予定しております。

5 その他

全国から北海道ツアーや体験移住（長期滞在）の希望者が増えておりますが北海道支部総会や各ミニサロン回、ふれあいゴルフの予定日に合致した時は是非参加され情報を戴ければ幸いですと考えております。

歴史は古い日本との関係

バギオ・パンガシナン支部長 No.227 齋木 一

バギオ・パンガシナン支部 齋木 一です。

この会報が会員の手元に届く頃は、日本は多分残暑が激しい時期でしょう。

フィリピンの北ルソン地方は、雨季後半で台風シーズン真っ盛りです。

北ルソンの雨季明けは年によって異なりますが、通常10月後半には雨の日が少なくなり、11月からは殆ど連日晴天の乾季に移行します。この乾季の期間が高原の町バギオの季節です。

日本では余りなじみの無い地名のバギオ・パンガシナンですが、日本人との繋がりが過去から深い事も知る人は少ないでしょう。

雨季の期間活動の少ない支部なので、今回はバギオ・パンガシナンについてのABCを紹介する事にします。

フィピンと日本との関係はパンガシナンからスタートしました。日本の戦国時代、16世紀には既に日本との交易がスタートしていて、1571年にはバギオ山塊を源流としてパンガシナン平原を流れる大河、アグノ川河口にアゴーと言う町があり、「日本人の港」と呼ばれていたとの記述もあります。

バギオと日本人との関係は、20世紀になってからの事です。1898年にスペインからフィリピンの割譲を受けた米国が、マニラの暑い夏を避けて行政機能を夏の期間バギオに移しましたが、そのバギオへの登山道路の建設に日本から多くの工夫が雇われたのが発端です。

バギオへの登山道路建設の為に1903年に初めて日本人が北ルソン、ベンゲット州に入植しました。1905年登山道路は完成しましたが、その後バギオの町づくりにも従事し、戦前

東洋一と謳われた近代的避暑地作りの中心的な役割を担いました。

「夏の首都」、「松の都」、「バラの町」、はては「フィリピンの軽井沢」とも呼ばれる様に迄町が発展したのは移民日本人の貢献があってこそでした。

今、バギオは大きく発展し、海拔1500mの高原の避暑地であると共に、人口30万人を超える大都会になっています。

パンガシナンはマニラとバギオを結ぶ幹線国道を中心に発展しています。

かつては多くの鹿が群れ遊んだ大平原は今はフィリピン有数の穀倉地帯です。南シナ海沿岸地方は、海のリゾート地帯として開発されています。

現在、バギオ・パンガシナン地区に住む日本人は、合わせても500人にも足りませんが、その環境の良さは欧米人には以前から注目されていました。

特にバギオにはご夫婦で老後を過す人達が多く、フィリピンには珍しい米国調の街並みと共に、国際都市らしい風景となっています。

パンガシナンもここ数年、物価が高いマニラを避けて移住する外国人が増えて来ています。私の住む田舎町ウルダネタにも外国人クラブが結成される程です。

パンガシナンの良さは、豊富で廉価な海の幸、山の幸に囲まれている事で、生活費が日本の三分の一から五分の一程度で済む事でしょう。

支部としての活動は、メールへの情報発信が中心ですが、「南国暮らしの会」の支部としてのボランティア活動を積極的に行っています。

今迄、多くの会員の方々に滞在中このボランティア活動に協力して頂きました。特に小学校に対しての活動は実績がどんどん高まって来ています。

これからも、L S適地としてのバギオ・パンガシナン地区の情報提供を続けたいと考えています。フィリピンで最も日本との関係が古い地区が、最も新しいL S適地として日本で脚光を浴びるのが私の夢です。

部 会 伝 言 板

会 報 部 会

担当理事 No.1125 佐々木 一信

今号より会報委員が刷新され、新しい委員で会報作りを行っております。会員の皆様に読んで楽しく、為になる会報（情報交換誌）にしたいと張り切っております。然し今まで係わった事のない素人集団です。気がついたことやアドバイスをお願い致します。

夏秋合併号は750小松勝正さん、1041中西岩夫さんが担当しました。初めての仕事です。MLでの原稿募集で大分苦勞されたようです。これは会報委員が皆経験することです。情報交換の場であり、南の会の顔でもあります。皆で楽しい会報作りに参加いただくようお願い致します。皆様のお手元に届けるべく、発送作業も会報委員を中心に会員、理事の協力で行っております。ご協力頂ける方は理事、支部役員にお申し出ください。

次号、新年号は1月の発行です。担当は1309青木一義、1125佐々木一信が担当します。宜しくお願い致します。

友好団体紹介コーナー

- ★財団法人ロングステイ財団
<http://www.longstay.or.jp>
- ★チェンマイロングステイライフの会
(CLLクラブ)
<http://cll.thaijp.net/>
- ★ワールドステイクラブ (WSC)
<http://homepage3.nifty.com/worldstayclub/>
- ★THE JAPAN CLUB OF KUALA LUMPUR KL
(クアラルンプール) 日本人会
<http://www.jckl.org.my/>
- ★北ルソン日本人会 (LANL)
<http://janl.exblog.jp/>
- ★バンコク日本人会
- ★西豪州日本クラブ

編 集 後 記

今回から会報は、年4回から年3回に変更されました。春、夏、秋、冬の4回から、春号、夏秋号、冬号の3回になりました。理事会で検討に検討を重ねた結果で多々理由はあると思いますので、ご理解頂きたいと思います。

会報はまさに会と会員を繋ぐきずなみたいなものであり、南国暮らしの会の活動を会員に、会員の活動を他の会員に伝える唯一の会報誌です。

夏秋号が皆様のお手元に届く頃は国内も残暑厳しく、国外にステイされている会員も南国暮らし、そんな中にお届をさせて頂く事になります。今回は理事長の交代、新しい役員の就任、等々体制も変わりました、また、支部長も一部交代されています。そんな情報から、特集は台湾にして投稿をお願い致しました。お陰さまで会員の皆様から多くの投稿を頂きました。有難うございました。

台湾のみならず、中国、アメリカ、アンデス、コタキナバル等々の記事も集まり、読んで頂ければ、会報の中で他の国の文化に触れる事、他の国を知ることが出来るのではないかと思います。

専門家と違い、素人が編集を担当するという事で一からのスタートです。従って経験された方からの指導に頼りながら何とか発行に漕ぎ着きました。原稿の提供に協力して頂いた会員の皆様、数多くの皆様のご協力の上に会報が発行される訳ですので是非とも、お読み頂きますようお願い申し上げます。

尚、次号は2011年春号（新年号）です。数多くの投稿をお願い致しまして編集後記とさせていただきます。

会報 夏・秋号 編集担当

NO 750 小松勝正

NO1041 中西岩夫

南国暮らしの会 支部一覧

2010年8月現在

支 部 名	会員番号	支部長名	e-mail アドレス
北海道支部	1009	佐藤 治巳	ja8satoh@snow.ocn.ne.jp
東北支部	498	氏家 孝	takashiujiie3322@yahoo.co.jp
関東甲信越支部	1125	佐々木 一信	gogo.k.sasaki@kvf.biglobe.ne.jp
東海支部	543	清水 重一	shimizu434@mwd.biglobe.ne.jp
関西支部	891	徳永 卓雄	michitac@ares.eonet.ne.jp
九州支部	581	朝永 清壽	ktomo581@yahoo.co.jp
マニラ支部	※1269	岩崎 宏	iwasaki@friendshipmanila.com
セブ支部	※ 636	鶴岡 照郎	telu@wave.plala.or.jp
バギオ・パンガシナン支部	227	齋木 一	saikihajime@hotmail.com
ダバオ支部	—		
バンコク支部	—		
チェンマイ支部	54	山口 洋二	obito2006kyotai@yahoo.co.jp
クアラルンプール支部	1050	野村 晃正	sun1403jp@yahoo.co.jp
ペナン支部	1020	松下 茂	yoko-papa@hotmail.co.jp
ハワイ支部	699	大黒 均	hitdikok@hotmail.com
ゴールドコースト支部	※ 586	磯崎 興志	isozakiks586@w4.dion.ne.jp
パース支部	—		

※ は支部長代行

写真ご提供有難う御座います。

表紙：写真は No. 732 馬場 章介 さんのご提供です。

「スカイツリー・2010年7月に言問橋の浅草側から隅田川越しに撮影。

現在約400メートルの高さになり、最上部は展望台を工事中です。」

裏表紙：会報編集委員会の提供です。

「南国暮らしの会」からのお勧め

*** 自己責任 * 納得の上 * 自己決定**

南国で不動産等の買い物をするときは、すぐ買わず、情報を幅広く集めて、自分の目で確かめて、しばらく試してみて納得してから、自分の責任において自己決定する。

【連絡先一覧】

- (1) MLメールアドレスの変更 mail.iinkai@gmail.com
- (2) 会員関係（住所変更など） kaiin.bukai@gmail.com
- (3) 経理関係（会費、名刺ロゴマークなど） keiri.iinkai@gmail.com
- (4) その他一般 home@minaminokai.com

(メールには用件の他に会員番号、氏名、ご自分のメールアドレスを明記して下さい。またMLメールアドレス変更の場合は、ウイルス防止のためご利用のウイルス防止ソフト名あるいはプロバイダのウイルスチェック契約の有無を追加してください)

【編集委員】

No.1125	佐々木 一信	No. 750	小松 勝正
No. 470	細田 良子	No. 513	青木 方子
No.1017	光城 保之	No.1041	中西 岩夫
No.1067	手石方 了成	No.1230	吉野 正博
No.1309	青木 一義		

記事の無断転載・複製を禁じます。

発行者 特定非営利活動法人（NPO法人）

「南国暮らしの会」

©minaminokai

理事長 馬場 章介

〒140-0002 東京都品川区東品川3-22-20-1208

<http://www.minaminokai.com/>

E-mail: info@minaminokai.com



投稿写真コーナー



チェンマイ

